

# Remark Quick Stats<sup>®</sup>

For Remark Office OMR 9

## ユーザーズガイド

日本語版

株式会社ハンモック



## 改版履歴

版	日付	内容
初版	2017 年 01 月 20 日	新規作成

# 目 次

---

目 次.....	1
<b>REMARK QUICK STATS の概要.....</b>	<b>5</b>
1.1 REMARK QUICK STATS のワークスペース .....	6
<b>テストの評価.....</b>	<b>7</b>
2.1 テスト評価の概要.....	7
2.2 簡易採点を使用するには.....	7
2.3 高度な採点の概要.....	8
2.3.1 高度な採点 - テストオプション.....	10
2.3.2 高度な採点 - 回答キー .....	15
2.3.3 高度な採点 - 質問のプロパティ.....	17
2.3.4 高度な採点 - 学習目標.....	20
2.3.5 高度な採点 - テストバージョン.....	21
2.3.6 高度な複数テストバージョンのインポート.....	24
2.3.7 データ変換の作成 .....	25
2.4 テスト評価レポートの概要.....	27
2.4.1 レポート 100 - テスト分析レポート .....	28
2.4.2 レポート 101 - 生徒統計レポート.....	30
2.4.3 レポート 102 - 比較評価レポート.....	35
2.4.4 レポート 103 - クラス頻度分布レポート.....	38
2.4.5 レポート 104 - 生徒のスコアヒストグラムレポート.....	40
2.4.6 レポート 105 - 生徒の回答レポート .....	42
2.4.7 レポート 107 - 評価分布レポート.....	45
2.4.8 レポート 111 - 学習目標レポート .....	48
2.4.9 レポート 112 - 生徒の成果レポート .....	52
2.4.10 レポート 150 - 生徒の評価レポート .....	56
2.4.11 レポート 160 - 生徒の回答類似性レポート.....	62
2.4.12 レポート 201 - 詳細項目分析レポート.....	64
2.4.13 レポート 203 - 項目分析グラフレポート.....	67
2.4.14 レポート 204 - 要約項目分析.....	69
2.4.15 レポート 206 - 要約テストレポート .....	72
2.4.16 レポート 220 - 統合項目分析レポート.....	76
2.4.17 レポート 310 - テスト統計レポート .....	79
2.4.18 レポート 320 - テスト項目統計レポート .....	82
2.4.19 レポート 330 - 比較項目レポート.....	86
2.4.20 レポート 401 - 項目別の回答レポート.....	88
2.4.21 レポート 402 - 回答者別の回答レポート.....	91

2.4.22 レポート 500 — 項目別比較変更回答 .....	94
2.4.23 レポート 510 — 生徒別の変更比較回答.....	97
2.4.24 レポート 520 — 項目別の回答変更レポート .....	101
2.4.25 レポート 530 — 生徒別の回答の変更レポート.....	103
<b>調査などテスト以外のフォームの分析.....</b>	<b>106</b>
3.1 調査分析の概要 .....	106
3.2 簡易調査の使用 .....	106
3.3 高度な調査の概要.....	107
3.3.1 高度な調査 - 開く .....	107
3.3.2 高度な調査 - 質問のプロパティ.....	108
3.3.3 高度な調査 - 分析グループ.....	110
3.3.4 高度な調査 - 質問の重要性.....	111
3.3.5 データ変換の作成 .....	111
3.4 調査分析レポートの概要.....	113
3.4.1 レポート 202 — 詳細項目分析レポート.....	114
3.4.2 レポート 203 — 項目分析グラフレポート .....	117
3.4.3 レポート 204 — 要約項目分析レポート.....	119
3.4.4 レポート 205 — 基本項目分析レポート.....	122
3.4.5 レポート 207 — 統計による要約項目分析.....	124
3.4.6 レポート 208 — 統計による基本項目分析.....	127
3.4.7 レポート 220 — 統合項目分析レポート.....	129
3.4.8 レポート 321 — 項目統計レポート.....	132
3.4.9 レポート 340 — クロス集計レポート .....	136
3.4.10 レポート 350 — 比較項目レポート .....	138
3.4.11 レポート 360 — 質問平均レポート .....	141
3.4.12 レポート 370 — 分析グループレポート.....	143
3.4.13 レポート 401 — 項目別の回答レポート.....	146
3.4.14 レポート 401 — 回答者別の回答レポート.....	149
<b>REMARK QUICK STATS の一般的な機能 .....</b>	<b>152</b>
4.1 REMARK QUICK STATS 内での並べ替え .....	152
4.2 スクリーンキャプチャ .....	152
4.3 REMARK QUICK STATS 内でのフィルタリング.....	153
4.3.1 レポートバッチの使用 .....	153
4.3.2 レポートデータのフィルタリング .....	155
4.4 カスタムレポートヘッダー .....	157
<b>レポートの保存 .....</b>	<b>160</b>
5.1 レポート保存の概要 .....	160
5.2 REMARK QUICK STATS 形式でレポートを保存する .....	160
5.3 レポートを PDF 形式にエクスポートする .....	160
5.4 レポートを HTML 形式にエクスポートする .....	161

5.5 レポートを TIF 形式にエクスポートする .....	162
5.6 レポートをテキスト形式にエクスポートする .....	163
5.7 レポートを RTF 形式にエクスポートする .....	164
5.8 テキストデータと結果のエクスポート .....	164
5.9 数値データと結果のエクスポート .....	165
5.10 評価結果をテスト項目データとしてエクスポートする .....	167
5.11 成績表エクスポートの概要 .....	167
5.11.1 標準の成績表形式を使用するには .....	168
5.11.2 成績を Blackboard にエクスポートする .....	169
5.11.3 成績を Canvas にエクスポートする .....	170
5.11.4 成績を Pinnacle にエクスポートする .....	170
5.11.5 成績を Moodle にエクスポートする .....	171
5.11.6 成績を Sakai Gradebook 2 にエクスポートする .....	171
5.11.7 InteGrade Pro にエクスポートする .....	171
5.11.8 成績を MyGradebook にエクスポートする .....	172
5.11.9 Pearson Inform に成績をエクスポートする .....	172
5.11.10 Grade Busters に成績をエクスポートする .....	173
5.11.11 Grade Quick に成績をエクスポートする .....	173
5.11.12 成績を Perception にエクスポートする .....	173
5.11.13 成績を ParSCORE にエクスポートする .....	174
5.11.14 カスタム成績表形式を使用するには .....	174
<b>レポートの E-メール送信 .....</b>	<b>178</b>
6.1 E-メールの概要 .....	178
6.2 OUTLOOK を使用したレポートの E-メール送信 .....	178
6.3 SMTP を使用したレポートの E-メール送信 .....	179
<b>REMARK QUICK STATS の基本設定 .....</b>	<b>182</b>
7.1 基本設定の概要 .....	182
7.2 REMARK QUICK STATS 基本設定 - 一般 .....	182
7.3 REMARK QUICK STATS 基本設定 - 表示オプション .....	183
7.4 REMARK QUICK STATS 基本設定 - ベンチマーク .....	185
7.5 REMARK QUICK STATS 基本設定 - 採点ケール .....	185
7.5.1 評価スケールの作成と編集 .....	186
7.6 REMARK QUICK STATS 基本設定 - スケールスコア .....	186
7.7 REMARK QUICK STATS 基本設定 - テスト統計 .....	190
7.8 REMARK QUICK STATS 基本設定 - データと結果のエクスポート .....	190



# Remark Quick Stats の概要

---

## 第 1 章

Remark Quick Stats は、Remark Office OMR ソフトウェアに付属している分析およびレポート用パッケージです。Remark Quick Stats を使用すると、調査結果の作表やテストの成績評価が、ソフトウェア内部で実行できます。データを収集すると、評価オプションまたは調査オプションのいずれか（簡易採点、高度な採点、簡易調査、高度な調査）をクリックして Remark Quick Stats にアクセスできます。

選択したレポートに応じて、Remark Quick Stats は次のような統計情報を算出します。

統計調査とレポートに含まれるデータ：

- 各項目に対して Remark Quick Stats が計算する値：平均値、分散、標準偏差、標準誤差、最小値、最大値、範囲、中央値、歪度、尖度、T 値、パーセント点、信頼区間
- 各回答選択肢に対して Remark Quick Stats が計算する値：頻度、パーセンテージ、有効パーセント
- 回答レポートは、特定の質問に対する回答を、読みやすい形式のレポートで表示します（主に、自由回答形式の質問に使用します）。
- クロス表
- 質問グルーピングに対する平均値を表示するグループレポート

テスト統計とレポートに含まれるデータ：

- 高度な採点を使用すると、回答キー、問題のポイント数、学習目的、ベンチマークスコア、その他テストに関する成績評価の情報を設定できます。
- 各項目に対して Remark Quick Stats が計算する値：平均値、分散、標準偏差、標準誤差、最小値、最大値、範囲、中央値、歪度、尖度、T 値、パーセント点、信頼区間、p 値、点双列相関
- 各回答選択肢に対して Remark Quick Stats が計算する値：頻度、パーセンテージ、点双列
- 各学生に対して Remark Quick Stats が計算する値：合計点、未加工の点数、偏差 IQ、正答/誤答/未回答の数
- テストに対して Remark Quick Stats が計算する値：グレード付きテストと項目の数、最大値、最小値、中央値、範囲、パーセント点スコア、平均値、分散、標準偏差、信頼区間（1,5,95,99%）、KR 20、KR21、係数（Cronbach）アルファ
- 成績レポートは、各学生のテスト結果と、オプションとしてスキャンしたテストのイメージを表示します。
- グループレポートは、データの中の特定サブセットの成績を表示します。



さまざまなタイプのグラフも含まれています（すべてコピー、印刷可能です）。

- パイチャート
  - バーグラフ
  - 横バーグラフ
  - 折れ線グラフ
  - 面グラフ（エリアチャート）
  - ポイントチャート
  - 極座標グラフ
  - ファストライン
- **注：**Remark Quick Stats は、他の Remark 製品とともに動作するように設計されています。Remark Quick Stats レポートにアクセスするには、まず、得られるデータに応じたフォームテンプレートファイルを Remark Office OMR Template Editor で作成しておく必要があります。このフォームテンプレートファイルがなければ、Remark Quick Stats にデータをインポートすることはできません。

## 1.1 Remark Quick Stats のワークスペース

Remark Quick Stats には、4 カ所のメインエリアがあります。

- **タスクペイン：**タスクペインには、使用可能なレポートと、各種機能へのショートカット（レポートのエクスポート、レポートバッチの実行、高度な調査や採点操作へのリンクなど）がリスト表示されます。また、タスクペインでレポートを右クリックして、そのレポートをお気に入りや Remark Quick Stats 起動時のデフォルトレポートに設定したり、レポートを実行したりすることもできます。
- **レポート：**ウィンドウの中央部には、アクティブなレポートが表示されます。
- **レポートスタイル：**ウィンドウの右側部分には、選択されたレポートで使用可能なスタイルプロパティが表示されます。プロパティを調節してから、[適用] ボタンをクリックします。[デフォルト] ボタンは、レポートをソフトウェアがインストールされた時点のオリジナルの状態に戻します。
- **データ：**[データ] タブには、レポートを生成するためのデータのコピーが表示されます。ここからデータをフィルタリングして、データをテキストまたは数値バージョンのどちらかの形式でエクスポートすることもできます。

エリアとエリアの間には区切り線があり、その線をドラッグすると面積を調節できます。レポートをレビューしている時に [表示] メニューをクリックすると、ルーラや目次の表示と非表示を切り替えることができます。レポートスタイルのペインでプッシュピンを使用すると、表示と非表示が切り替わります。また、[全画面表示] ツールバーボタンをクリックするか [F11] キーを押すと、レポートが全画面に表示されます。結果のエクスポートに加え、[編集 | コピー] をクリックすると、レポートのページ全体が Windows のクリップボードにコピーされ、別のアプリケーションに挿入できるようになります。メインウィンドウからは、レポートの保存、レポートの印刷、ソフトウェアの基本設定などの機能にアクセスできます。

以降の章では、テストの採点や調査の分析について詳しく説明します。

# テストの評価

## 第 2 章

### 2.1 テスト評価の概要

テストの評価には 2 通りの方法があります。

- **簡易採点**：簡易採点は、データの先頭行を、フォームテンプレートでセットアップした回答キーおよび評価パラメータとして使用します。
- **高度な採点**：高度な採点を使用すると、ベンチマーク、上達度を測る学習目標、レポートヘッダーのカスタマイズ、複数のテストバージョンの使用などの機能を使用して、評価プロセスをカスタマイズできます。

それぞれについて、この後の項で説明します。

### 2.2 簡易採点を使用するには

簡易採点を使用すると、事前に指定した設定を用いてテストの採点を簡単に実行できます。簡易採点を使用する場合、**Remark Quick Stats** はデータグリッド内の最初のデータ行を回答キーとして使用し、**Remark Quick Stats** の基本設定で設定したソフトウェアのデフォルト採点オプションに基づいてデータを採点します。また、簡易採点はフォームテンプレートで設定したパラメータを使用して評価方法を管理します。評価の管理とは、たとえば、ある問題を採点に含めるか、点数を何点割り当てるか、質問のデータを分析回答者 ID としてレポート上に表示するか（たとえば、評価済みのテストを識別するための名前など）ということです。

簡易採点を使用すると、複数の正答を使用できます。フォームテンプレートで複数回答が許可されていない質問に対して、回答キー行で複数の回答が指定された場合、**Remark Quick Stats** はこれを「OR 演算」として扱います。つまり、指定された選択肢のいずれかを回答した生徒に点数が与えられます（ただし、回答数は 1 つだけです）。フォームテンプレートで複数回答が許可されている質問に対して、回答キー行でその質問に対して複数の回答が指定された場合、**Remark Quick Stats** はこれを「AND 演算」として扱います。つまり、指定された選択肢をすべて回答した生徒にのみ点数が与えられます。

- **注**：フォームテンプレート内で [置換] 値を **ALL** に設定すると（これがデフォルト設定です）、複数回答が許可されていてもいなくても、グリッド内に複数の回答が表示されます。

回答キーで質問が空白のままであれば、その質問は評価されません。回答シートで主観的またはループリック項目を使用する場合、回答キーの値により、与えられる最大点数が設定されます。生徒が回答キーへの定義より高い点数を獲得した場合、余剰点数は自動的に特別課題として扱われます。

### 簡易採点を使用するには

1. **Remark Office OMR Template Editor** で、試験のフォームテンプレートを作成します。採点に含める問題、割り当てる点数、分析回答者 ID フィールドなどの評価パラメータを、かならず設定しておいてください。フォームテンプレートを設定する時は、回答キーの割り当てについて考える必要はありません。この処理はフォームの処理中に行われます。
2. **Remark Office OMR Data Center** で読み取りオプションを使用するか、または既存のデータファイルを開いて試験を処理します。かならず、回答キーをデータの 1 行目として処理してください。回答キーは、ソフトウェア内で評価する各質問に対する正解をすべて保持する必要があります。簡易採点機能は、データセットの最初のレコードを自動的に回答キーと見なし、このデータに基づいて採点を行います。
  - **注：**簡易採点を使用する際に、主観評価またはループリック評価の質問が空白であるか、または数値以外のデータが記述されていた場合、評価の操作から除外されず（評価対象外/主観評価ではないとマークされます）。それ以外の場合、主観評価の質問に数値が含まれている場合、その値は、質問に対して使用可能な主観ポイントの合計として扱われます。
3. 試験を処理した後、[ツール] メニューを選択して、[分析]、[簡易採点] の順でクリックします。簡易採点は、ツールバーから、またはタスクペインの [分析] タブから使用できます。

データが採点され、[Remark Quick Stats] ウィンドウが表示されます。このウィンドウの左にはタスクペインがあり、ここにレポートを表示できます。デフォルトでは生徒統計レポートが表示されますが、Remark Quick Stats の基本設定でデフォルトのレポートを設定したり、また別のレポートを右クリックしてそれをデフォルトに設定したりすることもできます。

- **注：**簡易採点で複数のテストバージョンを使用する場合は、テンプレートで適切なフィールドをテスト ID としてマークします。具体的には、Template Editor でテンプレートを開き、フィールドのプロパティにアクセスして、[高度なフィールドプロパティ] をクリックしてから [テストバージョン ID として指定] のオプションをマークします。テンプレートを更新したら、フォームを読み取り、すべての回答キーが最初に読み込まれることを確認してください。重複するテストバージョン ID が発見されると、そのレコードは最初の生徒のテストと見なされます。評価処理を行う間、その位置から先のデータ行はすべて、同一のテストバージョン ID を含むデータの回答キー行とマッチングされます。

## 2.3 高度な採点の概要

Remark Quick Stats の高度な採点オプションを使用すると、採点処理をカスタマイズできます。高度な採点を使用すると、次のような項目が指定できます。

- 評価に含めるデータセット
- 回答キー
- 含める質問と除外する質問
- 複数回答以外の質問でポイントを加算できる主観評価問題
- レポート上で生徒を識別するための分析回答者 ID フィールド

- 正答、誤答、未回答項目に対するテストポイント
- 採点スケール
- カスタム採点スケールに適用するスケールスコア
- 生徒が教わった内容をどの程度理解しているかを判断するための学習目標（基準）
- 生徒の成果を測るベンチマークスコア
- カスタムレポートヘッダー
- 複数のテストバージョン

また、採点パラメータをすべて含む採点回答キーを保存して、繰り返し利用できるようにすることもできます。高度な採点は、汎用のフォームテンプレートを使用し、かつ様々なテストに異なる回答キーを適用したい場合にも便利です。たとえば、汎用の問題を **50** 問用意し、高度な採点を用いてテストの主題に応じて異なる回答キーを設定することができます（たとえば、1 つは米国史、1 つは世界史、1 つは地理学など）。

高度な採点へのアクセス方法を、以下で説明します。高度な採点の各操作手順についての詳細は、以下の項を参照してください。

#### 高度な採点を使用するには（回答キーの設定）

1. **Remark Office OMR Template Editor** で、試験のフォームテンプレートを作成します。採点を行う質問、獲得する点数、分析回答者 ID フィールドなどの採点パラメータを設定できます。これらのオプションは回答キーの設定中にも変更できます。フォームテンプレートを設定する時は、回答キーの割り当てについて考える必要はありません。この処理はフォームの処理/回答キーの設定中に行われます。
2. **Remark Office OMR Data Center** で読み取りオプションを使用するか、または既存のデータファイルを開いて試験を処理します。回答キーをデータの先頭行として処理するか、または高度な採点内で回答キーを設定するかを選択できます。
3. フォームを処理した後、**[ツール]** メニューを選択して、**[分析]**、**[高度な採点]** の順でクリックします。高度な採点は、ツールバーから、またはタスクペインの **[分析]** タブから使用できます。
4. 変更したいオプションを左側で選択します。各オプションについては、この後の項に記載しています。
5. 終了したら **[採点]** ボタンをクリックします。

高度な採点を使用する際には毎回、終了時に次のようなオプションを使用できます。

- **[採点]** ボタンをクリックすると、その場でテストが評価されます。設定を回答キーファイルとして保存するためのプロンプトが表示されます（オプション）。
- **[保存]** ボタンをクリックすると回答キーが保存されますが、高度な採点は開いたままなので、この後も変更ができます。
- **[保存]** ボタンの下向き矢印をクリックして **[ジェネリック保存]** を選択します。回答キーをジェネリック回答キーファイル（.GAKY）として保存すると、回答キーは、採点対象外の質問に関する情報なしで保存されるので、採点対象の質問と回答選択肢の数が十分にあるフォームタイプ（テンプレート）であればいずれも、ジェネリック回答キーを適用できます。

### 2.3.1 高度な採点 - テストオプション

高度な採点オプションをクリックすると、[テストオプション] ウィンドウが最初に表示され、ここでテスト採点処理の基本パラメータを設定できます。画面に表示されている内容のみが必要な場合は、選択を行った後、高度な採点で他の項目を確認せずに[採点] ボタンをクリックできます。[テストオプション] ウィンドウには、テストを評価するための4種類のオプションがあります。

- **回答キーファイル:** 以前に高度な採点を使用したことがあり、設定をファイル(.AKYファイル) に保存していた場合は、ここでそのファイルを開けます。回答キーファイルは、使用するフォームテンプレートと一致していなければなりません。
- **全体的なテスト採点スコア:** [採点スケールを編集] ボタンをクリックすると、使用するスケールを表示する、スケールを新しく作成する、既存のスケールをこの採点に適用するなどの操作ができます。
- **全体的なテストスケールスコア:** [スケールスコアを編集] ボタンをクリックすると、スケールスコアを使用しているかどうかわかります。スケールスコアは、生徒が試験で得た点数を、全体の中で数値により比較できるような共通の尺度を用いて換算した点数です。
- **テストベンチマークを使用:** そのテストでの生徒の到達度に対して、ベンチマークとして使用するパーセントスコアを設定できます。設定したベンチマークに到達した生徒と到達していない生徒が何人いるかを表示するレポートを選択します。
- **カスタムレポートヘッダーを使用:** キーボード入力、テンプレートフィールドからのデータ挿入、グラフィック(ロゴマークなど)の追加により、生成されるレポートすべてのヘッダーエリアを変更できます。

既存の回答キーファイルを開くには

1. 以前に作成した回答キーファイル(.AKY)を使用する場合は、高度な採点の[テストオプション] ウィンドウで、回答キーファイルの下にある省略記号(...)のボタンをクリックします。1つのフォームテンプレートに複数の回答キーを作成すると、採点処理をカスタマイズできます。たとえば、汎用の問題を50問用意し、高度な採点を用いてテストの主題に応じて異なる回答キーを設定することができます(たとえば、1つは米国史、1つは世界史、1つは地理学など)。ロードする回答キーファイルでは、評価した質問と回答選択肢の数が、現在使用しているテンプレートと一致している必要があります。
2. 高度な採点で他の調節を行います。回答キーファイルに必要なものがすべて揃っている場合は[採点] ボタンをクリックしてテストを評価します。

評価スケールを調節するには

1. 高度な採点の[テストオプション] ウィンドウで、全体的なテスト採点スコアの隣にある[採点スケールを編集] ボタンをクリックします。
2. [採点スケールエディタ] ウィンドウで、リストからスケールを選択します。新しい評価スケールを作成する場合は、[名前をつけて保存] ボタンをクリックし、名前を

名前	パーセント(満点)	合計スコア
A	40.00%	40.00
B	30.00%	30.00
C	20.00%	20.00
D	10.00%	10.00
E	0.00%	0.00

入力して採点スコアとパーセントスコアを調節します。

3. **[OK]** ボタンをクリックして、**[高度な採点]** ウィンドウに戻ります。
4. **高度な採点**で選択を続けるか、または**[採点]**ボタンをクリックしてテストを評価します。

#### テストのスケールスコアを調節するには

スケールスコアは、生徒が試験で得た点数を、全体の中で数値により比較できるような共通の尺度を用いて換算した点数です。スケールスコアは、外部の採点システムからの特定の採点が必要とされる特殊な使用ケースを想定した高度な機能であると言えます。スケールスコアを使用すると、データベースを用いて、生徒が試験で得た点数を、素点またはパーセントスコアから、変換ファイル（データベース）で定義した他の点数に変換できます。スケールスコアを使用する場合、全体の成績、客観評価点数、主観評価点数、または定義済みの学習目標点数を参照できます。2種類の値を選択して二次元的な参照を実行できます。**Remark**から取得した値を変換（スケールスコア）テーブルで参照すると、適切なスケールスコアが返されます。スケールスコアを参照する際は、参照値（パーセントスコア、合計点またはパーセンテージ）が定義された数値範囲内に含まれるレコードをテーブル内で検索します。

スケールスコアを含むデータベースファイルは、Access、Excel、SQL Server、Oracle、Paradox、dBase、ODBC 接続のいずれかになります。このデータベース内では、最小得点フィールドと最大得点フィールドを定義します。これらは特定の数値でも点数の範囲でもかまいません。データベース内の得点にはそれぞれ対応するスケールスコアのフィールドがあり、このフィールドが **Remark Quick Stats** に返されます。オプションとして、選択したレポートに対して、**Remark** が計算した評価の代わりに換算評価フィールドを含めることができます。最小値フィールドと最大値フィールドを、データベース内の同じフィールドに定義できます。この場合、参照する値は、返されるスケールスコアのフィールドの値と正確に一致していなければなりません。スケールスコアが見つからない場合、レポートにはダッシュ記号 (-) が表示されます。

また、精度オプションを使用すると、参照点数をユーザ定義による小数点桁数で丸めてからデータベース参照を実行できます。切り上げを行う場合、**Remark Quick Stats** は従来の切り上げ方法を用いて数値全体の切り上げまたは切り捨てを行います。たとえば、点数が 69.5 の場合は 70 に切り上げ、データベースでは 70 が検索されます。

スケールスコアを表示するレポートは、生徒統計レポート、生徒評価レポート、比較評価レポート、成績分布レポート、生徒の成果および生徒回答レポートです。各レポートには、レポートスタイルペインに、スケールスコアを表示するかどうかを設定するようなプロパティがあります（プロパティはデフォルトでオンです）。レポートのスケールスコアヘッダーは、参照データベースの列ヘッダー名から直接取得されます。レポート上での表示が最適になるよう、この名前はできるだけ短い名前にすることをお勧めします。レポートスタイルペインの [ラベル] セクションで、名前を変更することもできます。

スケールスコアは高度な採点で定義でき、簡易採点の操作で使えるよう、**Remark Quick Stats** の基本設定でデフォルトとして設定できます。以下の説明は、[全体的なテストスケールスコア] ウィンドウと [学習目標] ウィンドウの両方に適用されます。

- **注：** 高度な採点を使用する場合、オプションがオンであり、かつ換算点の参照が定義されている場合にのみ、換算点が表示されます。簡易採点を使用する場合、**Remark Quick Stats** 基本設定のデフォルト換算点が使用されます（その設定がアクティブなフォームテンプレートに適用される場合）。簡易採点を行う際に換算点を使用しない

場合は、Remark Quick Stats の基本設定でデフォルトの換算点を設定しないでください。

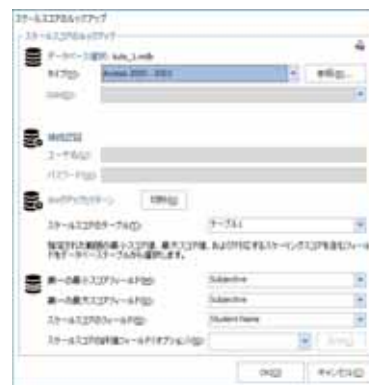
1. 高度な採点の [テストオプション] 画面の[スケールスコアを編集]ボタンをクリックし、[スケールスコアの使用] チェックボックスを選択します。
2. テスト全体に対するスケールスコアシステムや学習目標を設定できます。
3. 以前にスケールスコアを作成したことがある場合は、[ソーススケールスコア] ドロップダウンリストからその値を選択できます。新しいスケールスコアを作成する場合は、次の手順に進んでください。
4. [次をベースとしたスケールスコア] で、参照する点数のタイプを**全体スコア**、**パーセントスコア**、**パーセンテージ**の中から選択します。この点数は、外部ファイルの中で対応する点数を参照する際に使用する点数です。
5. オプションとして、点数を丸めたい場合は[四捨五入したスコア] チェックボックスをマークして、小数点以下の桁数を[概算の精度] ボックスに入力します。このオプションを使用すると、参照点数が最初に丸められ、次に、その丸めた値を用いて参照が行われます。
6. [1 番目のルックアップ基準] ドロップダウンリストを使用して、参照する特定の点数を選択します。**全体のスコア**、**客観的なスコア**、**主観的なスコア**、または定義したいいずれかの学習目標を選択できます。このプロパティは Remark Quick Stats に対して、換算点を検索する際に実際に参照する点数を示します。注: パーセンテージ (パーセンテージ) の参照を基本にする場合は、全体のスコアと学習目標のスコアのみ参照できます。
7. (オプション) 二次元参照を作成する場合は、[2 番目のルックアップ基準] ドロップダウンリストから二次参照基準を選択します。たとえば、主観評価と客観評価の両方の点数を参照して全体の換算点を生成したいという場合があります。
8. [データベース] ボタンをクリックして、外部データベースファイルへの接続を選択 (または変更) します。
9. [データベース選択] エリアで、[タイプ] ドロップダウンリストを使用して、このフィールドに関連付けるデータベースの種類 (Access、Excel など) を選択します。
10. [参照...] ボタンをクリックし、データベースファイルのある位置へ移動してファイルを選択します。
11. ファイルを選択して [開く] ボタンをクリックします (またはファイル名をダブルクリックします)。自動的にデータベースに接続されるはずですが。
12. ODBC 接続を使用している場合は、以下の手順を実行します (この手順を完了するには、データベース管理者から特定の情報を得る必要があります)。それ以外の場合は、手順 13 に進みます。
  - オプション: [DSN] ドロップダウンリストからデータベースタイプを選択します。
  - オプション: チェックボックス [ディレクトリベース] と [DSN ベース] のうち適切な方を選択して、データベースがディレクトリベースか DSN ベースかを



指定します。

- オプション：データベースがパスワード保護されている場合は、[ユーザ名] および [パスワード] ボックスにログイン情報を入力してください。データベースがパスワード保護されていない場合は、この手順は必要ありません。

13. [スケールスコアのテーブル] ドロップダウンリストを使用して、スケールスコアのフィールドを含むデータベース内のテーブルを選択します (Remark Quick Stats はデフォルトでファイルの先頭にあるテーブル/シートを選択する点に注意してください)。



14. 外部データベースから [第一の最小スコア] フィールド、[第一の最大スコア] フィールド、[スケールスコア] フィールド、およびオプションとして [スケールスコアの評価] フィールドを選択します。オプションの [スケールスコアの評価] フィールドは、評価 (A、B、C など) を示す選択レポートで、Remark が生成した評価を、データベースから取得した換算評価に置き換えます。これらのフィールドは参照と置換のための値を含みます。使用可能な項目は、参照項目の選択に応じて変わります。全体の点数、客観評価点数、主観評価点数、客観および主観評価点数、学習目標のいずれかを選択できます。参照フィールドと置換フィールドを選択する際に使用できるガイドラインには、次のようなものがあります：

- 全体の点数、客観評価の点数、主観評価の点数のいずれかを一次的に参照し、関係が 1 対 1 である (85 点がスケールスコアの 95 点に相当するなど) 場合は、[第一の最小スコア] と [第一の最大スコア] に同じフィールドを選択します。
- 全体の点数、客観評価の点数、主観評価の点数のいずれかを一次的に参照し、点数の範囲を使用する (85~90 点がスケールスコアの 95 点に相当するなど) 場合は、[第一の最小スコア] と [第一の最大スコア] に異なるフィールドを選択します。
- 客観評価および主観評価を二次元的に参照し、関係が 1 対 1 である (客観評価の 85 点と主観評価の 10 点が換算点の 110 点に相当するなど) 場合は、[第一の最小スコア] と [第一の最大スコア] に同じフィールドを選択します。次に、[第二の最小スコア] と [第二の最大スコア] に同じフィールド (ただし客観評価フィールドフィールドとは別のフィールド) を選択します。たとえば、[第一の最小スコア] フィールドと [第一の最大スコア] フィールドを客観評価点数、[第二の最小スコア] フィールドと [第二の最大スコア] フィールドを主観評価点数にします。
- 客観評価および主観評価を二次元的に参照し、点数の範囲を使用する (客観評価の 85~90 点と主観評価の 5~10 点が換算点の 110 点に相当するなど) 場合は、[第一の最小スコア] と [第一の最大スコア] に異なるフィールドを選択します。次に、[第二の最小スコア] フィールドと [第二の最大スコア] フィールドに異なるフィールドを選択します。たとえば、[第一の最小スコア] フィールドと [第一の最大スコア] フィールドを客観評価点数の範囲、[第二の最小スコア] フィールドと [第二の最大スコア] フィールドを主観評価点数の範囲にします。

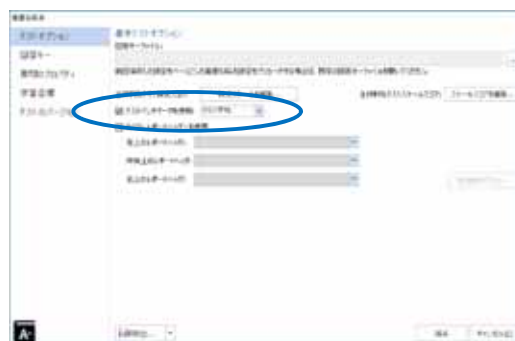


15. **[OK]** ボタンをクリックしてデータベース設定を保存します。
16. 全体の換算点のウィンドウに戻ると、データベース接続の詳細が表示されています。変更する必要がある場合は**[データベース]** ボタンをクリックします。
17. このスケールスコア設定を保存して再利用する場合は、**[名前をつけて保存]** ボタンをクリックします。**スケールスコア名**を指定して**[OK]** ボタンをクリックします。この後高度な採点を使用すると、再利用可能なスケールスコアのリスト内に、このスケールスコアが表示されるようになります。
18. **[OK]** ボタンをクリックします。
19. オプションとして、定義済みの学習目標に対してスケールスコアを使用したい場合は、**[学習目標]** の画面にある**[スケールスコアを編集]** ボタンをクリックし、上記の手順を繰り返してスケールスコアを定義します。学習目標のスケールスコアは、定義されたすべての学習目標に適用されることに注意してください。
20. スケールスコアをセットアップしたら、**高度な採点**で選択を続けるか、または**[採点]** ボタンをクリックしてテストを評価します。
  - **注：** テスト全体と学習目標に対するデフォルトのスケールスコアを、**Remark Quick Stats** の基本設定で定義して保存できます。いったん作成されて基本設定に保存されたスケールスコアは、高度な採点でアクセスできます。



#### テストのベンチマークを設定するには

1. 特定のパーセントスコアに対する達成度を測る場合は、**高度な採点**の**[テストオプション]** ウィンドウで**[テストベンチマークを使用]** のチェックボックスをマークします。
2. 独自のパーセントスコアを入力するには、**[カスタム]** を選択します。次に、設定するベンチマークのパーセントスコアをボックスに入力します。あるいは、**[クラス平均]** を選択してクラスの平均パーセントスコアをベンチマークとして使用します。**Remark Quick Stats** は、まずクラス平均を計算し、次にその値を、生成されるレポートのベンチマークスコアとして使用します。
3. **高度な採点**で選択を続けるか、または**[採点]** ボタンをクリックしてテストを評価します。



#### カスタムレポートヘッダーを作成するには

1. **高度な採点**の**[テストオプション]** ウィンドウで、**[カスタムレポートヘッダーを使用]** チェックボックスをマークします。
2. 各レポートには、情報を追加するためのスロットが、ヘッダーに**9本**予約されています。

シンプルさを保つため、上部に 3 カ所の位置を表示しています。3 カ所を超える位置をカスタマイズするには、[その他のオプション] ボタンをクリックします。

3. レポートヘッダーの左上端、右上端、上部中央のスペースに何かを追加するかを選択するには、この 3 カ所のドロップダウンリストを使用します。リストから項目を選択します。各リストには、日付、日時、ページ番号、回答者数があります。さらに、フォームテンプレート内のフィールドがすべてリスト表示され、データセットからデータ（教師名、科目名、学期など）を入力できるようになります。
4. カスタムヘッダーエリアをセットアップしたら、高度な採点で選択を続けるか、または [採点] ボタンをクリックしてテストを評価します。

### 2.3.2 高度な採点 - 回答キー

[回答キー] ウィンドウに回答キーを入力できます。回答キー選択では次のオプションが使用できます。

オプション	説明
データセット (グリッド) 行	<b>Data Center</b> で、アクティブなデータグリッドのグリッド行から回答キーを選択します。このオプションは、回答キーをデータグリッド内の最初の項目としてスキャンし、次に生徒のテストが続く場合に便利です。
読み取り	[読み取り] ウィンドウを起動して、回答キーをスキャンするか、または回答キーを表すイメージファイル（つまり、以前にスキャンしてイメージファイルとして保存しておいた回答キー）を選択できます。
ジェネリックキー	<b>Remark Office OMR</b> の高度な採点ユーティリティで、ジェネリック回答キーファイル (*.gaky) を作成できます ( <b>Remark Office OMR</b> の外部でアクセス可能)。このタイプのキーは、採点対象外の質問に関する情報を保存しないので、採点対象の質問と回答選択肢の数が十分にあるフォームタイプであればいずれも、ジェネリック回答キーを適用できます。
テキストキー	テキストキーは、タブまたは <b>CRLF</b> (キャリッジリターン/ラインフィード) で区切り、採点対象の質問に対する正解の数値インデックスを含むテキストファイルです。オプションとして、質問文を各正解の末尾に追加できます (パイプ文字( )で区切ります)。  テキストベースの回答キーは、拡張子 <b>TEXT</b> を付けたタブ区切りの <b>ASCII</b> ファイルで、テストの質問に対する正答を含むようにしてください。正答は数値に置き換えて記述します。たとえば、質問に対する回答の選択肢が <b>A、B、C、D</b> で正答が <b>D</b> とすると、正答の数値インデックスは <b>4</b> になります。これは <b>D</b> が <b>4</b> 番目の選択肢であるからです。テストに採点対象の質問が <b>5</b> 問あり、選択肢が ( <b>A-D</b> ) で、正答が順番に <b>A、B、D、A、C</b> だとすると、テキストファイルの最初の行は次のように、タブで区切った数値インデックスになります：

オプション		説明			
		1	2	4	1 3
<p>正答が複数ある場合、正しいと思われる選択肢のどちらかを選択しなければならない場合はカンマ (,) で区切り、正しいと思われる選択肢をすべて選択しなければならない場合はアンド記号 (&amp;) で区切ります。上記の例で、2 問目の質問では「B または D」であれば正しく、5 問目では「A および C の両方」を選択する必要がある場合、回答キーのテキストは次のようになります：</p>					
		1	2,4	4	1 1&3
<p>テストのバージョンが複数ある場合は、テキストキー内に、テストバージョンごとに新しくレコードを作成し、各レコードの最初のデータピースとしてテストバージョンの ID を定義します。たとえば、バージョンが 3 種類（ラベル A～C）あるテストは次のようになります：</p>					
A	1	2	4	1	3
B	4	3	1	1	2
C	2	1	3	1	4
<p><b>注:</b> 複数のテストバージョンを使用して回答キーをインポートする場合、複数の正答があり、そのうちのいずれか 1 つだけを正しい選択肢として選ばなければならないような質問はサポートされていません。複数のテストバージョンを使用する場合、正答を区切るカンマはアンド記号として扱われます。</p>					

#### 回答キーを選択するには

- 高度な採点の [回答キー] ウィンドウで、[次から回答キーをインポート:] のドロップダウンリストを用いて、使用している回答キーのタイプを選択します。次に、[キーのインポート...] ボタンをクリックして、回答キーグリッドに回答キー情報を入力またはインポートします（グリッド行を使用している場合は、[グリッド行] ボックスで行を指定します）。回答キーを手動で入力する場合は、グリッドの [正答] 列に値を入力します。ジェネリックキーまたはテキストキーを選択すると、関連付けられたファイルの場所を指定するプロンプトが表示されるので注意してください。
- 必要に応じて、主観評価または客観評価で採点することを、それぞれに対応するボックスをクリックして指定します。デフォルトでは、高度な採点はフォームテンプレートで定義された採点設定を使用しますが、ここで変更することもできます。また、[すべて



を採点] ボタンと [採点なし] ボタンを使用すると、全質問に対する評価のオン/オフをすぐに切り替えることができます。ウィンドウの [質問のプロパティ] セクションで、質問の評価ステータスを変更することもできる点に注意してください（詳細は次の項を参照）。

3. 回答キーを設定したら、**高度な採点**で選択を続けるか、または [採点] ボタンをクリックしてテストを評価します。

### 2.3.3 高度な採点 - 質問のプロパティ

次に [質問のプロパティ] ウィンドウで、テスト問題のプロパティを変更できるようになります。初期状態では、高度な採点はフォームテンプレートプロパティで定義された任意の値を使用します。ここではその設定を変更できますが、フォームテンプレートには影響を与えません。質問は、ウィンドウの左側に縦方向にリストされます。質問をクリックして（複数の質問を選択するには、キーボードで [Ctrl] キーを押しながらクリックします）右のプロパティを調節します。採点対象の質問には、隣にオレンジ色のドットがあります。薄いグレーの質問は、採点対象ではありません。分析回答者 ID として設定されたフィールドは、隣に ID バッジがあります。次のオプションが使用できます。

オプション	説明
質問テキスト	レポートに使用する質問文を入力または変更します。貼り付け用のキーボードショートカット (Ctrl + V) か、または右クリックの [貼り付け] オプションを使用して Windows クリップボードから内容を貼り付けることができます。
この質問は学生を識別します。	このチェックボックスをマークすると、この質問から得た情報を選択レポートの回答者 ID (分析回答者 ID) として使用します。たとえば、生徒の氏名または ID 番号を収集する場合、その情報がレポートに表示され、レポートと生徒をリンクします。質問を回答者 ID として指定するためには、その質問を採点に含めないようにしてください。
この質問を採点	このチェックボックスをマークすると、その質問が採点に含まれるようになります。
質問タイプ :	<p>以下の質問タイプから選択してください。</p> <p><b>客観的 :</b> [客観的] オプションをマークすると、その質問は客観的な質問に指定されます。客観的な質問とは、限定された回答選択肢のセットがある質問です。客観的な質問には、たとえば複数選択や○×で答える質問などがあります。客観的な質問に対するポイント値は、正答、誤答、無回答の 3 種類です。この 3 種類の指定を用いて、正答、誤答、無回答だった場合にそれぞれ何ポイント加算するかを設定します（小数点と負の値も使用できます）。</p> <p><b>主観的 :</b> 質問に主観採点点数が含まれる場合は、[主観的] オプションを選択します。主観採点の質問には、講師がテスト問題に割り当てたポイント値が含まれます。主観的な質問には、たとえば小論文や短い記述式問題などがあります。講師は問題の割合を定め、テストフォ</p>

オプション	説明
	<p>ームでの配点ポイント数を入力します。<b>Remark Quick Stats</b> は、獲得したポイント进行处理します。レポートでこの値を使用するには、フォーム上で主観評価ポイントに数値フィールドを設定する必要があります。</p> <p><b>ループリック</b>：質問にループリックが含まれる場合は、[ループリック] オプションを選択します。ループリックとは、質問を評価するための基準をリストする採点ツールです。回答は記述式でなければなりません。教師は生徒の回答を読み、適切なループリックを割り当てます。各ループリックには対応する数値スコアがあり、それが生徒の点数に反映されます。</p>
回答データタイプ	質問のデータタイプとして、テキスト (A、B、C、D など) もしくは数値 (1、2、3、4 など) のどちらかを選択します。
正答	このドロップダウンリストを使って、質問に対する正答を選択します。リストを複数回ドロップダウンすると、複数の正答を選択できます。
正しい答えがすべて正しいとみなされるように選択する必要があります。	複数回答が許可されている場合、このチェックボックスをマークすると、回答が正答と見なされるためには、指定した回答がすべて選択されていなければなりません。マークしない場合、指定した回答が 1 つでも選択されていれば正答と見なされます。
正答の部分得点を許可	<p>複数の回答が許可されている場合、正答のうちいずれかが選択されていれば、部分評価を割り当てることができます。部分評価を使用するには、[正答の部分得点を許可] チェックボックスをマークしてから、[部分得点] ボタンをクリックします。部分評価をセットアップした後、[あなたの得点を試してみてください...] エリアを使用して正しく設定したことを確認できます。すべての部分評価の合計が完全正解の点数を超えないように注意してください。</p> <p>部分評価を使用するシナリオは、主に 2 種類あります。</p> <p><b>正答が 1 つだけの場合</b>：回答を 1 つだけ想定している（[正しい答えがすべて正しいとみなされるように選択する必要があります。] がオンではない）が、他の回答も許可するという場合、正答にはその質問に対する最大ポイントを割り当てる必要があります。他の回答には、部分評価を与えることもできます。[部分的なクレジット] ウィンドウに [すべてのクレジット] の値を入力し、次に正答に対して同じ値を入力します。必要に応じて、その他の回答に対する部分評価のポイントを入力します。</p> <p><b>例</b>：回答選択肢に A、B、C、D があります。この質問への配点は 2 点です。A が正答、B には部分評価として 1 点を与え、C と D は誤答であるとしします。</p> <p><b>設定</b>：A と B を正答として選択します。[部分的なクレジット] ウィンドウで、[すべてのクレジット] の行に 2 を入力します。回答選択肢 A に 2、選択肢 B に 1 を入力します。A を選択した生徒は 2 点</p>

オプション	説明
	<p>が与えられ、<b>B</b> を選択した生徒には <b>1</b> 点が与えられます。</p> <p><b>複数の正答がある場合:</b> 正解と見なされるためには正答の選択肢をすべて選択しなければならない場合、選択された正答のいずれかに対する部分評価を許可できます。正答をすべて選択した生徒は、配点をすべて獲得します。正答の一部を選択した生徒は、部分評価の配点を獲得します。[部分的なクレジット] ウィンドウに<b>配点全体</b>の値を入力し、次に部分評価の点数を各選択肢に自由に割り当てます。</p> <p>例: 回答選択肢に <b>A</b>、<b>B</b>、<b>C</b>、<b>D</b> があります。この質問への配点は <b>2</b> 点です。<b>A</b> と <b>B</b> が正答で、この両方を選択しなければなりません。<b>C</b> と <b>D</b> は誤答です。</p> <p>設定: <b>A</b> と <b>B</b> を正答として選択し、<b>[正しい答えがすべて正しいとみなされるように選択する必要があります。]</b> チェックボックスをマークします。[部分的なクレジット] ウィンドウで、<b>[すべてのクレジット]</b> の行に <b>2</b> を入力します。選択肢 <b>A</b> に <b>1</b> 点、選択肢 <b>B</b> に <b>1</b> 点を入力します。両方の選択肢を選んだ生徒は <b>2</b> 点を獲得します。どちらか片方を選択した生徒は <b>1</b> 点を獲得します。</p>
特別課題の質問	<p>このオプションをマークすると、その質問は特別課題に指定されます。この質問で獲得したポイントは、テストの総得点に加算されます。加算される数値は、このウィンドウの<b>[客観的な質問]</b> で割り当てたポイント数に基づいて決まります。</p>
採点	<p>客観問題タイプであれば、正答、誤答、無回答に対する配点を選択します。質問タイプが主観的またはループリックであれば、生徒が獲得できる最大点数を選択します(生徒が最大値を超える点数を獲得した場合は、自動的に特別課題として扱われるので注意してください)。</p>
ベンチマーク値の定義	<p>このチェックボックスをマークしてベンチマークのパーセントスコアを入力すると、ベンチマーク値を定義できます。クラスが十分に学習したと見なされるためには、この値で指定した割合の生徒がこの問題に正答していなければなりません。ベンチマーク値は、客観的な質問にのみ適用できます。</p>

### 質問のプロパティを調節するには

1. 高度な採点の**[質問のプロパティ]** ウィンドウの左側にあるタスクペインで質問を選択し、次に、必要に応じて項目を適切に変更します。複数の質問を選択できます。キーボードの**[Ctrl]** キーを押しながら質問をクリックしてください。また、質問をクリックしてから**[Shift]** キーを押しながら別の質問をクリックすると、その範囲内の質問が選択されます。選択した質問のタイプによっては、使用できないオプションができる場合があります





ので注意してください（たとえば、グリッドフィールドと **Multiple** フィールドを複数選択すると、同じオプションを使用できなくなることがあります）。

2. 質問の変更が完了したら、**高度な採点**で選択を続けるか、または[採点] ボタンをクリックしてテストを評価します。

### 2.3.4 高度な採点 - 学習目標

[学習目標] ウィンドウを使用すると、学習目標を指定し、試験問題の中の特定のサブセットについて生徒の知識をテストできます。たとえば、ここまでは理解していなければならないという特定の基準をテストする場合、その基準の名前を[学習目標] ウィンドウに入力し、次にそれぞれの基準に対応する質問をマッピングします。**Remark Quick Stats** は、生徒が各基準で何点獲得したかを表示するので、生徒たちが基本を学習しているかどうかをすぐに判断できます。

学習目標を作成するには

1. **高度な採点**の[学習目標] ウィンドウで、[新規作成] ボタンをクリックします。

2. 学習目標の名前を[目標名] ボックスに入力します。オプションとして、学習目標の説明を[説明] ボックスに入力します。または、目標のリストをスプレッドシートまたはデータベースファイルからインポートすることもできます。[インポート] ボタンをクリックして、学習目標の名前と説明(オプション)をインポートします。学習目標が[学習目標] ボックスにリスト表示されます。



- **注：**学習目標をインポートする場合、ファイルに設定できるフィールドは、学習目標の名前と学習目標の説明の2つだけです。

3. 学習目標に関連付けられた評価スケールを表示または編集するには、[採点スケールを編集] ボタンをクリックします。[採点スケールエディタ] ウィンドウで、リストからスケールを選択します。新しい評価スケールを作成する場合は、[名前をつけて保存] ボタンをクリックし、名前を入力して評価スコアとパーセントスコアを調節します。[OK] ボタンをクリックして、[学習目標を定義] ウィンドウに戻ります。



- **注：**すべての学習目標に割り当てられた初期評価スケールは、**Remark Quick Stats** の初期設定でデフォルトの評価スケールとしてリストされた評価スケールです。学習目標には、それぞれ独自の評価スケールを割り当てることができます。まず学習目標を選択し、次に[採点スケールを編集] ボタンを使用して変更してください。

4. 必要に応じて、学習目標を選択してから[ベンチマークを使用] チェックボックスをマ

ークして、学習目標にベンチマークスコアを割り当てます。独自のパーセントスコアを入力するには、[カスタム] を選択します。次に、設定するベンチマークのパーセントスコアをボックスに入力します。あるいは、[クラス平均] を選択してクラスの平均パーセントスコアをベンチマークとして使用します。Remark Quick Stats は、まずクラス平均を計算し、次にその値を、生成されるレポートのベンチマークスコアとして使用します。

5. テストで採点される質問は、[使用可能な質問] ボックスにリスト表示されます。左側で学習目標を選択し、次に [使用可能な質問] ボックスで質問を選択して、次に [<<] (選択した学習目標に選択した質問を追加) ボタンをクリックします。選択された質問は、選択されている学習目標の下にある [学習目標] ボックスに移動します。[>>] (選択した学習目標から選択した質問を削除) 矢印を使用すると、特定の学習目標に割り当てた不要な質問を削除できます。1 つの質問を、複数の学習目標に割り当てることができます。
- ヒント：質問をダブルクリックすると、学習目標に簡単に追加できます。また、複数の質問を選択できます。キーボードの [Ctrl] キーを押しながら質問をクリックしてください。また、質問をクリックしてから [Shift] キーを押しながら別の質問をクリックすると、その範囲内にある質問がすべて選択されます。最後に、質問を既存の学習目標の上にドラッグします。
6. 学習目標をセットアップしたら、**高度な採点**で選択を続けるか、または [採点] ボタンをクリックしてテストを評価します。

### 2.3.5 高度な採点 - テストバージョン

[テストのバージョン] ウィンドウを使用すると、同じテストの複数バージョンをセットアップし、それぞれに異なる回答キーを割り当てることができます。複数のテストバージョンは、多くの場合、生徒たちがテスト中にお互いの解答用紙を覗き見するというカンニングの防止策として用いられます。使用可能なオプションは、使用しているテストバージョンが標準バージョンか高度なバージョンかに応じて異なります。複数のテストバージョンを使用するには、すべてのテストバージョンで同じ数の質問を定義し、客観評価の質問のポイント値と回答選択肢はすべて同一でなければならない点に注意してください。テストフォームには、各生徒が記入しているテストバージョンを識別するための何らかの方法が必要になります (テストバージョンが黒く塗られているバブルエリアなど)。

標準テストバージョンオプションでは、各キーを入力し、次にソフトウェアがデータと適切な回答キーをマッチングします。項目分析レポートは、各テストバージョンの項目分析を単純に (連結せずに) 表示します。これは、回答のみがわかっている (質問が並べ替えられない) ためです。高度なテストバージョンオプションでは、各キーとオリジナルのテストをマッピングし、テストの各バージョンで、質問を適切な順序に合わせて移動します。高度なテストバージョンを使用する場合、ソフトウェアでは、回答とオリジナルの回答キーの関係がわかっているため、項目分析レポートがすべてのテストバージョンに対して連結されます。テストバージョンの各タイプについては、以降の説明をご覧ください。

テストバージョンを使用するには

- 注：学習目標を使用する場合、標準テストバージョンは使用できません。採点操作



を2回（標準テストバージョンで1回、学習目標を用いて1回）実行できます。また、高度なテストバージョンを使用することもできます。

1. 高度な採点の[テストのバージョン] ウィンドウで、[複数のテストバージョンを定義] チェックボックスを選択します。
2. [標準] ボタンを選択します。
3. [テストバージョンを識別する質問の回答] のドロップダウンリストを使用して、回答キーを識別する値を含むテストから質問を選択します。フォームには、各生徒に対してどの回答キーを使用するかをソフトウェアに認識させるための識別方法が必要です。
4. [バージョンを作成] ボタンをクリックして回答キーを入力します。
5. 以前に[高度な採点] で回答キーを入力していた場合は、正答がリストされます。手順6に進みます。回答キーをまだ入力していない場合は、[次から回答キーをインポート] ボックス内のドロップダウンリストを使用して、使用する回答キーの種類を選択します（データグリッド行または、スキャナまたはイメージファイルからフォームを読み取る）。次に、[キーのインポート...] ボタンをクリックして、回答キーグリッドに回答キー情報を入力またはインポートします（グリッド行を使用している場合は、[グリッド行] ボックスで行を指定します）。もしくは、グリッド内にキー情報を手動で入力します。
6. [バージョン ID] ボックス内に、このバージョンを識別する値を入力します。グリッドの先頭にバージョン ID が紫で表示されます。
7. 手順4～6を繰り返して、テストバージョンを追加作成します。
8. 回答キーを表示または印刷したい場合は、[保存/ビュー...] ボタンをクリックします。ウィンドウが表示され、ここで回答キーをCSVファイルとして保存できます。CSVファイルの拡張子がコンピュータ上のプログラムに関連付けられている場合、[保存してバージョンを表示] ウィンドウで[保存] ボタンをクリックした後、ファイルが自動的に開くようになります。この機能は、生徒に対する回答キーを印刷して、回答と正しいキーを対応させられるようにする場合に便利です。
9. テストバージョンをセットアップしたら、高度な採点で選択を続けるか、または[採点] ボタンをクリックしてテストを評価します。テストは、生徒のテストバージョンを、設定した回答キーにマッチングして採点されます。



#### 高度なテストバージョンを使用するには

- 注：高度なテストバージョンを使用するには、各テストの物理的なコピーを用意する必要があります。これは、追加バージョンの質問を、オリジナルのバージョンにマッピングするためです。
1. 高度な採点の[テストのバージョン] ウィンドウで、[複数のテストバージョンを定義] チェックボックスを選択します。
  2. [詳細] ボタンを選択します。オリジナルの回答キー質問順序が、バージョン1（オリジナル）の列に表示されます。
  3. [テストバージョンを識別する質問の回答] のドロップダウンリストを使用して、最初

の回答キーを識別する値を含むテストから質問を選択します。フォームには、各生徒に対してどの回答キーを使用するかをソフトウェアに認識させるための識別方法が必要です。

4. [バージョン ID] ボックス内に、このバージョンを識別する値を入力します。グリッドの先頭にバージョン ID が紫で表示されます。
5. 回答キーを追加するには、[バージョンを作成] ボタンをクリックします。
6. オリジナルキーの複製が [Key 2] 列に表示されます。[バージョン ID] ボックスで、このバージョンを識別する値を選択します。
7. バージョン 2 の列で質問を並べ替えます。これにより、上下の矢印で移動させるとオリジナルの回答キー（バージョン 1）に対応させられるようになります。質問をマッピングする際、オリジナル回答キーの質問を参照し、その後続く回答キーの適切な位置に置きます。このマッピングを行うには、実際のテスト問題が必要です。次に例を示します。



#### テスト 1

1. 週の最初の曜日は?
2. 1 年の最初の月は?
3. 1 日は何時間ですか?
4. 1 時間は何分ですか?
5. 1 分は何秒ですか?

#### テスト 2

- 1.1 年の最初の月は?
- 2.1 分は何秒ですか?
3. 週の最初の曜日は?
- 4.1 日は何時間ですか?
- 5.1 時間は何分ですか?

#### テストバージョンの設定

高度な採点のフィールドは次のようになります。

#### テスト 1    テスト 2

- |      |      |                                  |
|------|------|----------------------------------|
| 質問 1 | 質問 2 | (「1 年の最初の月は?」はテストバージョン 1 の質問 2)  |
| 質問 2 | 質問 5 | (「1 分は何秒ですか?」はテストバージョン 1 の質問 5)  |
| 質問 3 | 質問 1 | (「週の最初の曜日は?」はテストバージョン 1 の質問 1)   |
| 質問 4 | 質問 3 | (「1 日は何時間ですか?」はテストバージョン 1 の質問 3) |
| 質問 5 | 質問 4 | (「1 時間は何分ですか?」はテストバージョン 1 の質問 4) |

8. 手順 5~7 を繰り返して、テストバージョンを追加作成します。
9. 回答キーを表示または印刷したい場合は、[保存/ビュー...] ボタンをクリックします。ウィンドウが表示され、ここで回答キーを CSV ファイルとして保存できます。CSV ファイルの拡張子がコンピュータ上のプログラムに関連付けられている場合、[保存して

バージョンを表示」ウィンドウで[保存] ボタンをクリックした後、ファイルが自動的に開くようになります。この機能は、生徒に対する回答キーを印刷して、回答と正しいキーを対応させられるようにする場合に便利です。

10. テストバージョンをセットアップしたら、**高度な採点**で選択を続けるか、または[採点] ボタンをクリックしてテストを評価します。

### 2.3.6 高度な複数テストバージョンのインポート

タブで区切ったテキストファイルを使用すると、高度な複数テストバージョンをインポートできます。インポートする際は、追加されたテストバージョン（オリジナル以外）のみをインポートしてください。このファイルでは、テストバージョン（オプション）と、その後に質問の順序を設定できます。採点の対象でない質問（属性など）を使用している場合は、それをテキストファイルに含める必要があります。次に例を示します。

テストのバージョンが 2 種類あるとします。回答キーID、学生 ID、学生氏名、教師の氏名とテスト問題が 5 問あります。高度な複数回答キーのインポートファイルは、たとえば次のようになります。

A 1 2 3 4 5 6 7 8 9

B 1 2 3 4 9 8 6 5 7

この例で、A と B はテストバージョン ID の回答選択肢を表します。1、2、3、4 は属性に関する質問です（学生 ID、学生氏名、教師の氏名）。1 行目の 5-9 はテストバージョン A で、ここでは質問が通常の順序で並んでいます。2 行目の 9-7 はテストバージョン B で、ここでは質問が並べ替えられています。この行は、回答キー B の最初の質問が、回答キー A の質問 9 であることを示します。同じように、回答キー B の採点対象の質問の 2 番目は、回答キー A の質問 8 になります。テストバージョン ID は、ファイルの最初の列に入れる必要があります。

1. 高度な採点の[Test Versions] ウィンドウで、[複数のテストバージョンを定義] チェックボックスを選択します。
2. [詳細] ボタンを選択します。オリジナルの回答キー質問順序が、バージョン 1（オリジナル）の列に表示されます。
3. [テストバージョンを識別する質問の回答] のドロップダウンリストを使用して、最初の回答キーを識別する値を含むテストから質問を選択します。フォームには、各生徒に対してどの回答キーを使用するかをソフトウェアに認識させるための識別方法が必要です。
4. [インポート] ボタンをクリックします。
5. 省略記号 (...) を使用して、複数のテストバージョンを含むファイルを選択します。
6. すでに設定したテストバージョンよりも優先させたい場合には、[既存のテストバージョンを上書き] をマークします。
7. インポート処理をここから開始させるというレコードを、[インポートの開始行] ボックスで選択します。このオプションは、通常は 1 に設定されます。



8. **［インポート］** ボタンをクリックします。**［テストのバージョン］**グリッドに情報が配置されます。
9. 回答キーを表示または印刷したい場合は、**［保存/ビュー...］** ボタンをクリックします。ウィンドウが表示され、ここで回答キーを **CSV** ファイルとして保存できます。**CSV** ファイルの拡張子がコンピュータ上のプログラムに関連付けられている場合、**［保存してバージョンを表示］** ウィンドウで **［保存］** ボタンをクリックした後、ファイルが自動的に開くようになります。この機能は、生徒に対する回答キーを印刷して、回答と正しいキーを対応させられるようにする場合に便利です。
10. テストバージョンをセットアップしたら、**高度な採点**で選択を続けるか、または**［採点］** ボタンをクリックしてテストを評価します。

### 2.3.7 データ変換の作成

データを分析しやすいように変換する必要があることがあります。たとえば、出席簿を処理する場合や複数の人を評価する場合、最終的には複数のデータを 1 つの長いレコードにまとめることがあります。このような場合、データを論理データレコードに分割します（たとえば、出席簿で生徒 1 人ずつなど）。**Remark Quick Stats** を使用して、この種類のデータを分析する場合は、データ変換オプションを使用できます。このオプションを使用すると、カスタムエクスポート（**［ファイル | 名前を付けて保存 | カスタム］**）で使用する同じカスタムパラメータを設定して、それを **Remark Quick Stats** に渡してデータを分析できるようになります。通常、新しくフォーマットしたファイルは新しいテンプレートにマッチングする必要がありますが、変換オプションがそれを代わりに実行します。複数の状況でデータを分析したい場合は、変換オプションを毎回実行する必要があるので注意してください。データ変換オプションを使用する際には、保存したカスタムテキスト設定ファイル（.tec）を使用できます（最初から作成する必要はありません）。データ変換オプションはデータファイルを出力するわけではないので注意してください。保存したデータファイルが必要であれば、まずカスタム形式を使用する必要があります。

#### カスタム変換を作成するには

1. フォームをスキャンするか、またはデータファイルを開きます。
2. **［高度な採点］** でドロップダウン矢印をクリックし、**［カスタムデータの変換］** を選択します。
3. （オプション）以前に変換ファイルを作成している場合、またはカスタムテキストオプションを使用してデータを保存していた場合は、省略記号 (...) を使用して保存した .tec ファイルを開くこともできます。この後の操作手順では、新しいデータ変換の作成を取り上げます。
4. 必要に応じて、**複数回答の限定子**（複数回答の評価に使用する文字。回答はこの文字の中に囲まれます）と**複数回答のデリミタ**（複数回答を区切る文字）を選択します。デフォルトを使用することもできます。
5. **［次へ］** ボタンをクリックします。
6. この手順は、データを複数のレコードに分割する必要がある場合に使用します。このオプションは、出席票、セッション評価、その他 1 枚のフォームで 2 人以上を評価する場合に便利です。データを分割する必要がある場合は、単に **［終了］** ボタンを押してくだ

さい（手順 11）。

7. データセットにレコードを何個入れるかを選択します。たとえば、出席票を処理しており、1 フォームに学生 20 名を記録する場合は「20」と入力します。[更新] ボタンをクリックします。必要なレコード数がウィンドウの右側に作成されます。

8. ファイルをフォーマットする方法は 3 通りあります。

- **すべてのレコードに追加:** このオプションを使用すると、データセット内のすべてのレコードにフィールドが追加されます。出席票の例では、ここはクラス名または教師名（どの学生に対しても変わらないデータ）になります。
- **選択されたレコードに追加:** このオプションを使用すると、ウィンドウの右側で選択したレコードにのみフィールドが追加されます。このオプションを使用すると、各レコードに何が入力されるかを細かく調節できます。
- **レコード間で分割:** このオプションを使用すると、フィールドを選択してから、すべてのレコードにわたって均等に分割できます。出席票を例にとると、これは出席者をトラッキングするためのフィールド（曜日など）になります。たとえば、フォームの左側に学生名を縦に並べ、各学生に対して月曜から金曜までの項目があるとします。その学生が出席していれば、対応するバブルをマークします。欠席している場合、そのバブルは空白になります（これは **Boolean** フィールドです）。全レコードを、まず学生単位で分割します。次に、全レコードを曜日で分割します。右のスクリーンショットを参照してください。データを分割していない状態では、このような状態になります。



Student1	Student2	Student3	Student4	Student5	M1	M2	M3	M4	M5	T1	T2	T3	T4	T5	W1	W2	W3	W4	W5
12345	57748	43637	56832	34577	0	0	1	1	1	0	0	1	0	1	0	1	1	1	1

学生と出席状況が長い 1 行にリストされている点に注意してください。

しかし、データを分割するとこのようになります。

A	B	C	D	E	F
12345	0	0	1	1	1
57748	0	0	1	0	1
43637	1	1	1	0	1
56832	1	0	1	1	1
34577	1	0	1	1	1

ここでは、学生 1 人が 1 レコードを専有し、出席状況もまとめられています。

9. 上記の方法を使用すると、必要に応じてデータを分析できます。
10. [プレビュー] ボタンを使用すると、エクスポートした時にデータがどのように見えるかをプレビューできます。
11. 終了したら [採点] ボタンをクリックします。
12. [構成を保存] ウィンドウが表示された時に、[はい] ボタンをクリックすると設定はファイルに保存され、後でデータを保存するか、またはデータ転送を作成する時に使用できるようになります。この設定ファイルを保存しない場合は [いいえ] ボタンをクリックします。設定ファイルを保存する場合は、次の手順に進みます。それ以外の場合は、

データ変換を作成して終了します。

- **注：**データは保存されません。後から使用できるように設定を保存するだけです。
  - （オプション）設定ファイルを保存する場合は、設定ファイルを保存する場所を「**テキストエクスポート設定に名前を付けて保存**」の「**保存**」ボックスで選択します。
  - 「**ファイル名**」ボックスにファイル名を入力します。
  - 「**タイプを指定して保存**」ボックスの設定は「**Text Export Configuration Files (\*.tec)**」のままにします。
  - 「**保存**」ボタンをクリックして **TEC** ファイルを保存します。

13. **高度な採点**がオープンされます。データの分析に必要な選択を行い（前項を参照）、**Remark Quick Stats** を実行します。

## 2.4 テスト評価レポートの概要

簡易採点または高度な採点を使用してデータを採点すると、数種類のレポートが利用できるようになります。レポートでは、異なる内容を表示したり、同じデータを異なる方法で示したりすることができます。

各レポートには、レポートの外見を指定するプロパティのセットがあります。レポートのプロパティは、**Remark Quick Stats** メインウィンドウの右にあるレポートスタイルペインからアクセスできます。プッシュピンをクリックすると、レポートスタイルペインの表示と非表示が切り替わります。ペイン内部には、レポートの変更可能なさまざまな部分のタブがあります。「**適用**」ボタンをクリックして変更します。また、どの時点でも「**デフォルト**」ボタンをクリックすると、レポートはソフトウェアがインストールされた時点のオリジナルの状態に戻ります。

以下の項では、各レポートについて簡単に説明し、その後設定可能なレポートのプロパティについて説明します。ここに示したオプションが、レポート実行時に表示されない場合は、レポートスタイルペインの設定を確認してください。これらのプロパティでは、レポートのセクションの表示と非表示を切り替えることができます。デフォルトで非表示の項目がいくつかあります。

テストの評価には、以下のレポートが使用できます。

### クラスと生徒に基づくレポート：

- レポート 100 — テスト分析レポート
- レポート 101 — 生徒統計レポート
- レポート 102 — 比較評価レポート
- レポート 103 — クラス頻度分布レポート
- レポート 104 — 生徒のスコアヒストグラムレポート
- レポート 105 — 生徒の回答レポート
- レポート 107 — 評価分布レポート
- レポート 111 — 学習目標レポート
- レポート 112 — 生徒の成果レポート

レポート 150 — 生徒の評価レポート (旧 301)

レポート 160 — 生徒の回答類似性レポート

**項目分析レポート：**

レポート 201 — 詳細項目分析レポート

レポート 203 — 項目分析グラフレポート

レポート 204 — 要約項目分析レポート

レポート 206 — 要約テストレポート (旧 106)

レポート 220 — 統合項目分析レポート

**テストおよび項目統計レポート：**

レポート 310 — テスト統計レポート (旧 104)

レポート 320 — テスト項目統計レポート (旧 207)

レポート 330 — 比較項目レポート

**回答レポート**

レポート 401 — 項目別の回答レポート

レポート 402 — 回答者別の回答レポート

**回答の変更レポート：**

レポート 500 — 項目別比較変更回答レポート

レポート 510 — 生徒別の変更比較回答レポート

レポート 520 — 項目別の回答変更レポート

レポート 530 — 生徒別の回答の変更レポート

### 2.4.1 レポート 100 - テスト分析レポート

テスト分析レポートはテストに関する要約情報を含みます。これは、全体的な成績と、注意すべき変則的な現象を概観する際に便利です。結果を詳しく調べるためには、他のレポートを使用できます。

テスト分析レポートでは次のオプションが使用できます。

オプション	説明
全体	評価されたテストの数、平均点、最高点、最低点などを表示します。最高点と最低点を取った生徒がカッコ内に示されます。
テスト統計	クロンバックの $\alpha$ 係数と統計に関するフィードバックを表示します (高または低)。
最も難しい/ 簡単な質問	正解のパーセンテージに基づいて、最も難しい問題と最も簡単な問題を表示します。表示される質問数は、レポートのスタイルプロパティに応じて可変です (最大 15)。
項目の統計	点双列に基づいて識別力の低い問題と識別力のない問題を表示します。これらの出題の妥当性を確認しても良いでしょう。

オプション	説明
生徒	レポートのスタイルプロパティで設定された回答しきい値に基づいて、回答内容がよく似ている生徒を表示します。
学習目標	高度な採点で定義された学習目標に対するクラスの平均が、設定したベンチマークを下回った場合、このセクションに学習目標がリストされます。

テスト分析レポートのプロパティを、次の表に要約して示します（レポートスタイルペインでアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら **[適用]** ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	テーブルヘッダー のフォントサイズ	レポートのテーブルヘッダーで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US</b> レターサイズ、 <b>US</b> リーガルサイズのいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	負の色	マイナスとして提示されたデータに使用する色を設定します。
	正の色	プラスとして提示されたデータに使用する色を設定します。
	類似する回答の しきい値	<b>2</b> 件のテスト回答が類似しており、レポートを作成する必要があるか判断するためのしきい値。たとえば、デフォルト設定の <b>90%</b> は、生徒 <b>2</b> 名の回答を比較して、質問の <b>90%</b> で同じ回答だった場合にレポートを作成するという意味です。
	小数点以下の 桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 <b>2</b> 桁）。
	質問の難易度	最も難しい問題と最も簡単な問題を表示する数を設定します（最大 <b>15</b> 問）。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。



レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポートヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。省略記号 (...) をクリックするとレイアウトをカスタマイズできます。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	レポートヘッダーの中のデータに適用したカスタムフィルタを表示するかどうかを設定します。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。

## 2.4.2 レポート 101 - 生徒統計レポート

生徒統計レポートは、クラスのテスト成績を見るために使用します。オプションとして、学習目標、客観問題、主観問題についての詳細な情報も表示されます。これは、生徒の成績と、彼らが標準に達しているかが簡単にわかる便利なレポートです。生徒統計レポートには、クラス内の各生徒、その生徒の成績、素点、パーセントスコア、およびスケールスコア（該当する場合）がリストされます。主観評価問題を使用する場合は、客観点数と主観点数の間に図示することができます。学習目標を使用している場合、目標はそれぞれ別々にリストされ、目標をマスターしているかどうかを示されます。ベンチマークスコアを使用している場合、ベンチマークバーグラフが各生徒に対してリストされ、その生徒が設定されたベンチマークスコアに到達しているかどうかを示されます。また、ベンチマークスコアを学習目標別に表示することもできます。また、他の統計データ（Z スコア、T スコア、ETS スコア、偏差 IQ、パーセンテージなども表示できます。このレポートは、生徒の成績、パーセントスコア、総得点で並べ替えることができます。

- **注：** 生徒 ID がフォーム上に、したがってデータセットにもあり（生徒氏名や ID 番号など）、それをこのレポートに表示したい場合、フォームテンプレートの中で（フィールド項目のプロパティ）、または高度な採点を使用して（質問のプロパティ）、

このデータを分析回答者 ID としてマークします。  
 生徒の成績統計レポートでは次のオプションが使用できます。

オプション	説明
生徒	テスト上で識別される生徒の一覧。分析回答者 ID を使用している場合、この情報は「生徒」列に表示されます（たとえば名前、ID 番号など）。分析回答者 ID として質問を何も指定していない場合、連続した番号が割り当てられます。
採点	高度な採点で選択した評価スケール、または <b>Remark Quick Stats</b> の基本設定でデフォルトに設定した評価スケールに基づいて、生徒が到達した成績を表示します。
スケールスコア	外部データベースファイルから取得した、各生徒のスケールスコアを表示します。点数は、総得点、パーセントスコア、パーセンテージに基づいて換算されます。この列は、高度な採点でスケールスコアが設定されている場合、または <b>Remark Quick Stats</b> の基本設定でデフォルトのスケールスコアに設定されている場合にのみ表示されます。
全体スコア	各生徒の総得点数を表示します。最初の数値は、生徒が得点したポイント数です。2 番目の数値は、そのテストで獲得可能なトータルのポイント数です。
パーセントスコア	各生徒が獲得したパーセント点を表示します。
成績の隔たり	ベンチマーク点が高度な採点で定義されている場合、または <b>Remark Quick Stats</b> の基本設定でベンチマークをオンにしている場合、この列には、生徒の得点と確立されたベンチマーク、および定義されたベンチマークと生徒の得点を相対的に示すバーグラフが表示されます。青い線はベンチマークを示します。生徒のバーグラフが緑色の場合、得点がベンチマークより高いことを示します。生徒のバーグラフが赤色の場合、得点がベンチマークより低いことを示します。バーグラフはレポートのプロパティ内でカスタマイズできます（レポートスタイルペイン）。
Z スコア	ある点数が、平均から標準偏差いくつぶん上または下であるかを、+ と-の記号で表した点数。
T スコア	負の数や小数点を含む Z スコアを変換した T スコアを表示します。T スコアは「 $10z + 50$ 」で表されます。
ETS スコア	負の数や小数点を含む Z スコアを変換した ETS スコアを表示します。これは、ETS（教育試験サービス）が使用しており、「 $100z + 500$ 」で表されます。
偏差 IQ	負の数や小数点を含む Z スコアを変換した偏差 IQ を表示します。偏差 IQ は「 $15z + 100$ 」で表されます。

オプション	説明
パーセンテージ	パーセンテージ(リストされたスコアよりも低いスコアのパーセンテージ)を表示します。たとえば、テストを受けた人の点数の 50%よりも高いテストスコアは第 50 パーセンテージ(50 パーセンタイル)になります。
客観的なスコアのパーセント	テスト内で獲得した客観的なスコアのパーセント点を表示し、そのテストで獲得可能な客観採点の最高点数をその後に続けて表示します。このセクションは、主観採点問題を含めた場合に客観採点と主観採点の点数を区別するために表示されます。
[客観] 正答	テストの客観採点部分での正解数を表示します。
[客観] 誤答	テストの客観採点部分での不正解数を表示します。
[客観] 欠測	テストの客観採点部分で回答が欠落している(無効なデータなど)質問数を表示します。
主観的なパーセントスコア	テスト内で獲得した主観的なパーセントスコア点を表示し、そのテストで獲得可能な主観採点の最高点数をその後に続けて表示します。このセクションは、テストに主観採点問題がある場合にのみ表示されます。

生徒統計レポートのプロパティを、次の表に要約して示します(レポートスタイルペインでアクセスできます)。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら[適用] ボタンをクリックしてください。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
データ	生徒を並べ替え	生徒を回答者 ID、パーセントスコア、総得点、パーセンテージ、成績ランクのいずれかで並べ替えるかどうかを指定します。
	並べ替え順	生徒を並べ替え(上記の基準に基づいて)を昇順と降順のどちらで行うかを設定します。
	採点	各生徒の採点結果を表示するかどうかを設定します。
	スケールスコア	各生徒が獲得したスケールスコアを表示するかどうかを設定します(該当する場合)。
	全体スコア	各生徒が獲得した合計スコアを表示するかどうかを設定します。
	特別課題	各生徒が獲得した特別課題の点数を表示するかどうかを設定します(該当する場合)。
	パーセントスコア	各生徒が獲得したパーセントスコアを表示するかどうかを設定します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	成績の隔たり	成績の隔たりを表示するかどうかを設定します。これは、現在の点数と予測されるベンチマーク点の差です（ベンチマークを使用する場合）。
	Z スコア	各生徒が獲得した Z スコアを表示するかどうかを設定します。
	T スコア	各生徒が獲得した T スコアを表示するかどうかを設定します。
	ETS スコア	各生徒が獲得した ETS スコアを表示するかどうかを設定します。
	偏差 IQ	各生徒の偏差 IQ を表示するかどうかを設定します。
	パーセンテージ	各生徒のパーセンテージを表示するかどうかを設定します。
	正答	このテストで正解の回答の数を、生徒単位で表示するかどうかを設定します。
	誤答	このテストで不正解の回答の数を、生徒単位で表示するかどうかを設定します。
	欠測	このテストで欠落している回答の数を、生徒単位で表示するかどうかを設定します。欠測したデータとは、有効でないすべてのデータを含みます。
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	テーブルヘッダー のフォントサイズ	レポートのテーブルヘッダーで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを A4、US レターサイズ、US リーガルサイズのいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	小数点以下の 桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 2 桁）。
	バーグラフの プロパティ	生徒の成績パーセンテージをトラッキングするバーグラフの外見を設定します。省略記号 (...) をクリックするとバーグラフをカスタマイズできます。
	行の網かけ	チャート内の行に 1 行おきに影をつけるかどうかを設定します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに 使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示する か、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタ ムヘッダーのレイアウトを設定します。省略記号 (...) を クリックするとレイアウトをカスタマイズできます。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定 します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定 義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定がで きるようになります。
	フィルタの表示	レポートヘッダーの中のデータに適用したカスタムフ ィルタを表示するかどうかを設定します。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。
ラベル	‘主観的’を 次に変更.....	レポートの主観評価の列に別の名前を入力できます。
	‘主観的’を 次に変更...	レポートの客観評価の列に別の名前を入力できます。
	‘合計’を 次に変更...	レポートの総得点の列に別の名前を入力できます。
	‘採点’を 次に変更...	レポートの成績ランクの列に別の名前を入力できます。
	‘スケールスコア’ を次に変更...	レポートのスケールスコアの列に別の名前を入力でき ます。

### 2.4.3 レポート 102 - 比較評価レポート

比較評価レポートは、生徒のグループの成績を比較します。このレポートは、生徒のサブグループがすべて適切に学んでいることを確認するための、分布レポートを作成する際に特に有効です。比較評価レポートを使用すると、データを分類するためのデータ片をデータセットから **3 種類**まで選択できます。レポートには、各サブグループの成績ランクが表示されます。たとえば、学校、講師、クラス、統計的な属性情報（性別や民族など）での比較ができます。このレポートは、各サブグループ内の生徒数、対応する成績ランク、パーセントスコア、ベンチマークスコア（該当する場合）、スケールスコア（該当する場合）を階層的な形式で表示します。

比較評価レポートでは次のオプションが使用できます。

オプション	説明
凡例	レポートの生成に使用する基準を表示します。
ベンチマーク	高度な採点または <b>Remark Quick Stats</b> の基本設定で目標ベンチマークスコアを入力していた場合、そのベンチマークスコアを表示します。
レポート基準	レポートの生成用に選択した質問を表示します。各回答者単位までのレポート記述はオプションです（レポートスタイルペインの[データ]タブで、この設定を確認してください）。
生徒	選択された各カテゴリに該当する生徒数を表示します。
採点	レポートの各レベルで到達した得点を表示します（たとえば、レポートの生成用に選択した各質問に対して）。
スケールスコア	スケールスコアを使用する場合、レポートの各レベルで到達したスケールスコアを表示します。
%	レポートの各レベルで到達した（つまりレポートの生成用に選択した各質問に対する）パーセントスコアを表示します。
成績の隔たり	定義されたベンチマークと、選択されたカテゴリ内での生徒の得点の差を表示します。

比較評価レポートのプロパティを、次の表に要約して示します（レポートスタイルペインでアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら **[適用]** ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	グルーブラベル	レポートで選択した各基準に対して、グルーブラベルを表示するかどうかを設定します。グルーブラベルは各基準の上に表示され、それがどのような基準であることを示

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
		します。通常は、凡例かグルーブラベルのどちらかを表 示します。
	個別の生徒	選択された各カテゴリに該当する生徒の実際の ID を表 示するかどうかを設定します。
	生徒	レポートの生徒列を表示するかどうかを設定します。こ の列には、各カテゴリに該当する生徒数が表示されま す。
	採点	レポートの採点列を表示するかどうかを設定します。
	スケールスコア	レポートのスケールスコア列を表示するかどうかを設 定します（該当する場合）。
	%	レポートのパーセントスコア列を表示するかどうかを 設定します。
	成績の隔たり	成績の隔たりを表示するかどうかを設定します。これ は、現在の点数と予測されるベンチマーク点の差です （ベンチマークを使用する場合）。
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	テーブルヘッダー のフォントサイズ	レポートのテーブルヘッダーで使用するフォントのサ イズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US レター</b> サイズ、 <b>US リーガル</b> サイズのいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	生徒の色	レポートにリストした生徒の文字色を設定します（該当 する場合）。
	目標の色	レポートにリストした学習目標の文字色を設定します （該当する場合）。
	グループ 3 の色	レポートにリストした 3 番目の基準グループの文字色を 設定します。
	グループ 2 の色	レポートにリストした 2 番目の基準グループの文字色を 設定します。
	グループ 1 の色	レポートにリストした最初の基準グループの文字色を 設定します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	小数点以下の 桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 <b>2</b> 桁）。
	バーグラフの プロパティ	生徒の成績パーセンテージをトラッキングするバーグラフの外見を設定します。省略記号 (...) をクリックするとバーグラフをカスタマイズできます。
	背景色	レポートの各テーブルの背景色を設定します。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	グループの凡例 の表示	レポートの凡例をレポートの上部に表示するかどうかを設定します。凡例は、レポートの生成に使用した基準を示します。
	フィルタの表示	レポートヘッダーの中のデータに適用したカスタムフィルタを表示するかどうかを設定します。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。
ラベル	‘パーセント’ を 次に変更...	レポートのパーセントの列に別の名前を入力できます。
	‘スケールスコア’ を次に変更...	レポートのスケールスコアの列に別の名前を入力できます。



比較評価レポートを実行するには

1. **Remark Quick Stats** のタスクペインで、[クラスと生徒のレポート] の下にある **102 - 比較評価レポート** へのリンクを選択します。
2. [グループ選択] ウィンドウで、レポートに含めたい質問を最大 3 問まで選択します。質問をダブルクリックするか、または [追加] ボタンを使用して、選択されたウィンドウに質問を移動します。緑色の矢印とウィンドウの中央にある **AZ** または **ZA** の記号を使用すると、項目をアルファベット順に並べ替えることができます。
  - **注:** 複数の質問を選択できます。キーボードの [Ctrl] キーを押しながら質問をクリックしてください。また、先頭位置の質問をクリックした後に [Shift] キーを押しながら末尾の質問をクリックすると、その範囲内の質問が選択されます。
3. [レポートを実行] ボタンをクリックしてレポートを実行します。



選択内容に基づいてレポートが画面に表示されます。[レポートスタイル] ウィンドウを使用すると、レポートを自由に変更できます。

## 2.4.4 レポート 103 - クラス頻度分布レポート

クラス頻度分布レポートは、クラス全体とテストの成績分布を示します。このレポートは、クラスの成績を瞬時に把握したい場合に便利です。クラス頻度分布レポートは、テストの成績スケール、パーセントスコア、各成績ランクの素点、成績スケールの中でランク別に指定した頻度を表示します。頻度それぞれに対応するパーセントがリストされます。カスタマイズ可能な頻度グラフも表示されます。さらに、該当する場合は各学習目標に対する頻度も計算できます。

クラス頻度分布レポートのプロパティを、次の表に要約して示します（レポートスタイルペインでアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら[適用]ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	テーブル	評価スケール、スコア、頻度、パーセントを含むテーブルを表示するかどうかを設定します。テーブルをオフにすると、グラフ、平均値、ベンチマーク情報のみが表示されます。
	採点	各生徒の採点結果を表示するかどうかを設定します。
	パーセントスコア	レポートのパーセントスコア列を表示するかどうかを設定します。
	生の点数	レポートの素点の列を表示するかどうかを設定します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	頻度	レポートの頻度の列を表示するかどうかを設定します。
	%	レポートのパーセントスコア列を表示するかどうかを設定します。
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US</b> レターサイズ、 <b>US</b> リーガルサイズのいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
グラフ オプション	グラフの プロパティ	グラフの種類、タイトル、色、フォントなどグラフのプロパティを設定します。
	グラフの表示	頻度情報のグラフを表示するかどうかを設定します。
	逆のグラフ	グラフを表示する際に評価スケールを反転させるかどうかを設定します。たとえば、評価スケールが <b>A</b> 、 <b>B</b> 、 <b>C</b> 、 <b>D</b> 、 <b>F</b> であり、グラフの反転がオンであれば、グラフは <b>F</b> 、 <b>D</b> 、 <b>C</b> 、 <b>B</b> 、 <b>A</b> の順に表示されます。
	グラフサイズ	レポートに表示するグラフのサイズを、小、中、大のいずれかに設定します。
	小数点以下の 桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 <b>2</b> 桁）。
	ページ区切り	各学習目標の情報を表示した後に、ページを区切るかどうかを設定します。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。省略記号 (...) をクリックするとレイアウトをカスタマイズできます。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
		義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	レポートヘッダーの中のデータに適用したカスタムフィルタを表示するかどうかを設定します。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。
ラベル	パーセントスコア を次に変更...	レポートのパーセントスコアの列に別の名前を入力できます。
	‘採点’を 次に変更...	レポートの成績ランクの列に別の名前を入力できます。

#### 2.4.5 レポート 104 - 生徒のスコアヒストグラムレポート

生徒のスコアヒストグラムレポートは、クラス全体とテストの成績分布を示します。クラス頻度分布と似ていますが、ここでは点数がヒストグラムの形式でグラフ化されます。このレポートは、クラスの成績を瞬時に把握したい場合に便利です。生徒の点数ヒストグラムレポートは、複数のテストの全体的な統計情報に続けて、点数を図で示すヒストグラム（カスタマイズ可能）を表示します。さらに、該当する場合には各学習目標に対するヒストグラムも計算できます。

生徒のスコアヒストグラムレポートでは、次のオプションが使用できます。

オプション	説明
ポイントの合計	そのテストで獲得可能な合計点（客観評価点数と、該当する場合には主観評価点数）を表示します。
合計生徒数	そのテストに回答した生徒の合計人数を表示します。
標準偏差	あるデータセットが、平均値からどの程度外れた位置にあるかを示します。データが離れているほど、偏差は大きくなります。この値は、分散の平方根を計算することで求められます。
中間値	分散の中央値。値のうち半分は中央より上に位置し、もう半分は中央より下に位置します。
平均スコア	全体の平均点を表示します。
信頼度係数 (KR20)	この公式はテストの信頼性を測定し、全体の内的整合性の測定値となります。値が高くなると、テスト項目の間の関連が強いということに

オプション	説明
	なります。
最大スコア	テストの最高得点を表示します。
最小スコア	テストの最低得点を表示します。
スコアの範囲	最高得点と最低得点の間の範囲を表示します。
平均スコア	テストの平均点を表示します。
ベンチマーク	高度な採点または <b>Remark Quick Stats</b> の基本設定で目標ベンチマークスコアを入力していた場合、そのベンチマークスコアを表示します（クラス平均を使用していない場合）。

生徒のスコアヒストグラムレポートのプロパティを、次の表に要約して示します（レポートスタイルペインでアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら **適用** ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	ステータス	テスト全体の統計情報を含むテーブルを表示するかどうかを設定します。
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US レターサイズ</b> 、 <b>US リーガルサイズ</b> のいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
グラフ オプション	グラフの プロパティ	グラフの種類、タイトル、色、フォントなどグラフのプロパティを設定します。
	グラフの表示	頻度情報のグラフを表示するかどうかを設定します。
	グラフのサイズ	レポートに表示するグラフのサイズを、小、中、大のいずれかに設定します。
一般	小数点以下の 桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 <b>2</b> 桁）。
	ページ区切り	各学習目標の情報を表示した後に、ページを区切るかどうかを設定します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに 使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示する か、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタ ムヘッダーのレイアウトを設定します。省略記号 (...) を クリックするとレイアウトをカスタマイズできます。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定 します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定 義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定がで きるようになります。
	フィルタの表示	レポートヘッダーの中のデータに適用したカスタムフ ィルタを表示するかどうかを設定します。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。

#### 2.4.6 レポート 105 - 生徒の回答レポート

生徒の回答レポートを使用すると、テストの全回答を生徒別や質問別に表示でき、生徒と質問の両面で成績を視覚的に理解できるようになります。生徒はレポートの左側に縦方向にリストされます。質問はレポートの上端に横方向にリストされます。採点対象の各質問に対する各生徒の回答は、色付きのボックス内に表示されます。正答は緑、誤答は赤のボックスです。白い空のボックスは、生徒が回答を空白にしたか、または回答が何らかの理由で無効であることを示します。レポートの左端には、合計点、パーセントスコア、評価、換算点（有効な場合）がリストされます。レポートの下端には、質問ごとの平均点と、合計点/パーセントスコア/評価の平均が表示されます。レポートに使用する色は、レポートスタイルのプロパティでカスタマイズできます。

生徒の回答レポートのプロパティを、次の表に要約して示します（レポートスタイルペインからアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら **適用** ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	生徒を並べ替え	生徒を回答者 ID、パーセントスコア、総得点、成績ランクのいずれかで並べ替えるかどうかを指定します。
	並べ替え順	生徒を並べ替え（上記の基準に基づいて）を昇順と降順のどちらで行うかを設定します。
	回答キー	回答キーラベルをレポートの上端（生徒の回答の上の行）に表示するかどうかを設定します。
	正答率	生徒の回答の下に正答率の行を表示するかどうかを設定します。正答率の行は、その質問に正しく回答した生徒のパーセンテージを示します。主観評価の質問と要約情報（レポートの末尾）の場合、正答率の行には平均が表示されます。
	合計スコア	生徒の合計点数をレポートに表示するかどうかを設定します。
	パーセントスコア	生徒のパーセントスコアをレポートに表示するかどうかを設定します。
	採点	生徒の評価をレポートに表示するかどうかを設定します。
	スケールスコア	スケールスコアを使用する場合、スケールスコアの列をレポートの末尾に表示するかどうかを設定します。
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US レターサイズ</b> 、 <b>US リーガルサイズ</b> のいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	グループ間に 改ページを入れる	各グループの情報を表示した後に、ページを区切るかどうかを設定します。
	主観的な質問	主観的な質問に正答/誤答/空白の色を割り当てるかどうかを設定します。
	正答の色	正答の背景色を設定します（デフォルトは緑）。
	正答の テキストの色	正答を表示する色を設定します（デフォルトは黒）。
	正答の 枠線のスタイル	正答の周囲を囲む枠のスタイルを、透明、実線（デフォルト）、破線、点線、一点鎖線、二点鎖線のいずれかに

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
		設定します。
	誤答の色	誤答の背景色を設定します（デフォルトは赤）。
	誤答の テキストの色	誤答を表示する色を設定します（デフォルトは黒）。
	誤答の 枠線のスタイル	誤答の周囲を囲む枠のスタイルを、透明、実線（デフォルト）、破線、点線、一点鎖線、二点鎖線のいずれかに設定します。
	無回答の色	未回答の背景色を設定します（デフォルトは白）。
	無回答の 枠線のスタイル	未回答の周囲を囲む枠のスタイルを、透明、実線（デフォルト）、破線、点線、一点鎖線、二点鎖線のいずれかに設定します。
	小数点以下の 桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 2 桁）。
	統計に網かけ	レポート内の最後の数列にグレーの影を付けるかどうかを設定します。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポートヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。省略記号 (...) をクリックするとレイアウトをカスタマイズできます。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	レポートヘッダーの中のデータに適用したカスタムフィルタを表示するかどうかを設定します。
	凡例の表示	レポートの凡例を表示するかどうかを設定します。凡例はレポートの色が何を意味するかを示し、表示をオンに

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
		するとレポートの上端に表示されます。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。
ラベル	‘合計スコア’を 次に変更...	レポートの総得点の列に別の名前を入力できます。
	パーセントスコア を次に変更...	レポートのパーセントスコアの列に別の名前を入力できます。
	‘採点’を 次に変更...	レポートの成績ランクの列に別の名前を入力できます。
	スケールスコア’ を次に変更...	レポートのスケールスコアの列に別の名前を入力できます。
	‘質問’を 次に変更...	レポートの質問列に別の名前を入力できます。

## 2.4.7 レポート 107 - 評価分布レポート

評価分布レポートは、生徒のグループの成績を比較します。このレポートは、生徒のサブグループがすべて適切に学んでいることを確認するための、分布レポートを作成する際に特に有効です。評価分布レポートを使用すると、データを分類するためのデータ片をデータセットから **3** 種類まで選択できます。レポートには、各サブグループの成績ランクが表示されます。たとえば、学校、講師、クラス、統計的な属性情報（性別やエスニシティなど）での比較ができます。このレポートは、各サブグループ内の生徒数、対応する成績ランク、パーセントスコア、ベンチマークスコア（該当する場合）、スケールスコア（該当する場合）をテーブル形式で表示します。

評価分布レポートでは次のオプションが使用できます。

オプション	説明
全体/目標	学習目標を使用している場合、レポートの最初の表「全体」というヘッダーがあり、その次の表ではヘッダーとして目標の名前がリストされます。
ベンチマーク	高度な採点または <b>Remark Quick Stats</b> の基本設定で目標ベンチマークスコアを入力していた場合、そのベンチマークスコアを表示します。



オプション	説明
レポート基準	レポートの生成用に選択したフォームテンプレートの質問を表示します。たとえば、レポートを性別で分ける場合は性別用の列が作られ、その下に選択肢（男性、女性）がリストされます。
生徒	選択された各カテゴリに該当する生徒数を表示します。
採点	レポートの各レベルで到達した得点を表示します（たとえば、レポートの生成用に選択した各質問に対して）。
スケールスコア	スケールスコアを使用する場合、レポートの各レベルで到達したスケールスコアを表示します。
%	レポートの各レベルで到達したパーセントスコアを表示します（たとえば、レポートの生成用に選択した各質問に対して）。
成績の隔たり	定義されたベンチマークと、選択されたカテゴリ内での生徒の得点の差を表示します。

評価分布レポートのプロパティを、次の表に要約して示します（レポートスタイルペインからアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら **[適用]** ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	生徒	レポートの生徒列を表示するかどうかを設定します。この列には、各カテゴリに該当する生徒数が表示されます。
	採点	レポートの評価列を表示するかどうかを設定します。
	スケールスコア	レポートのスケールスコア列を表示するかどうかを設定します（該当する場合）。
	%	レポートのパーセントスコア列を表示するかどうかを設定します。
	成績の隔たり	成績の隔たりを表示するかどうかを設定します。これは、現在の点数と予測されるベンチマーク点の差です（ベンチマークを使用する場合）。
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	テーブルヘッダー のフォントサイズ	レポート内の表で、ヘッダー行セクションに使用するフォントのサイズを設定します（生徒、評価、%など）。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US レターサイズ</b> 、 <b>US リーガル</b> サイズのいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	小数点以下の 桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 <b>2</b> 桁）。
	バーグラフの プロパティ	生徒の成績パーセンテージをトラッキングするバーグラフの外見を設定します。省略記号 (...) をクリックするとバーグラフをカスタマイズできます。
	行の網かけ	チャート内の行に <b>1</b> 行おきに影をつけるかどうかを設定します。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	レポートヘッダーの中のデータに適用したカスタムフィルタを表示するかどうかを設定します。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。
ラベル	‘パーセント’ を 次に変更...	レポートのパーセントの列に別の名前を入力できます。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	スケールスコア を次に変更...	レポートのスケールスコアの列に別の名前を入力でき ます。

評価分布レポートを実行するには

1. **Remark Quick Stats** のタスクペインで、[クラスと生徒  
のレポート] の下にある **107 - 評価分布レポート** へのリ  
ンクを選択します。
2. [グループ選択] ウィンドウで、レポートに含めたい質  
問を最大 **3** 問まで選択します。質問をダブルクリックす  
るか、または [追加] ボタンを使用して、選択されたウ  
ィンドウに質問を移動します。緑色の矢印とウィンドウ  
の中央にある **AZ** または **ZA** の記号を使用すると、項目  
をアルファベット順に並べ替えることができます。
  - 注: 複数の質問を選択できます。キーボードの [Ctrl]  
キーを押しながら質問をクリックしてください。ま  
た、先頭位置の質問をクリックした後に [Shift] キーを押しながら末尾の質問をク  
リックすると、その範囲内の質問が選択されます。
3. [レポートを実行] ボタンをクリックしてレポートを実行します。



選択内容に基づいてレポートが画面に表示されます。[レポートスタイル] ウィンドウを使  
用すると、レポートを自由に変更できます。

## 2.4.8 レポート 111 - 学習目標レポート

学習目標レポートは、テスト全体の平均点と、高度な採点で定義した各学習目標を表示しま  
す。レポートの左側に目標がリストされ、次に成績採点、合計点、パーセントスコアが、各  
学習目標に対してリストされます。スケールスコアを定義している場合は、スケールスコア  
も表示されます。主観評価問題が **1** 問または複数含まれる場合は、主観評価問題の合計が表  
示されます。ベンチマークスコアが定義されている場合、ベンチマークの差異を示すグラフ  
も表示されます。オプションとして、正答、誤答、無回答も表示できます。

クラスの学習目標レポートでは、次のようなオプションが使用できます。

オプション	説明
学習目標	高度な採点で定義した学習目標をリストします。
説明	学習目標に対してリストされた説明を表示します (高度な採点で定義 している場合)。

オプション	説明
採点	高度な採点で選択した評価スケール、または <b>Remark Quick Stats</b> の基本設定でデフォルトに設定した評価スケールに基づいて、達成されたクラスの平均評価を表示します。
スケールスコア	外部データベースファイルから取得した、平均のスケールスコアを表示します。点数は、総得点、パーセントスコア、パーセンテージに基づいて換算されます。この列は、高度な採点でスケールスコアが設定されている場合、または <b>Remark Quick Stats</b> の基本設定でデフォルトのスケールスコアに設定されている場合にのみ表示されます。
合計	テスト全体で到達した平均合計点と各学習目標を表示します。最初の数値は、達成された平均ポイント数です。2 番目の数値は、そのテストで獲得可能なトータルのポイント数です。
%	クラスの平均パーセントスコアを表示します。
成績の隔たり	ベンチマーク点が高度な採点で定義されている場合は、平均点と確立されたベンチマークの差と、定義されたベンチマークと平均点を相対的に示すバーグラフが表示されます。青い線はベンチマークを示します。バーグラフが緑色の場合、平均点がベンチマークより高いことを示します。バーグラフが赤色の場合、平均点がベンチマークより低いことを示します。バーグラフはレポートのプロパティ内でカスタマイズできます（レポートスタイルペイン）。
客観的なスコアのパーセント	テストの客観評価問題で、各学習目標に対して到達した平均の合計点を表示します。最初の数値は、達成された客観ポイント数の平均です。2 番目の数値は、各学習目標に対して獲得可能な客観ポイント数の合計です。
〔客観〕 正答	テストの客観採点部分での正解数の平均値を表示します。
〔客観〕 誤答	テストの客観採点部分での不正解数の平均値を表示します。
〔客観〕 欠測	テストの客観採点部分で回答が欠落している（無効なデータなど）質問数の平均値を表示します。
主観的なパーセントスコア	テスト全体で到達した平均の主観評価得点と各学習目標を表示します。最初の数値は、達成された主観ポイントの平均値です。2 番目の数値は、そのテストで獲得可能な主観ポイント数の合計です。

クラスの学習目標レポートのプロパティを、次の表に要約して示します（レポートスタイルペインからアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら **〔適用〕** ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	目標の並べ替え	学習目標を、氏名または獲得可能な最大ポイント数で並べ替えるかどうかを設定します。
	並べ替え順	生徒を並べ替え（上記の基準に基づいて）を昇順と降順のどちらで行うかを設定します。
	説明	学習目標の説明を含めるかどうかを設定します（高度な採点で定義していた場合）。
	評価	各生徒の採点結果を表示するかどうかを設定します。
	スケールスコア	各生徒が獲得したスケールスコアを表示するかどうかを設定します（該当する場合）。
	合計スコア	各生徒が獲得した合計スコアを表示するかどうかを設定します。
	パーセントスコア	各生徒が獲得したパーセントスコアを表示するかどうかを設定します。
	成績の隔たり	成績の隔たりを表示するかどうかを設定します。これは、現在の点数と予測されるベンチマーク点の差です（ベンチマークを使用する場合）。
	正答	このテストで正解の回答の数を、生徒単位で表示するかどうかを設定します。
	誤答	このテストで不正解の回答の数を、生徒単位で表示するかどうかを設定します。
	欠測	このテストで欠落している回答の数を、生徒単位で表示するかどうかを設定します。欠測したデータとは、有効でないすべてのデータを含みます。
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US レターサイズ</b> 、 <b>US リーガルサイズ</b> のいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 <b>2</b> 桁）。
	バーグラフのプロパティ	生徒の成績パーセンテージをトラッキングするバーグラフの外見を設定します。省略記号 (...) をクリックするとバーグラフをカスタマイズできます。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	要約の表示	テスト全体のデータを表示するかどうかを設定します。 このプロパティがオフの場合は、学習目標のデータのみが表示されます。
	行の網かけ	チャート内の行に 1 行おきに影をつけるかどうかを設定します。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。省略記号 (...) をクリックするとレイアウトをカスタマイズできます。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	レポートヘッダーの中のデータに適用したカスタムフィルタを表示するかどうかを設定します。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。
ラベル	‘主観的’を 次に変更.....	レポートの主観評価の列に別の名前を入力できます。
	‘主観的’を 次に変更...	レポートの客観評価の列に別の名前を入力できます。
	‘パーセント’を 次に変更...	レポートのパーセントの列に別の名前を入力できます。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	‘合計’を 次に変更...	レポートの総得点の列に別の名前を入力できます。
	‘採点’を 次に変更...	レポートの成績ランクの列に別の名前を入力できます。
	スケールスコア を次に変更...	レポートのスケールスコアの列に別の名前を入力できます。

#### 2.4.9 レポート 112 - 生徒の成果レポート

生徒の成果レポートでは、テストに対して設定したベンチマークに到達しているかという観点でテスト結果を見ることができます。テスト全体の点数と、高度な採点で設定したすべての学習目標を表示できます。内容を誰が理解し、誰が理解していないかがすぐにわかります。レポートの左側に生徒がリストされ、次に成績採点、合計点、パーセントスコアが、各生徒に対してリストされます。スケールスコアを定義している場合は、スケールスコアも表示されます。主観評価問題が 1 問または複数含まれる場合は、主観評価問題の合計が表示されます。ベンチマークスコアが定義されている場合、達成度のギャップを示すグラフも表示されます。オプションとして、正答、誤答、無回答も表示できます。

生徒の成果レポートでは次のオプションが使用できます。

オプション	説明
生徒	テスト上で識別される生徒の一覧。分析回答者 ID を使用している場合、この情報は [生徒] 列に表示されます（たとえば名前、ID 番号など）。分析回答者 ID として質問を何も指定していない場合、連続した番号が割り当てられます。
採点	高度な採点で選択した評価スケール、または <b>Remark Quick Stats</b> の基本設定でデフォルトに設定した評価スケールに基づいて、達成されたクラスの平均評価を表示します。
スケールスコア	外部データベースファイルから取得した、平均のスケールスコアを表示します。点数は、総得点、パーセントスコア、パーセンテージに基づいて換算されます。この列は、高度な採点でスケールスコアが設定されている場合、または <b>Remark Quick Stats</b> の基本設定でデフォルトのスケールスコアに設定されている場合にのみ表示されます。
合計	各生徒の総得点数を表示します。最初の数値は、生徒が得点したポイント数です。2 番目の数値は、そのテストで獲得可能なトータルのポイント数です。
特別課題	各生徒が獲得した特別課題の点数を表示します（該当する場合）。
%	各生徒が獲得したパーセント点を表示します。

オプション	説明
成績の隔たり	ベンチマーク点が高度な採点で定義されている場合、または <b>Remark Quick Stats</b> の基本設定でベンチマークをオンにしている場合、この列には、生徒の得点と確立されたベンチマーク、および定義されたベンチマークと生徒の得点を相対的に示すバーグラフが表示されます。青い線はベンチマークを示します。生徒のバーグラフが緑色の場合、得点がベンチマークより高いことを示します。生徒のバーグラフが赤色の場合、得点がベンチマークより低いことを示します。バーグラフはレポートのプロパティ内でカスタマイズできます（レポートスタイルペイン）。
Z スコア	ある点数が、平均から標準偏差いくつぶん上または下であるかを、+ と-の記号で表した点数。
T スコア	負の数や小数点を含む Z スコアを変換した T スコアを表示します。T スコアは「 $10z + 50$ 」で表されます。
ETS スコア	負の数や小数点を含む Z スコアを変換した ETS スコアを表示します。これは、ETS（教育試験サービス）が使用しており、「 $100z + 500$ 」で表されます。
偏差 IQ	負の数や小数点を含む Z スコアを変換した偏差 IQ を表示します。偏差 IQ は「 $15z + 100$ 」で表されます。
パーセンテージ	パーセンテージ（リストされたスコアよりも低いスコアのパーセンテージ）を表示します。たとえば、テストを受けた人の点数の 50% よりも高いテストスコアは第 50 パーセンテージ（50 パーセンタイル）になります。
客観的なスコアのパーセント	テスト内で獲得した客観的なスコアのパーセント点を表示し、そのテストで獲得可能な客観採点の最高点数をその後に続けて表示します。このセクションは、主観採点問題を含めた場合に客観採点と主観採点の点数を区別するために表示されます。
〔客観〕 正答	テストの客観採点部分での正解数を表示します。
〔客観〕 誤答	テストの客観採点部分での不正解数を表示します。
〔客観〕 欠測	テストの客観採点部分で回答が欠落している（無効なデータなど）質問数を表示します。
主観的なパーセントスコア	テスト内で獲得した主観的なパーセントスコア点を表示し、そのテストで獲得可能な主観採点の最高点数をその後に続けて表示します。このセクションは、テストに主観採点問題がある場合にのみ表示されます。

生徒の成果レポートのプロパティを、次の表に要約して示します（レポートスタイルペインからアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定された



ドロップダウンリストを使用します。変更したら「適用」ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	生徒を含める	生徒をベンチマークに到達したかしていないかで分類してレポートに含めるか、またはすべての生徒を対象にするかを設定します。
	生徒を並べ替え	生徒を回答者 ID やパーセントスコアで並べ替えるか、または並べ替えないかを設定します。
	並べ替え順	生徒を並べ替え（上記の基準に基づいて）を昇順と降順のどちらで行うかを設定します。
	客観的および主観的統計	主観評価と客観評価の問題を分割して表示するかどうかを設定します（該当する場合）。
	採点	各生徒の採点結果を表示するかどうかを設定します。
	スケールスコア	各生徒が獲得したスケールスコアを表示するかどうかを設定します（該当する場合）。
	合計スコア	各生徒が獲得した合計スコアを表示するかどうかを設定します。
	特別課題	各生徒が獲得した特別課題の点数を表示するかどうかを設定します（該当する場合）。
	パーセントスコア	各生徒が獲得したパーセントスコアを表示するかどうかを設定します。
	成績の隔たり	成績の隔たりを表示するかどうかを設定します。これは、現在の点数と予測されるベンチマーク点の差です（ベンチマークを使用する場合）。
	Z スコア	各生徒が獲得した Z スコアを表示するかどうかを設定します。
	T スコア	各生徒が獲得した T スコアを表示するかどうかを設定します。
	ETS スコア	各生徒が獲得した ETS スコアを表示するかどうかを設定します。
	偏差 IQ	各生徒の偏差 IQ を表示するかどうかを設定します。
	パーセンテージ	各生徒のパーセンテージを表示するかどうかを設定します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	正答	このテストで正解の回答の数を、生徒単位で表示するかどうかを設定します。
	誤答	このテストで不正解の回答の数を、生徒単位で表示するかどうかを設定します。
	欠測	このテストで欠落している回答の数を、生徒単位で表示するかどうかを設定します。欠測したデータとは、有効でないすべてのデータを含みます。
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを A4、US レターサイズ、US リーガルサイズのいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	小数点以下の 桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 2 桁）。
	バーグラフの プロパティ	生徒の成績パーセンテージをトラッキングするバーグラフの外見を設定します。省略記号 (...) をクリックするとバーグラフをカスタマイズできます。
	行の網かけ	チャート内の行に 1 行おきに影をつけるかどうかを設定します。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。省略記号 (...) をクリックするとレイアウトをカスタマイズできます。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	フィルタの表示	レポートヘッダーの中のデータに適用したカスタムフィルタを表示するかどうかを設定します。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。
ラベル	‘主観的’を 次に変更.....	レポートの主観評価の列に別の名前を入力できます。
	‘主観的’を 次に変更...	レポートの客観評価の列に別の名前を入力できます。
	‘合計’を 次に変更...	レポートの総得点の列に別の名前を入力できます。
	スケールスコア を次に変更...	レポートのスケールスコアの列に別の名前を入力できます。
	‘採点’を 次に変更...	レポートの成績ランクの列に別の名前を入力できます。
	‘パーセント’を 次に変更...	レポートのパーセントの列に別の名前を入力できます。

#### 2.4.10 レポート 150 - 生徒の評価レポート

生徒の評価レポートは、各生徒に対するすべてのテスト情報を表示します。これは、生徒、保護者、教員、ガイダウンスカウンセラーなどに返却できます。マークした回答を示すテストフォームのイメージを含みます（オプション）。生徒評価レポートは、生徒 1 人に対して 1 度実行し、それぞれの成績、総得点、パーセントスコア、スケールスコア（該当する場合）、およびベンチマークスコア（該当する場合）を示します。また、該当する場合は学習目標の成績也表示します。各質問とともに、生徒の回答、正解かどうか（誤答はハイライトされます）、またオプションとして、不正解だった場合の正しい回答をリストできます。レポートヘッダーをカスタマイズして、最高点、最低点、中央値、平均点、採点されたテストの数などの分類情報を、各生徒のレポートに含めることができます（[レポートスタイル | Custom Header Layout]）。レポートには、次のようなオプションを入れることができます。

オプション	意味
生徒	生徒の ID 情報を表示します。フォームテンプレートまたは高度な採点で、質問が分析回答者 ID に設定されている場合、ここに情報が表示されます（たとえば名前、ID 番号など）。分析回答者 ID がない場合、採点レ

オプション	意味
	ポートは連続した番号を反映させます。
採点	生徒の成績（A～F の評価）を表示します。
スケールスコア	高度な採点または <b>Remark Quick Stats</b> の基本設定でスケールスコアを入力していた場合、そのスケールスコアを表示します。
合計スコア	未加工の合計点（客観スコア、主観スコア、特別課題を含む）を表示します。
パーセントスコア	対応するパーセントスコア（客観スコア、主観スコア、特別課題を含む）を表示します。
バーグラフ	生徒の点数と設定されたベンチマーク（定義されている場合）を比較したバーグラフを表示します。
ベンチマーク	高度な採点または <b>Remark Quick Stats</b> の基本設定でベンチマーク点が定義されている場合は、テストのベンチマーク点を表示します。
質問	評価対象になっている質問名を表示します。
回答	生徒が各質問に対して選択した回答を表示します。回答が間違っている場合は、黄色でハイライトされます。間違えた解答に対して、正解を表示するかどうかを選択できます（このプロパティは、間違えた解答の色と同じように、レポートスタイルペインで設定できます）。
正答	間違えた質問の正しい答えを表示します（オプション）。
テストイメージ	生徒のテストのイメージを表示します（オプション）。

生徒の評価レポートのプロパティを、次の表に要約して示します（レポートスタイルペインでアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら **[適用]** ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	生徒を並べ替え	生徒を回答者 ID、パーセントスコア、総得点、パーセンテージ、成績ランクのいずれかで並べ替えるかどうかを指定します。
	並べ替え順	生徒を並べ替え（上記の基準に基づいて）を昇順と降順のどちらで行うかを設定します。
	採点	各生徒の採点結果を表示するかどうかを設定します。
	スケールスコア	各生徒が獲得したスケールスコアを表示するかどうかを設定します（該当する場合）。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	合計スコア	各生徒が獲得した合計スコアを表示するかどうかを設定します。
	パーセント スコア	各生徒が獲得したパーセントスコアを表示するかどうかを設定します。
	ベンチマーク	高度な採点または <b>Remark Quick Stats</b> の基本設定でベンチマーク点が定義されている場合は、テストのベンチマーク点を表示するかどうかを設定します。
	学習目標	高度な採点で学習目標を定義していた場合、学習目標のスコア情報を表示するかどうかを設定します。
<b>書式設定</b>	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US レターサイズ</b> 、 <b>US リーガルサイズ</b> のいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	ページ区切り	各生徒の評価レポートの後にページ区切りを挿入するかどうかを設定します。
	配点の表示	各質問に割り当てられた点数を表示するかどうかを設定します。
	正答の表示	間違えた問題の正解を表示するかどうかを設定します。
	回答の表示	生徒の回答をレポートに表示するかどうかを設定します。
	誤答の テキストの色	間違えた回答の文字色を設定します。この機能を使用すると、間違えた回答がレポート上でわかりやすくなります。
	誤答の ハイライト色	間違えた回答のハイライト色を設定します。間違えた回答をハイライトすると、どの質問を間違えたかが、生徒にすぐわかるようになります。
	部分的な クレジット項目 のハイライト色	部分評価のハイライト色を設定します。たとえば、主観評価問題で、割り当てられた最大点数を得られなかった場合の点数（生徒が <b>20</b> 点のうち <b>15</b> 点を獲得したなど）です。部分評価の回答をハイライトしない場合は、ハイライト色として白を選択してください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	特別課題の テキストの色	特別課題に指定した回答の文字色を設定します。この機能を使用すると、特別課題の回答がレポート上でわかりやすくなります。
	特別課題の ハイライト色	特別課題に指定した回答のハイライト色を設定します。特別課題の回答をハイライトすると、どの質問が特別課題であるかがすぐわかるようになります。
	質問の表示	表示する質問のタイプを、すべて、正答のみ、誤答のみのいずれかに設定します。
	表示列数	回答を表示する列の数を設定します。列の数を多くすると、ページ内に収まる量は少なくなります。
イメージ形式	品質	各学生のテストに表示するイメージの品質を、低、中、高のいずれかに設定します。高品質で表示すると、レポートの実行にかかる時間が大幅に長くなることがあるので注意してください。
	イメージの方向	レポートに表示されるテストイメージの向きを設定します。
	ページイメージ の表示	各生徒のテストイメージをレポートに表示するかどうかを、[None (なし)] または [ALL (すべて)] に設定します。イメージを何枚表示するかを示す値をここに入力することもできます（複数ページのテストにのみ適用）。
	表示列数	各生徒のテストイメージを表示する列数を設定します。列数を多くすると、表示されるテストイメージは小さくなります。
	イメージの手前 で改ページ	各生徒のレポートの中で、イメージ部分の前にページ区切りを挿入するかどうかを設定します。
	イメージ幅	レポートのサイズに対するイメージ幅を設定します。パーセンテージを小さくするとイメージが縮小され、大きくするとイメージが拡大されます（注：イメージを印刷すると、通常はソフトウェア内で表示するよりも品質が良くなります）。
	小数点以下の 桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 2 桁）。
	バーグラフの プロパティ	生徒の成績パーセンテージをトラッキングするバーグラフの外見を設定します。省略記号 (...) をクリックするとバーグラフをカスタマイズできます。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	行の網かけ	チャート内の行に 1 行おきに影をつけるかどうかを設定します。
	プロンプトの 表示	このプロパティを [はい] に設定すると、[回答者の選択] ウィンドウが表示され、そこでレポートに生徒を含めるを選択できます。このプロパティを [いいえ] に設定すると、採点対象のデータセット内にリストされる生徒は全員、レポートに含まれるようになります。このレポートは、特にイメージを表示する場合にメモリーを多く消費するので、生徒の人数が多い場合は、このプロパティを使用してバッチで実行すると良いでしょう。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。省略記号 (...) をクリックするとレイアウトをカスタマイズできます。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	レポートヘッダーの中のデータに適用したカスタムフィルタを表示するかどうかを設定します。
	凡例の表示	レポートの凡例を表示するかどうかを設定します。凡例はレポートの色が何を意味するかを示し、表示をオンにするとレポートの上端に表示されます。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
ラベル	‘スコア(%)’ を 次に変更...	レポートのスコア%の列に別の名前を入力できます。
	‘合計スコア’ を 次に変更...	レポートの総得点の列に別の名前を入力できます。
	‘採点’ を 次に変更...	レポートの成績ランクの列に別の名前を入力できます。
	スケールスコア を次に変更...	レポートのスケールスコアの列に別の名前を入力できます。

生徒の評価レポートを実行するには

1. **Remark Quick Stats** のタスクペインで、「クラスと生徒のレポート」の下にある **[150 - 生徒の評価レポート]** のリンクを選択します。プロンプトの表示する設定を **[はい]** にしている場合、**[回答者選択]** ウィンドウが表示されます。プロンプトの表示する設定を **[いいえ]** にしている場合は、単にレポートが表示されます（この設定はレポートスタイルペインで変更できます）。
2. （オプション）**[回答者選択]** ウィンドウで、レポートに含めたい生徒を選択します。**[回答者選択]** ウィンドウは、レポートスタイルペインで**プロンプトの表示するプロパティ**を**[はい]**に設定している場合のみ表示されます。生徒をダブルクリックするか、または**[追加]** ボタンを使用して、選択されたウィンドウに生徒を移動します。緑色の矢印とウィンドウの中央にある **AZ** または **ZA** の記号を使用すると、生徒名をアルファベット順に並べ替えることができます。
  - **注:** 複数の生徒を選択できます。キーボードの **[Ctrl]** キーを押しながら生徒をクリックしてください。また、先頭位置の生徒をクリックした後に **[Shift]** キーを押しながら末尾の生徒をクリックすると、その範囲内の生徒が選択されます。また、二重の矢印をクリックすると生徒全員が選択されます。
3. （オプション）生徒に対してプロンプトの表示している場合は、**[レポートを実行]** ボタンをクリックしてレポートを実行します。
  - **ヒント:** 生徒評価レポートにテストイメージを表示させる場合、画面で表示するよりも印刷したほうが見やすくなります。イメージを高品質にするには、レポートスタイルペインでイメージの品質プロパティを「高」に設定してください。高品質のイメージを使用すると、レポートの実行に時間がかかる場合があるので注意してください。



選択内容に基づいてレポートが画面に表示されます。**[レポートスタイル]** ウィンドウを使用すると、レポートを自由に変更できます。



### 2.4.11 レポート 160 - 生徒の回答類似性レポート

生徒の回答類似性レポートは、設定されたしきい値に基づいて、テスト回答がよく似ている生徒を表示します。Remark Quick Stats は、データを分析して、回答セットが類似する生徒を検索します。デフォルトの類似度しきい値は **90%** ですが、この値はレポートスタイルペインで変更できます。このレポートは、類似している割合、共通の正答数、共通の誤答数、異なっている質問の数、生徒が別々である実際の質問をリストします。このレポートは、生徒がお互いの答案を見せ合っているかもしれないという疑いがある場合に便利です。

生徒の回答の類似性レポートでは、次のオプションが使用できます。

オプション	説明
生徒	テスト上で識別される生徒の一覧。分析回答者 ID を使用している場合、この情報は [生徒] 列に表示されます（たとえば名前、ID 番号など）。分析回答者 ID として質問を何も指定していない場合、連続した番号が割り当てられます。
類似している生徒	設定されたしきい値に基づいて、よく似た回答をしている生徒をリストします。
類似している割合	テストの中で、メインの生徒に類似している質問のパーセンテージをリストします。
類似している正答	回答が類似（共通）しており、かつ正解だった質問の数を表示します。
類似している誤答	回答が類似（共通）しており、かつ不正解だった質問の数を表示します。
異なっている数	リストされた生徒たちの中で、回答が異なっている質問の数を表示します。
異なる回答	生徒たちが違う回答をした質問の質問名を表示します。

生徒の類似性レポートのプロパティを、次の表に要約して示します（レポートスタイルペインからアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら[適用]ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	生徒を並べ替え	メインの生徒リストを回答者 ID で並べ替えるかどうかを設定します。
	並べ替え順 - 生徒	生徒を並べ替え（上記の基準に基づいて）を昇順と降順のどちらで行うかを設定します。
	類似する生徒を 並べ替え	レポートの中で、類似する生徒の部分と並べ替える基準を、回答者 ID、共通する回答の数、共通する正答の数、共通する誤答の数、並べ替えない、のいずれかに設定し

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
		ます。
	並べ替え順 - 類似	類似する生徒を並べ替え（上記の基準に基づいて）を昇順と降順のどちらで行うかを設定します。
	全体の パーセントスコア	レポートのスコア（%）列を表示するかどうかを設定します。
	客観的なスコアの パーセント	レポートの類似性（%）列を表示するかどうかを設定します。
	正答の類似性	レポートの類似する正答の列を表示するかどうかを設定します。
	誤答の類似性	レポートの類似する誤答の列を表示するかどうかを設定します。
	番号の違い	レポートの異なる回答数の列を表示するかどうかを設定します。
	異なる回答	レポートの異なる回答の列を表示するかどうかを設定します。
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US</b> レターサイズ、 <b>US</b> リーガルサイズのいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	小数点以下の 桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 <b>2</b> 桁）。
	類似する回答の しきい値	<b>2</b> 件のテスト回答が類似しており、レポートを作成する必要があるか判断するためのしきい値。たとえば、デフォルト設定の <b>90%</b> は、生徒 <b>2</b> 名の回答を比較して、質問の <b>90%</b> で同じ回答だった場合にレポートを作成するという意味です。
	行の網かけ	チャート内の行に <b>1</b> 行おきに影をつけるかどうかを設定します。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。省略記号 (...) をクリックするとレイアウトをカスタマイズできます。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	レポートヘッダーの中のデータに適用したカスタムフィルタを表示するかどうかを設定します。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。

## 2.4.12 レポート 201 - 詳細項目分析レポート

詳細項目分析レポートは、回答選択肢の頻度情報を、質問単位で示します。これは、テスト評価の際に出題の妥当性を調べる場合に便利です。詳細項目分析レポートでは、生徒が質問に対してどのように回答したかがわかります。出題に関して問題がある場合（質問文の言葉使いが良くないなど）、その質問を破棄することも、別の回答選択肢を正答として認めることもできます。この場合、高度な採点で質問プロパティを調節して、テストフォームを再スキャンする必要はありません。質問はそれぞれ別々の表に表示されます。各表の先頭には、質問文（フォームテンプレートや高度な採点で質問文が定義されていない場合は質問名）が表示されます。表の右側には、頻度のグラフが表示されます。レポートスタイルのプロパティを変更すると、グラフをカスタマイズできます。

次の統計情報が利用できます。

統計情報	意味
回答	質問のプロパティで指定されたラベル（回答選択肢）を表示します。
頻度	この質問で、ある特定の回答選択肢を生徒が選択した回数（たとえば、回答選択肢がデータセット内に出現する回数など）を表示します。

統計情報	意味
%	対応する頻度のパーセンテージを表示します。
点双列	項目を差別化する基準。これは、指定した項目への回答と、回答者の得点全体の関係を示します。点双列は、ある質問が、点数の良い生徒と良くない生徒を区別する基準になるかどうかを示します。点双列の範囲は-1 から 1 です。値が高くなると、テストで高得点を取っている生徒が、この回答を選んだということになります。
欠測	<b>Remark Quick Stats</b> の基本設定で、欠測している値を含めるように設定した場合、欠測している回答の数に対して指定されたラインが表示されます。欠測している値とは、空白や複数 (BLANK または MULT) 回答など、有効でない値をすべて指します。また、複数回答と空白の回答を抜き出すかどうかを、基本設定で選択することもできます。抜き出さない場合、その行は無効な回答となります。抜き出す場合、空白行には「無回答」、複数回答が許可されていない場合に複数回答があれば「複数回答」と表示されます。
合計	有効な回答全体の数と、それに対応するパーセンテージを表示します。欠測している値を含める場合、欠測した値の合計数が、合計値に含まれます。
学習目標	その質問を利用する定義済みの学習目標を表示します。

詳細項目分析レポートのプロパティを、次の表に要約して示します (レポートスタイルペインでアクセスできます)。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら [適用] ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	回答の並べ替え	各質問に対して、回答 (選択肢) を頻度で並べ替えるかどうかを設定します。回答を並べ替えると、選ばれた回数が最も多い選択肢と最も少ない選択肢がすぐにわかります。
	頻度	レポートの頻度列を表示するかどうかを設定します。
	%	レポートのパーセント (%) 列を表示するかどうかを設定します。
	点双列	レポートの点双列の列を表示するかどうかを設定します。
	学習目標	高度な採点で定義した各学習目標を、レポートのそのセクションに表示するかどうかを設定します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US レターサイズ</b> 、 <b>US リーガルサイズ</b> のいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	ページ区切り	各質問の情報を表示した後に、ページを区切るかどうかを設定します。
	グラフの プロパティ	グラフの種類、タイトル、色、フォントなどグラフのプロパティを設定します。調節するには、省略記号 (...) をクリックします。
	グラフの位置	グラフの位置を、テーブル内部またはテーブルの下に設定します。
	グラフのサイズ	レポートに表示するグラフのサイズを、小、中、大のいずれかに設定します。
	グラフの表示	パーセント情報のグラフを表示するかどうかを設定します。
	イタリック体 <b>NA</b>	レポートされた <b>NA</b> （該当なし）の回答選択肢を斜体にするかどうかを設定します。 <b>NA</b> の回答選択肢は、フォームテンプレートで設定されます。
	<b>NA</b> 色	<b>NA</b> （該当なし）の回答選択肢の色を設定します。 <b>NA</b> の回答選択肢は、フォームテンプレートで設定されます。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 <b>2</b> 桁）。
	長い回答	長い回答（回答選択肢）を折り返すか短縮する（切り詰める）かを設定します。
	テーブルヘッダー	表を識別するためにその上に何を表示するかを、 <b>Auto Number</b> （連続番号）、 <b>Display Question Name</b> （質問名）、 <b>Display Question Text</b> （質問文）、 <b>Item Number</b> （テスト内の順番で表示される項目番号）の中から選択します。
	行の網かけ	チャート内の行に <b>1</b> 行おきに影をつけるかどうかを設定します。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。省略記号 (...) をクリックするとレイアウトをカスタマイズできます。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	レポートヘッダーの中のデータに適用したカスタムフィルタを表示するかどうかを設定します。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。

### 2.4.13 レポート 203 - 項目分析グラフレポート

項目分析グラフレポートは、回答選択肢の頻度情報を、質問単位で示します。これは、テスト評価の際に出題の妥当性を調べる場合に便利です。項目分析グラフレポートには、詳細項目分析レポートに表示されるグラフと、各グラフに関連する限定的な情報が含まれます。このレポートは詳細項目分析レポートの簡易版であり、グラフ情報のみを参照またはエクスポートする場合に適しています。オプションとして、グラフの生成に使用する回答および頻度パーセンテージを表示できます。レポートのプロパティ（レポートスタイルペイン）を調節すると、各グラフに対応するデータの表示と非表示を切り替えることができます。レポートスタイルペインでは、各ページにグラフを何個表示するかを指定したり、グラフをカスタマイズしたりすることもできます。

項目分析グラフレポートのプロパティを、次の表に要約して示します（レポートスタイルペインからアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら **[適用]** ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	回答の並べ替え	各質問に対して、回答（選択肢）を頻度で並べ替えるかどうかを設定します。回答を並べ替えると、選ばれた回数が最も多い選択肢と最も少ない選択肢がすぐにわかります。
	回答項目	各グラフの右側に、回答項目情報を含むチャートを表示するかどうかを設定します。
	平均	レポートの各質問に対する平均値を表示するかどうかを設定します（調査を作表する場合にのみ該当）。
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US レターサイズ</b> 、 <b>US リーガルサイズ</b> のいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	イタリック体 <b>NA</b>	レポートされた <b>NA</b> （該当なし）の回答選択肢を斜体にするかどうかを設定します。 <b>NA</b> の回答選択肢は、フォームテンプレートで設定されます。
	<b>NA</b> 色	<b>NA</b> （該当なし）の回答選択肢の色を設定します。 <b>NA</b> の回答選択肢は、フォームテンプレートで設定されます。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 <b>2</b> 桁）。
	グラフのプロパティ	グラフの種類、タイトル、色、フォントなどグラフのプロパティを設定します。調節するには、省略記号 (...) をクリックします。
	長い回答	長い回答（回答選択肢）を折り返すか短縮する（切り詰める）かを設定します。
	グラフのヘッダー	各グラフの上にヘッダーを表示するかどうかを設定します。ヘッダーには、 <b>Auto Number</b> （自動番号）、 <b>Question Name</b> （質問名）、 <b>Question Text</b> （質問文）、 <b>Item Number</b> （項目番号）があります。質問文が長くなると、文章全体の長さに合わせてレポートのページ数が拡張されるので注意してください。
	行の網かけ	チャート内の行に <b>1</b> 行おきに影をつけるかどうかを設定します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	表示列数	グラフを表示する列数を設定します。回答項目も表示する場合は、 <b>2</b> 列を推奨します。回答項目を表示しない場合は、ページ内の列数を増やしても良いでしょう。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。省略記号 (...) をクリックするとレイアウトをカスタマイズできます。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	レポートヘッダーの中のデータに適用したカスタムフィルタを表示するかどうかを設定します。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。

#### 2.4.14 レポート 204 - 要約項目分析

要約項目分析レポートは、回答選択肢の頻度情報を、質問単位で示します。これは、テスト評価の際に出題の妥当性を調べる場合に便利です。これは、詳細項目分析レポートと同じ情報を、要約した状態で表示します。各表の先頭には、質問文（質問文が定義されていない場合は質問名）が表示されます。統計情報を含む表の右側には、バーグラフが表示されます。バーグラフは正答を緑、誤答を赤で表示します。誤答が正答よりも多く選択されている場合、バーグラフは黄色になります。オプションとして、変更された回答をバーグラフに含めることができます（バツ印を付け、大きなマークを無視する機能で検出されたもの、またはデータグリッド内や例外レビュー中に変更されたデータ）。空白、複数、無効回答がある質問も表示できます。これらをグループ化して表示するか個別に表示するかは、**Remark Quick**



Stats の基本設定で管理できます。

次のオプションが使用できます。

統計情報	意味
質問	フォームテンプレートまたは高度な採点で定義されている質問文（質問文が定義されていない場合は質問名）を表示します。
回答	質問のプロパティで指定されたラベル（回答選択肢）を表示します。
頻度	この質問で、ある特定の回答選択肢を生徒が選択した回数（たとえば、回答選択肢がデータセット内に出現する回数など）を表示します。
%	対応するトータルのパーセンテージを表示します。
バーグラフ	頻度を示すバーグラフを表示します。正答のバーグラフは緑色、誤答のバーグラフは赤色になります。
無回答	データセット内で空白の回答がある場合は、トータルおよび対応するパーセント値が、各質問に対して表示されます。空白の値の表示は、 <b>Remark Quick Stats</b> の基本設定で設定できます。
複数	データセット内で複数の回答がある場合（かつ複数回答不可の場合）は、トータルおよび対応するパーセント値が、各質問に対して表示されます。複数の値の表示は、 <b>Remark Quick Stats</b> の基本設定で設定できます。
無効	データセット内で無効の回答がある場合は、トータルおよび対応するパーセント値が、各質問に対して表示されます。無効な回答とは、ラベルとして定義したものとは一致しない回答です。エラーコードや、ラベルが大文字の「A」を要求している時に小文字の「a」を使用した場合などです。

要約項目分析レポートのプロパティを、次の表に要約して示します（レポートスタイルペインからアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら[適用]ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	頻度	レポートの頻度列を表示するかどうかを設定します。
	平均	レポートの各質問に対する平均値を表示するかどうかを設定します（調査を作表する場合にのみ該当）。
	変更された回答 を含める	1 つをバツ印で消して他の項目を選択した回答数を示す、積み上げ式バーグラフを含めるかどうかを設定します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US レターサイズ</b> 、 <b>US リーガルサイズ</b> のいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	イタリック体 <b>NA</b>	レポートされた <b>NA</b> （該当なし）の回答選択肢を斜体にするかどうかを設定します。 <b>NA</b> の回答選択肢は、フォームテンプレートで設定されます。
	<b>NA</b> 色	<b>NA</b> （該当なし）の回答選択肢の色を設定します。 <b>NA</b> の回答選択肢は、フォームテンプレートで設定されます。
	<b>NA</b> バーの色	頻度の <b>NA</b> バーグラフの色を設定します。 <b>NA</b> の回答選択肢は、フォームテンプレートで設定されます。
	小数点以下の 桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 <b>2</b> 桁）。
	バーグラフの プロパティ	頻度パーセンテージをトラッキングするバーグラフの外見を設定します。省略記号 (...) をクリックすると調節できます。
	テーブルヘッダー	表を識別するためにその上に何を表示するかを、 <b>Auto Number</b> （連続番号）、 <b>Display Question Name</b> （質問名）、 <b>Display Question Text</b> （質問文）、 <b>Item Number</b> （テスト内の順番で表示される項目番号）の中から選択します。
ヘッダー/ フッター	変更された 応答パターン	<b>1</b> つをバツ印で消して他の項目を選択した回答数を示す、積み上げ式バーグラフのパターンを設定します。
	変更された 回答の色	<b>1</b> つをバツ印で消して他の項目を選択した回答数を示す、積み上げ式バーグラフの色を設定します。
	長い回答	長い回答（回答選択肢）を折り返すか短縮する（切り詰める）かを設定します。
	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。省略記号 (...) をクリックするとレイアウトをカスタマイズできます。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	レポートヘッダーの中のデータに適用したカスタムフィルタを表示するかどうかを設定します。
	凡例の表示	レポートの凡例を表示するかどうかを設定します。凡例はレポートの色が何を意味するかを示し、表示をオンにするとレポートの上端に表示されます。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。

#### 2.4.15 レポート 206 - 要約テストレポート

要約テストレポートは、質問別に回答選択肢の頻度情報を、誤った選択肢やクラスのスコア情報を含めて示します。このレポートは、質問とクラスの成績を同時に見る場合に便利です。要約テストレポートは、テストの各質問とともに、各回答選択肢の頻度をリストします。誤った選択肢とそれ以外の選択肢がわかるので、その問題の成績を確認できます。点双列の統計と上下のパーセンテージが表示されます。オプションとして、クラスのスコアデータを表示できます。これは、獲得可能な最大点数、生徒総数、標準偏差、スコアの間値と平均点、信頼度係数、最大スコア、最小スコア、スコアの範囲を含みます。また、成績が最高/最低の質問を確認したい場合は、このレポートを並べ替えることもできます。

- **注：** 回答ラベルの長さが数文字を超える場合、レポートのデフォルトでは、回答頻度の上のラベル行に、回答ラベルのインデックスを表示します。

次の統計情報が利用できます。

統計情報	意味
ポイントの合計	そのテストで獲得可能な合計点（客観評価点数と、該当する場合には主観評価点数）を表示します。

統計情報	意味
合計生徒数	そのテストに回答した生徒の合計人数を表示します。
標準偏差	あるデータセットが、平均値からどの程度外れた位置にあるかを示します。データが離れているほど、偏差は大きくなります。この値は、分散の平方根を計算することで求められます。
中間値	分散の中央値。値のうち半分は中央より上に位置し、もう半分は中央より下に位置します。
平均スコア	全体の平均点を表示します。
信頼度係数 (KR20)	この公式はテストの信頼性を測定し、全体の内的整合性の測定値となります。値が高くなると、テスト項目の間の関連が強いということになります。
最大スコア	テストの最高得点を表示します。
最小スコア	テストの最低得点を表示します。
スコアの範囲	最高得点と最低得点の間の範囲を表示します。
No.	テストの項目番号を表示します。
質問	フォームテンプレートで定義した質問の文章を表示します。
正答	各質問に関して、回答キーから取得した正答を表示します。
回答の頻度	ある特定の質問で特定の回答選択肢を生徒が選択したパーセンテージまたは合計回数（たとえば、回答選択肢がデータセット内に出現するパーセンテージまたは合計回数）を表示します。
不正解の選択肢	どの生徒からも選択されなかった選択肢を（頻度が 0）を表示します。
正答グループの回答	合計%の列は、その質問に正しく回答した生徒のパーセンテージを示します。上位 27%の列は、テスト全体で上位 27%に入る生徒の中で、その個別質問に正答した生徒のパーセンテージを表示します。下位 27%の列は、テスト全体で下位 27%に入る生徒の中で、その個別質問に正答した生徒のパーセンテージを表示します。この数値は、テスト統計の下で Remark Quick Stats の基本設定で調節できます。
点双列	項目を差別化する基準。これは、指定した項目への回答と、回答者の得点全体の関係を示します。点双列は、ある質問が、点数の良い生徒と良くない生徒を区別する基準になるかどうかを示します。点双列の範囲は-1 から 1 です。値が高くなると、テストで高得点を取っている生徒が、この回答を選んだということになります。

要約テストレポートのプロパティを、次の表に要約して示します（レポートスタイルペインからアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら [適用] ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	質問を 並べ替える	質問を、質問インデックス、正答パーセント、点双列で 並べ替えるかどうかを設定します。
	並べ替え順	生徒を並べ替え（上記の基準に基づいて）を昇順と降順 のどちらで行うかを設定します。
	質問番号	レポートの <b>No.</b> 列を表示して、質問番号を示すかどうか を設定します。
	質問名	質問名の列を表示して、フォームテンプレートの質問名 を示すかどうかを設定します。
	正答	レポートの正答列を表示するかどうかを設定します。
	不正解の 選択肢なし	レポートの「選択されなかった選択肢」セクションを表 示して、生徒が選択しなかった選択肢を示すかどうかを 設定します。
	正答グループ	レポートの正答グループ回答セクションを表示するか どうかを設定します。
	点双列	レポートの点双列の列を表示するかどうかを設定しま す。
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US レターサイズ</b> 、 <b>US リーガル</b> サイズのいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	テスト統計の 表示	テスト統計セクションをレポートのヘッダーに表示す るかどうかを設定します（[合計点] から [点数の範囲]）。
	テスト統計を 繰り返す	レポートのテスト統計セクションを、レポートの全ペー ジで繰り返して表示するかどうかを設定します。テスト 統計を先頭ページのみを設定すると、テスト統計セクシ ョンはレポートの最初のページにのみ表示されます。テ スト統計を全ページに設定すると、テスト統計セクショ ンはレポートのすべてのページに表示されます。
	小数点以下の 桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点 以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 <b>2</b> 桁）。
	行の網かけ	チャート内の行に <b>1</b> 行おきに影をつけるかどうかを設定 します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	紛らわしい 選択肢の色	正答よりも多く選ばれている選択肢に付ける色を設定します。
	回答のタイプ	回答の頻度行にリストする回答の表示形式をラベル、値、インデックスのいずれかに設定します。ラベルはフォームテンプレートの「ラベル」グリッドに入力されたラベルを参照し、値はフォームテンプレートの「値」グリッドに入力された値を参照し、インデックスは回答選択肢の数値インデックスを参照します（たとえば、回答が A-E の場合、インデックスでは A が最初で E が最後になります）。
	回答頻度の タイプ	回答頻度の表示タイプを、パーセント（デフォルト）または合計数のどちらかに設定します。
	質問を含める	客観評価問題、主観評価問題、またはその両方のタイプの質問をレポートに含めるかどうかを設定します。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。省略記号 (...) をクリックするとレイアウトをカスタマイズできます。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	レポートヘッダーの中のデータに適用したカスタムフィルタを表示するかどうかを設定します。
	凡例の表示	レポートの凡例を表示するかどうかを設定します。凡例はレポートの色が何を意味するかを示し、表示をオンにするとレポートの上端に表示されます。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。

#### 2.4.16 レポート 220 - 統合項目分析レポート

統合項目分析レポートは、要約項目分析レポートと項目別の回答レポートを連結して、項目の分析情報と自由回答形式の情報を 1 つのレポートで把握できるようにしたものです。このレポートは、テンプレートフィールド定義と同じ質問順序に従います。

統合項目分析レポートのプロパティを、次の表に要約して示します（レポートスタイルペインからアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら[適用]ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	頻度	レポートの頻度列を表示するか非表示にするかを設定します。
	平均	平均値の計算をレポートに表示するかどうかを設定します。
	変更された回答を含める	選択され、その後積み上げ式のバーグラフに変更された回答選択肢を表示するかどうかを設定します。変更された回答とは、バツ印と「大きなマークを無視する」機能を使用してデータグリッド内で検出した回答、または例外レビュー内での変更です。
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US レターサイズ</b> 、 <b>US リーガルサイズ</b> のいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	ページ区切り	各フィールド内に質問が何問あるかに基づいて、各質問または質問セットの間にページ区切りを置くかどうかを設定します。
	イタリック体 <b>NA</b>	レポートされた <b>NA</b> （該当なし）の回答選択肢を斜体にするかどうかを設定します。 <b>NA</b> の回答選択肢は、フォームテンプレートで設定されます。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	NA 色	NA（該当なし）の回答選択肢の色を設定します。NA の回答選択肢は、フォームテンプレートで設定されます。
	NA バーの色	NA（該当なし）の回答選択肢のバーグラフの色を設定します。NA の回答選択肢は、フォームテンプレートで設定されます。
	回答者 ID	レポート内で分析回答者 ID として識別された質問を表示するかどうかを設定します。この機能を使用すると、回答と回答者がリンクされます。この機能を使用するが分析回答者 ID として指定した質問がない場合、各回答は連続した番号とともに表示されます。
	行の網かけ	チャート内の行に 1 行おきに影をつけるかどうかを設定します。
	イメージの品質	各項目で表示するイメージの品質を、低、中、高のいずれかに設定します。高品質で表示すると、レポートの実行にかかる時間が大幅に長くなることがあるので注意してください。高品質で表示すると、レポートの実行にかかる時間が大幅に長くなることがあるので注意してください。レポートを印刷すると、画面よりもクリアに見えることがあります。
	並べ替え項目	レポートの回答セクションを回答者 ID または回答で並べ替えるかどうかを設定します（デフォルトでは並べ替えません）。
	並べ替え順	回答の並べ替え（上記の基準に基づいて）を昇順と降順のどちらで行うかを設定します。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 2 桁）。
	バーグラフのプロパティ	頻度パーセンテージをトラッキングするバーグラフの外見を設定します。省略記号 (...) をクリックすると調節できます。
	質問のヘッダー	各質問を識別するためにその上に何を表示するかを、項目番号、質問テキストを表示、質問名の表示、自動番号の中から選択します。
	プロンプトの表示	質問選択ウィンドウを表示してレポートの回答セクションの項目を選択できるようにするか、単純にすべての質問に対してレポートを表示するかを設定します。



レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	変更された 応答パターン	変更された回答のバーグラフのパターンを設定します。 このプロパティはテストの採点にのみ適用されます。
	変更された 回答の色	変更された回答のバーグラフの色を設定します。このプロパティはテストの採点にのみ適用されます。
	長い回答	長い回答（回答選択肢）を折り返すか短縮する（切り詰める）かを設定します。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
	凡例の表示	バーグラフの何色が何を表しているかを示す凡例を表示するかどうかを設定します（テストの採点にのみ適用）。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	レポートのフッターに使用する日付（または日時）の形式を設定します。

#### 統合項目分析レポートを実行するには

1. **Remark Quick Stats** タスクペインの項目分析レポートの下で、**220 - 統合項目分析レポート**へのリンクを選択します。

2. [回答レポートの質問選択] ウィンドウで、レポートに含めたい質問を選択します。質問をダブルクリックするか、または[追加] ボタンを使用して、選択されたウィンドウに質問を移動します。二重の矢印を使用すると、質問がすべて追加されます。緑色の矢印とウィンドウの中央にある **AZ** または **ZA** の記号を使用すると、項目をアルファベット順に並べ替えることができます。

- **注:**複数の質問を選択できます。キーボードの[Ctrl] キーを押しながら質問をクリックしてください。また、先頭位置の質問をクリックした後に[Shift] キーを押しながら末尾の質問をクリックすると、その範囲内の質問が選択されます。



3. [レポートを実行] ボタンをクリックしてレポートを実行します。要約項目分析レポートが最初に表示され、その後に続けて、選択された質問への回答が、質問別にグループ化されて表示されます。

選択内容に基づいてレポートが画面に表示されます。[レポートスタイル] ウィンドウを使用すると、レポートを自由に変更できます。

## 2.4.17 レポート 310 - テスト統計レポート

テスト統計レポートは、テストの基本統計全体を表示します。これは、成績と基本的な統計分析をすぐに表示できるという点で便利です。テスト統計レポートの表示内容：

- 採点データ：獲得可能なテスト点数、採点された項目数、最高点と最低点
- 統計情報：平均点、ベンチマーク、範囲、標準偏差、分散
- パーセンテージ：第 25 および第 75 百分位数、プラス四分位範囲、中央値
- 信頼区間：1、5、95 および 99% 区間 テスト信頼性：キューダー・リチャードソンおよびクロンバックの  $\alpha$  統計

レポートスタイルペインで、統計情報グループの表示と非表示を切り替えることができます。次の統計情報が利用できます。

グループ名	統計情報	説明
採点データ	評価済み項目の数	評価された項目数を表示します。
	可能合計ポイント	テストの合計点を表示します。
	最大スコア	テストの最高得点を表示します。
	最小スコア	テストの最低得点を表示します。
統計情報	平均スコア	全体の平均点を表示します。
	平均パーセントスコア	すべての平均パーセント点を表示します。
	ベンチマーク	高度な採点で入力したベンチマークパーセント点を表示します (該当する場合)。これは、生徒が十

グループ名	統計情報	説明
		分に学習したと見なされるために到達しなければならない点数です。平均パーセント点と比較すると、ベンチマークに対する生徒の到達地点がわかります。
	点数の範囲	最高得点と最低得点の間の範囲を表示します。
	標準偏差	あるデータセットが、平均値からどの程度外れた位置にあるかを示します。データが離れているほど、偏差は大きくなります。この値は、分散の平方根を計算することで求められます。
	分散	平均値から個々の点数がどの程度離れているかという値の二乗（その数値同士の乗算）。
パーセンテージ	百分位数 (25 および 75)	パーセンテージとは、データのサンプルを、(できるだけ) 同じ数の対象を含む 100 個のグループに分ける値です。たとえば、データ値の 25% は、第 25 百分位数より下に位置します。
	中央値	テストの中間値を表示します。
	四分位範囲	第 75 百分位数と第 25 百分位数間の差異を表示します。
信頼区間	信頼区間 (1、5、95、99%)	信頼区間は、未知の母集団母数を含むと思われる値の範囲を見積もります。これは、与えられたサンプルデータのセットから計算して見積もった範囲です。同じ母集団から独立したサンプルを連続して取得し、各サンプルに対して信頼区間が計算される場合、その区間のあるパーセンテージ（信頼レベル）は、未知の母集団母数を含みます。 <b>Remark Office OMR は、1%、5%、95%、99% の信頼区間を計算します。</b>
テストの信頼性	Kuder-Richardson の公式 20	この公式はテストの信頼性を測定し、全体の内的整合性の測定値となります。値が高くなると、テスト項目の間の関連が強いということになります。
	Kuder-Richardson の公式 21	この公式はテストの信頼性を測定し、全体の内的整合性の測定値となります。値が高くなると、テスト項目の間の関連が強いということになります。
	係数（クロンバック） の $\alpha$	項目のグループが、1 つの考えまたは構想にどの程度うまく焦点を合わせているかを示す係数。

グループ名	統計情報	説明
	測定の標準誤差	特定の生徒グループからのテストの点数に付随する測定誤差の標準偏差。獲得したテスト点数の周囲の信頼帯を計算する際、個別のテスト点数の信頼性の欠如をわかりやすく表現する場合に役立ちます。また、スコアバンドを使用して、個人内または個人間のスコアの差を解釈することもできます。

テスト統計レポートのプロパティを、次の表に要約して示します（レポートスタイルペインでアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら **適用** ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	スコアデータ	レポートの「採点データ」セクションを表示するかどうかを設定します。このセクションは採点された項目の数、合計点、最高得点、最低得点を含みます。
	統計値	レポートの「統計」セクションを表示するかどうかを設定します。このセクションは平均点、平均パーセント点、ベンチマーク点、点数の範囲、標準偏差、分散を含みます。
	百分位数	レポートの「百分位数」セクションを表示するかどうかを設定します。このセクションは第 <b>25</b> および第 <b>75</b> 百分位数、四分位範囲、中間地を含みます。
	信頼区間	レポートの「信頼区間」セクションを表示するかどうかを設定します。このセクションは信頼区間 <b>1、5、95、99%</b> を含みます。
	テストの信頼性	レポートの「テストの信頼性」セクションを表示するかどうかを設定します。このセクションは <b>Kuder-Richardson</b> や係数 <b><math>\alpha</math></b> を含みます。
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4、US レターサイズ、US リーガルサイズ</b> のいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	小数点以下の 桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 2 桁）。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。省略記号 (...) をクリックするとレイアウトをカスタマイズできます。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。
ラベル	‘主観的’を 次に変更.....	レポートの主観評価の列に別の名前を入力できます。
	‘客観的’を 次に変更...	レポートの客観評価の列に別の名前を入力できます。

#### 2.4.18 レポート 320 - テスト項目統計レポート

テスト項目統計レポートは、各質問の統計情報を表示します。これにより、どの質問が正しく、または間違って回答されているか、および質問の妥当性情報を素早く確認できます。テスト項目統計レポートは、各質問と点数の値、その質問がテスト上で何度採点されたか、その質問を正しく回答した生徒と誤って回答した生徒と回答しなかった生徒の人数、点双列

(あるテスト項目の成績とテスト全体の成績がどの程度密接に関連しているかを測る方法)、その質問に正解した生徒のパーセンテージ (P-値と呼ぶこともあります) を表示します。次の統計情報が利用できます。

統計情報	説明
質問	質問名 (定義されている場合) を表示します。テンプレートまたは高度な採点で質問の文章が定義されていない場合は、質問名を表示します。項目に自動的に連続した番号を付けるよう選択したり、テスト問題の項目番号を表示したりすることもできます。
ポイント	質問に割り当てられた正解の配点数を表示します。
質問数	採点対象になっている質問数を表示します。
正答	この質問に正解を回答した生徒数を表示します。
誤答	この質問を間違えて回答した生徒数を表示します。
欠測	この質問を未回答 (空白) にした生徒数を表示します。
点双列	項目を差別化する基準。これは、指定した項目への回答と、回答者の得点全体の関係を示します。点双列は、ある質問が、点数の良い生徒と良くない生徒を区別する基準になるかどうかを示します。点双列の範囲は-1 から 1 です。値が高くなると、テストで高得点を取っている生徒が、この回答を選んだということになります。
ベンチマーク	高度な採点または <b>Remark Quick Stats</b> の基本設定で個別質問の目標ベンチマークスコアを入力していた場合、そのベンチマークスコアを表示します。
正答率	この質問に正解を回答した生徒数のパーセンテージを表示します。
成績の隔たり	高度な採点または <b>Remark Quick Stats</b> の基本設定でベンチマーク点が定義されている場合は、生徒の点数と設定されたベンチマーク、および定義されたベンチマークと生徒の点数の関係を示すバーグラフが表示されます。青い線はベンチマークを示します。生徒のバーグラフが緑色の場合、得点がベンチマークより高いことを示します。生徒のバーグラフが赤色の場合、得点がベンチマークより低いことを示します。バーグラフは、レポートスタイルペインにあるレポートのプロパティ内でカスタマイズできます。

テスト項目統計レポートのプロパティを、次の表に要約して示します (レポートスタイルペインでアクセスできます)。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら[適用]ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	質問の並べ替え	生徒を質問名、正解率、点双列のいずれかで並べ替えるかどうかを設定します。
	並べ替え順	質問の並べ替え（上記の基準に基づいて）を昇順と降順のどちらで行うかを設定します。
	正答のポイント	レポートのポイント列を表示するかどうかを設定します。ポイント列は、その質問に正しく回答した場合に得られる点数を表します。
	採点された数	レポートの評価列を表示するかどうかを設定します。評価列は、テスト上で採点された質問の数を表します。
	正答の数	レポートの正答列を表示するかどうかを設定します。正答の列は、テストでその質問に正しく回答した生徒の数を示します。
	誤答の数	レポートの誤答列を表示するかどうかを設定します。誤答の列は、テストでその質問に間違えて回答した生徒の数を示します。
	欠測の数	レポートの回答なしの列を表示するかどうかを設定します。回答なしの列は、テストでその質問に回答しなかった生徒の数を示します。
	点双列	レポートの点双列の列を表示するかどうかを設定します。
	ベンチマーク	レポートのベンチマーク列を表示するかどうかを設定します。
	正答率	レポートの正答率の列を表示するかどうかを設定します。
	成績の隔たり	レポートの成績の隔たりの列を表示するかどうかを設定します。
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US レターサイズ</b> 、 <b>US リーガルサイズ</b> のいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 <b>2</b> 桁）。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	バーグラフの プロパティ	生徒の正答率をトラッキングするバーグラフの外見を設定します。省略記号 (...) をクリックするとバーグラフをカスタマイズできます。
	行の網かけ	チャート内の行に 1 行おきに影をつけるかどうかを設定します。
	項目ラベル	レポート上にリストされた各質問を識別するために、質問列に何を表示するかを設定します。 <b>Auto Number</b> (連続番号)、 <b>Display Question Name</b> (質問名)、 <b>Display Question Text</b> (質問文)、 <b>Item Number</b> (テスト内の順番で表示される項目番号) の中から選択します。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。省略記号 (...) をクリックするとレイアウトをカスタマイズできます。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。



## 2.4.19 レポート 330 - 比較項目レポート

比較項目レポートでは、各質問に対して特定の基準で分類した採点結果を確認できます。レポートのベースとして使用するデータから、質問を選択できます。たとえば、このレポートは人口統計グループを比較するような場合に特に便利です。たとえば、回答者がテストフォームで性別のカテゴリをマークしていれば、性別に分けてデータを確認できます。レポートのベースとして使用するデータから、最大 3 問の質問を選択できます。

比較項目レポートでは次のオプションが使用できます。

オプション	説明
レポート基準	レポートの生成用に選択した質問を表示します。
生徒	選択された各カテゴリに該当する生徒数を表示します。
正答率	各項目グループの正答率を表示します。
成績の隔たり	生徒の点数とその問題の平均点の差、および平均点とその生徒の点数の関係を示すバーグラフを表示します。青い線は平均点を示します。生徒のバーグラフが緑色の場合、得点が平均より高いことを示します。生徒のバーグラフが赤色の場合、得点が平均より低いことを示します。バーグラフは、レポートスタイルペインにあるレポートのプロパティ内でカスタマイズできます。

比較項目レポートのプロパティを、次の表に要約して示します（レポートスタイルペインからアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら [適用] ボタンをクリックしてください。

レポートのセクション名	レポートのプロパティ	説明
データ	生徒	レポートの生徒列を表示するかどうかを設定します。
	正答率	レポートの正答率の列を表示するかどうかを設定します。
	成績の隔たり	レポートの成績の隔たりの列を表示するかどうかを設定します。
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US レターサイズ</b> 、 <b>US リーガルサイズ</b> のいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	項目ラベル	レポートにリストした各項目（データセットの質問）の文字色を設定します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	グループ 3 の色	レポートにリストした 3 番目の基準グループの文字色を設定します。
	グループ 2 の色	レポートにリストした 2 番目の基準グループの文字色を設定します。
	グループ 1 の色	レポートにリストした最初の基準グループの文字色を設定します。
	小数点以下の 桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 2 桁）。
	バーグラフの プロパティ	生徒の正答率をトラッキングするバーグラフの外見を設定します。省略記号 (...) をクリックするとバーグラフをカスタマイズできます。
	グループラベル の表示	レポートで選択した各基準に対して、グループラベルを表示するかどうかを設定します。グループラベルは各基準の上に表示され、それがどのような基準であるかを示します。通常は、凡例かグループラベルのどちらかを表示します。
	背景色	レポート内の表の背景色を設定します。
	行の枠線	情報の各行の周囲に枠線を表示するかどうかを設定します。
	テーブルヘッダー	表を識別するためにその上に何を表示するかを、質問名または質問文のどちらかに設定します。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。省略記号 (...) をクリックするとレイアウトをカスタマイズできます。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
		義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
	凡例の表示	レポートの凡例を各ページの先頭に表示するかどうかを設定します。凡例は、レポートの生成に使用した基準を示します。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。

#### 比較項目レポートを実行するには

1. **Remark Quick Stats** のタスクペインで、[テストと項目統計レポート] の下にある **330-比較項目レポート** へのリンクを選択します。
2. [質問選択] ウィンドウで、レポートに含めたい質問を選択します。質問をダブルクリックするか、または [追加] ボタンを使用して、選択されたウィンドウに質問を移動します。緑色の矢印とウィンドウの中央にある **AZ** または **ZA** の記号を使用すると、項目をアルファベット順に並べ替えることができます。
  - **注：** 複数の質問を選択できます。キーボードの [Ctrl] キーを押しながら質問をクリックしてください。また、先頭位置の質問をクリックした後に [Shift] キーを押しながら末尾の質問をクリックすると、その範囲内の質問が選択されます。
3. [レポートを実行] ボタンをクリックしてレポートを実行します。



選択内容に基づいてレポートが画面に表示されます。[レポートスタイル] ウィンドウを使用すると、レポートを自由に変更できます。

#### 2.4.20 レポート 401 - 項目別の回答レポート

項目別の回答レポートは、フォーム上の質問に対して指定された回答をすべて表示します。デフォルトでは、フォームテンプレートまたは高度な採点で採点されない質問はいずれも、項目別の回答レポートに含めることができます。レポートスタイルペインでレポートのプロパティを調節すると、評価されているかどうかに関わらず、すべての質問を選択対象にできます。このレポートは、イメージフィールドのデータを表示し、記述式の質問に回答者がどのように回答したかを調べられるので便利です。データ入力イメージフィールドに対しては、

データグリッドに入力したテキストが表示されます。イメージクリップイメージフィールドに対しては、フォームの処理中にキャプチャされた回答者の手書き文字のイメージが表示されます。項目別の回答レポートは、質問別にグループ化されます（つまり、まず質問を表示し、次に回答を表示することができます）。レポートスタイルペインのレポートプロパティで、回答とともに分析回答者 ID を含むかどうかを選択できます。フォームテンプレートまたは高度な採点で、分析回答者 ID の質問が指定されていない場合、回答には連続した番号が付けられます。

項目別回答レポートのプロパティを、次の表に要約して示します（レポートスタイルペインでアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら **[適用]** ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	並べ替え項目	質問を回答者 ID と回答のどちらで並べ替えるかを設定します。
	並べ替え順	質問の並べ替え（上記の基準に基づいて）を昇順と降順のどちらで行うかを設定します。
	回答者 ID	レポートの分析回答者 ID で識別される質問を表示するかどうかを設定します（フォームテンプレートまたは高度な採点で定義されていた場合）。この機能を使用すると、回答と回答者がリンクされます。この機能を使用するが分析回答者 ID として指定した質問がない場合、各回答は連続した番号とともに表示されます。
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US レターサイズ</b> 、 <b>US リーガルサイズ</b> のいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	ページ区切り	各項目の後にページ区切りを挿入するかどうかを設定します。
	すべての質問を表示	評価/作表対象の質問と評価/作表対象外の質問の両方を、レポートに対して利用可能な質問のリストに含めるかどうかを設定します。通常このレポートは、コメントや調査など評価/作表対象外の質問に対して実行します。ただし、レポート内の評価/作表対象の質問も使用できます。このプロパティを <b>[はい]</b> に設定すると、フォームテンプレートの質問がすべて表示されます。
	行の網かけ	チャート内の行に <b>1</b> 行おきに影をつけるかどうかを設定します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	イメージの品質	各項目で表示するイメージの品質を、低、中、高のいずれかに設定します。高品質で表示すると、レポートの実行にかかる時間が大幅に長くなることがあるので注意してください。
	質問の 識別ラベル	レポート上で各質問を識別する文を設定します（たとえば「質問：何かコメントはありますか?」など）。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。省略記号 (...) をクリックするとレイアウトをカスタマイズできます。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。

#### 項目別の回答レポートを実行するには

1. **Remark Quick Stats** のタスクペインで、[回答のレポート] の下にある **401 - 項目別の回答レポート** へのリンクを選択します。
2. [回答レポートの質問選択] ウィンドウで、レポートに含めたい質問を選択します。質問をダブルクリックするか、または [追加] ボタンを使用して、選択されたウィンドウに質問を移動します。緑色の矢印とウィンドウの中央にある **AZ** または **ZA** の記号を使用すると、項目をアルファベット順に並べ替えることができます。

- **注:**複数の質問を選択できます。キーボードの[Ctrl]キーを押しながら質問をクリックしてください。また、先頭位置の質問をクリックした後に[Shift]キーを押しながら末尾の質問をクリックすると、その範囲内の質問が選択されます。

3. **「レポートを実行」** ボタンをクリックしてレポートを実行します。

選択内容に基づいてレポートが画面に表示されます。[レポートスタイル] ウィンドウを使用すると、レポートを自由に変更できます。



## 2.4.21 レポート 402 - 回答者別の回答レポート

回答者別の回答レポートは、フォーム上の質問に対する回答者の回答を表示します。デフォルトでは、フォーム上で評価されない質問はいずれも、回答者別の回答レポートに含めることができます。レポートスタイルペインでレポートのプロパティを調節すると、評価されているかどうかに関わらず、すべての質問を選択対象にできます。このレポートは、イメージフィールドのデータを表示し、記述式の質問に回答者がどのように回答したかを調べられるので便利です。データ入力イメージフィールドに対しては、データグリッドに入力したテキストが表示されます。イメージクリップイメージフィールドに対しては、フォームの処理中にキャプチャされた回答者の手書き文字のイメージが表示されます。回答者別の回答レポートは、回答者に応じてグループ化されます（たとえば、まず回答者をリストし、次に、選択した質問すべてに対してその回答者が回答した内容をリストすることができます）。レポートスタイルペインのレポートプロパティで、回答とともに分析回答者 ID を含むかどうかを選択できます。フォームテンプレートまたは高度な採点ファイルで、分析回答者 ID の質問が指定されていない場合、回答には連続した番号が付けられます。

回答者別の回答レポートのプロパティを、次の表に要約して示します（レポートスタイルペインからアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら**「適用」** ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	並べ替え項目	項目を回答者 ID のアルファベット順に並べ替えるかどうかを設定します。
	並べ替え順	質問の並べ替え（上記の基準に基づいて）を昇順と降順のどちらで行うかを設定します。
	質問の名前/ テキスト	各回答の隣に質問文を表示するか、または何も定義されていない場合に質問名を表示するかを設定します。
	回答者 ID	レポートの分析回答者 ID で識別される質問を表示するかどうかを設定します（フォームテンプレートまたは高

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
		度な採点で定義されていた場合)。この機能を使用すると、回答と回答者がリンクされます。この機能を使用するが分析回答者 ID として指定した質問がない場合、各回答は連続した番号とともに表示されます。
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US レターサイズ</b> 、 <b>US リーガルサイズ</b> のいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	ページ区切り	各項目の後にページ区切りを挿入するかどうかを設定します。
	すべての質問を表示	評価/作表対象の質問と評価/作表対象外の質問の両方を、レポートに対して利用可能な質問のリストに含めるかどうかを設定します。通常このレポートは、コメントや調査など評価/作表対象外の質問に対して実行します。ただし、レポート内の評価/作表対象の質問も使用できます。このプロパティを [はい] に設定すると、フォームテンプレートの質問がすべて表示されます。
	行の網かけ	チャート内の行に 1 行おきに影をつけるかどうかを設定します。
	イメージの品質	各項目で表示するイメージの品質を、低、中、高のいずれかに設定します。高品質で表示すると、レポートの実行にかかる時間が大幅に長くなることがあるので注意してください。
	回答者の 識別ラベル	レポート上で各回答者を識別する文を設定します（たとえば「回答者：Jane Smith」など）。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。



レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。省略記号 (...) をクリックするとレイアウトをカスタマイズできます。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。

#### 回答者別の回答レポートを実行するには

1. **Remark Quick Stats** のタスクペインで、[回答のレポート] の下にある **402 - 回答者別の回答レポート** へのリンクを選択します。
2. [回答レポートの質問選択] ウィンドウで、レポートに含めたい質問を選択します。質問をダブルクリックするか、または [追加] ボタンを使用して、選択されたウィンドウに質問を移動します。緑色の矢印とウィンドウの中央にある **AZ** または **ZA** の記号を使用すると、項目をアルファベット順に並べ替えることができます。
  - **注:** 複数の質問を選択できます。キーボードの [Ctrl] キーを押しながら質問をクリックしてください。また、先頭位置の質問をクリックした後に [Shift] キーを押しながら末尾の質問をクリックすると、その範囲内の質問が選択されます。
3. [レポートを実行] ボタンをクリックしてレポートを実行します。



選択内容に基づいてレポートが画面に表示されます。[レポートスタイル] ウィンドウを使用すると、レポートを自由に変更できます。



## 2.4.22 レポート 500 - 項目別比較変更回答

Remark Office OMR は、大きなマークを無視する機能を使用する場合に、変更された回答をトラッキングできます。これにより、ソフトウェアはバツ印で消された回答を無視し、完全に塗りつぶされた回答を検出します。たとえば、試験にペンを使用した生徒は、2つをマークして間違えた方をバツで消しているかもしれません。項目別比較変更回答レポートは、バツで消された項目について、詳細な基準で分類してレポートします。さらに、次のような項目も含まれます。

- グリッド内に手書きで変更された個別セルの変更
- データグリッドの上のデータヘッダーバーを使用して行われた変更
- 例外レビュー中の変更
- 検索/置換機能を用いて行われた変更
- 単一セル内で切り取り/貼り付けを用いて行われた変更

レポートのベースとして使用するデータから、質問を選択できます。たとえば、このレポートは人口統計グループを比較するような場合に特に便利です。たとえば、回答者がテストフォームで性別のカテゴリをマークしていれば、性別に分けてデータを確認できます。レポートのベースとして使用するデータから、最大 3 問の質問を選択できます。

項目別比較変更回答レポートでは次のオプションが使用できます。

オプション	説明
レポート基準	レポートの生成用に選択した質問を表示します。
生徒	選択された各カテゴリに該当する生徒数を表示します。
変更された回答	その質問に対して変更された回答の数を表示します。
正答に変更	正答に変更された回答数を表示します。
誤答に変更	誤答に変更された回答数を表示します。
正答に変更された割合	正答に変更された回答数の、誤答に対するパーセンテージを表示します。

項目別比較変更回答レポートのプロパティを、次の表に要約して示します（レポートスタイルペインからアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら [適用] ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	変更を表示	表示内容を、すべての変更、フォームの変更（大きなマークを無視する機能を用いてバツ印で消されたマークから収集）、データの変更（フォームを処理した後にデータを変更した）のいずれかに設定します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	質問を含める	レポート内にすべての質問を含めるか、回答が変更された質問のみを含めるかを設定します。
	生徒	各質問に対する生徒の合計人数を表示するかどうかを設定します。
	変更された回答	その質問に対して変更された回答の合計数を表示するかどうかを設定します。
	正答に変更	その質問に対して、正答に変更された回答の合計数を表示するかどうかを設定します。
	誤答に変更	その質問に対して、誤答に変更された回答の合計数を表示するかどうかを設定します。
	正答に 変更された割合	その質問に対して、正答に変更された回答のパーセンテージを表示するかどうかを設定します。
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	テーブルヘッダー のフォントサイズ	レポートのテーブルヘッダーで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US レターサイズ</b> 、 <b>US リーガルサイズ</b> のいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	ページ区切り	各質問の後にページ区切りを挿入するかどうかを設定します。
	項目ラベル	レポートにリストした各項目（データセットの質問）の文字色を設定します。
	グループ <b>3</b> の色	レポートにリストした <b>3</b> 番目の基準グループの文字色を設定します。
	グループ <b>2</b> の色	レポートにリストした <b>2</b> 番目の基準グループの文字色を設定します。
	グループ <b>1</b> の色	レポートにリストした最初の基準グループの文字色を設定します。
	小数点以下の 桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 <b>2</b> 桁）。
	バーグラフの プロパティ	バーグラフの外見を設定します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	<b>テーブルヘッダー</b>	表を識別するためにその上に何を表示するかを、質問名または質問文のどちらかに設定します。
	グループラベル の表示	レポートで選択した各基準に対して、グループラベルを表示するかどうかを設定します。グループラベルは各基準の上に表示され、それがどのような基準であるかを示します。通常は、凡例かグループラベルのどちらかを表示します。
	背景色	レポート内の表の背景色を設定します。
	行の枠線	情報の各行の周囲に枠線を表示するかどうかを設定します。
<b>ヘッダー/ フッター</b>	<b>カスタムレポート タイトル</b>	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。
	<b>カスタムヘッダー の表示</b>	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
	凡例の表示	レポートの凡例を各ページの先頭に表示するかどうかを設定します。凡例は、レポートの生成に使用した質問を示します。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	レポートのフッターに使用する日付（または日時）の形式を設定します。

項目別比較変更回答レポートを実行するには

1. **Remark Quick Stats** のタスクペインで、[変更された回答のレポート] の下にある **500** - 項目別比較変更回答レポートへのリンクを選択します。
2. [質問選択] ウィンドウで、レポートに含めたい質問を選択します。質問をダブルクリックするか、または[追加] ボタンを使用して、選択されたウィンドウに質問を移動します。緑色の矢印とウィンドウの中央にある **AZ** または **ZA** の記号を使用すると、項目をアルファベット順に並べ替えることができます。
  - **注:** 複数の質問を選択できます。キーボードの[Ctrl] キーを押しながら質問をクリックしてください。また、先頭位置の質問をクリックした後に [Shift] キーを押しながら末尾の質問をクリックすると、その範囲内の質問が選択されます。
3. [レポートを実行] ボタンをクリックしてレポートを実行します。



選択内容に基づいてレポートが画面に表示されます。[レポートスタイル] ウィンドウを使用すると、レポートを自由に変更できます。

#### 2.4.23 レポート 510 - 生徒別の変更比較回答

Remark Office OMR は、大きなマークを無視する機能を使用する場合に、変更された回答をトラッキングできます。これにより、ソフトウェアはバツ印で消された回答を無視し、完全に塗りつぶされた回答を検出します。たとえば、試験にペンを使用した生徒は、2 つをマークして間違えた方をバツで消しているかもしれません。生徒別の変更比較回答レポートは、バツで消された項目が何個あるかについて、詳細な基準で分類してレポートします。さらに、次のような項目も含まれます。

- グリッド内に手書きで変更された個別セルの変更
- データグリッドの上のデータヘッダーバーを使用して行われた変更
- 例外レビュー中の変更
- 検索/置換機能を用いて行われた変更
- 単一セル内で切り取り/貼り付けを用いて行われた変更

レポートのベースとして使用するデータから、質問を選択できます。たとえば、このレポートは人口統計グループを比較するような場合に特に便利です。たとえば、回答者が調査票で性別のカテゴリをマークしていれば、性別に分けてデータを確認できます。レポートのベースとして使用するデータから、最大 **3** 問の質問を選択できます。

生徒別の変更比較回答レポートでは次のオプションが使用できます。

オプション	説明
レポート基準	レポートの生成用に選択した質問を表示します。
生徒	選択された各カテゴリに該当する生徒数を表示します。

オプション	説明
変更された回答	各グループ項目に対して変更された回答の数を表示します。
正答に変更	正答に変更された回答数を表示します。
誤答に変更	誤答に変更された回答数を表示します。
正答に変更された割合	正答に変更された回答数の、誤答に対するパーセンテージを表示します。

生徒別の変更比較回答レポートのプロパティを、次の表に要約して示します（レポートスタイルペインからアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら **[適用]** ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	変更を表示	表示内容を、すべての変更、フォームの変更（大きなマークを無視する機能を用いてバツ印で消されたマークから収集）、データの変更（フォームを処理した後にデータを変更した）のいずれかに設定します。
	生徒	各質問に対する生徒の人数を表示するかどうかを設定します。
	変更された回答	その質問に対して変更された回答の合計数を表示するかどうかを設定します。
	正答に変更	その質問に対して、正答に変更された回答の合計数を表示するかどうかを設定します。
	誤答に変更	その質問に対して、誤答に変更された回答の合計数を表示するかどうかを設定します。
	正答に変更された割合	その質問に対して、正答に変更された回答のパーセンテージを表示するかどうかを設定します。
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	テーブルヘッダー のフォントサイズ	レポートのテーブルヘッダーで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US レターサイズ</b> 、 <b>US リーガルサイズ</b> のいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。

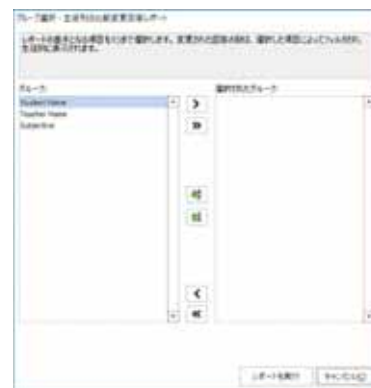
レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	ページ区切り	各質問の後にページ区切りを挿入するかどうかを設定します。
	生徒の色	〔生徒の表示〕プロパティで生徒を表示している場合、各生徒をリスト表示する文字色を設定します。
	全体の色	変更された回答の情報を表示するテストデータ行全体の文字色を設定します。
	グループ 3 の色	レポートにリストした 3 番目の基準グループの文字色を設定します。
	グループ 2 の色	レポートにリストした 2 番目の基準グループの文字色を設定します。
	グループ 1 の色	レポートにリストした最初の基準グループの文字色を設定します。
	小数点以下の 桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 2 桁）。
	バーグラフの プロパティ	バーグラフの外見を設定します。
	グループラベル の表示	レポートで選択した各基準に対して、グループラベルを表示するかどうかを設定します。グループラベルは各基準の上に表示され、それがどのような基準であるかを示します。通常は、凡例かグループラベルのどちらかを表示します。
	背景色	レポート内の表の背景色を設定します。
	行の枠線	情報の各行の周囲に枠線を表示するかどうかを設定します。
	生徒を含める	各カテゴリに分類される生徒を表示するかどうかを設定します。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
	グループの凡例 の表示	レポートの凡例を各ページの先頭に表示するかどうかを設定します。凡例は、レポートの生成に使用した質問を示します。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	レポートのフッターに使用する日付（または日時）の形式を設定します。

生徒別の変更比較回答レポートを実行するには

1. **Remark Quick Stats** のタスクペインで、**「変更された回答のレポート」** の下にある **510 - 生徒別の変更比較回答レポート** へのリンクを選択します。
2. **「グループ選択」** ウィンドウで、レポートに含めたい質問を選択します。質問をダブルクリックするか、または **「追加」** ボタンを使用して、選択されたウィンドウに質問を移動します。緑色の矢印とウィンドウの中央にある **AZ** または **ZA** の記号を使用すると、項目をアルファベット順に並べ替えることができます。
  - **注：**複数の質問を選択できます。キーボードの **[Ctrl]** キーを押しながら質問をクリックしてください。また、先頭位置の質問をクリックした後に **[Shift]** キーを押しながら末尾の質問をクリックすると、その範囲内の質問が選択されます。
3. **「OK」** ボタンをクリックしてレポートを実行します。

選択内容に基づいてレポートが画面に表示されます。**「レポートスタイル」** ウィンドウを使用すると、レポートを自由に変更できます。



## 2.4.24 レポート 520 - 項目別の回答変更レポート

Remark Office OMR は、大きなマークを無視する機能を使用する場合に、変更された回答をトラッキングできます。これにより、ソフトウェアはバツ印で消された回答を無視し、完全に塗りつぶされた回答を検出します。たとえば、試験にペンを使用した生徒は、2つをマークして間違えた方をバツで消しているかもしれません。項目別の回答変更レポートは、質問がいくつバツ印で消されたかを表示します。さらに、次のような項目も含まれます。

- グリッド内に手書きで変更された個別セルの変更
- データグリッドの上のデータヘッダーバーを使用して行われた変更
- 例外レビュー中の変更
- 検索/置換機能を用いて行われた変更
- 単一セル内で切り取り/貼り付けを用いて行われた変更

表示する内容を、正答に変更された質問数、誤答に変更された質問数、またはすべての質問のいずれかに選択できます。また、正答に変更された割合を示すバーグラフも表示されます。項目別の回答変更レポートでは次のオプションが使用できます。

オプション	説明
生徒	選択された各カテゴリに該当する生徒数を表示します。
変更された回答	その質問に対して変更された回答の数を表示します。
正答に変更	正答に変更された回答数を表示します。
誤答に変更	誤答に変更された回答数を表示します。
正答に変更された割合	正答に変更された回答数の、誤答に対するパーセンテージを表示します。
平均	各列の平均値をレポートに表示します。

項目別の回答変更レポートのプロパティを、次の表に要約して示します（レポートスタイルペインからアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら「適用」ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	質問を 並べ替える	レポート内の質問リストを、質問のインデックス、質問名、変更された回答、正答に変更、誤答に変更のいずれかで並べ替えるかどうかを設定します。
	並べ替え順	質問リストの並べ替えを、「質問の並べ替え」での選択に基づき、昇順と降順のどちらで並べ替えるかを設定します。



レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	変更された回答	その質問に対して変更された回答の合計数を表示するかどうかを設定します。
	正答に変更	その質問に対して、正答に変更された回答の合計数を表示するかどうかを設定します。
	誤答に変更	その質問に対して、誤答に変更された回答の合計数を表示するかどうかを設定します。
	正答に 変更された割合	その質問に対して、正答に変更された回答のパーセンテージを表示するかどうかを設定します。
	平均	レポートの各列に対する平均値を表示するかどうかを設定します。
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	テーブルヘッダー のフォントサイズ	レポートのテーブルヘッダーで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US レターサイズ</b> 、 <b>US リーガルサイズ</b> のいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	小数点以下の 桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 <b>2</b> 桁）。
	バーグラフの プロパティ	バーグラフの外見を設定します。
	行の網かけ	情報の各行の周囲に枠線を表示するかどうかを設定します。
	項目ラベル	質問のリスト表示に使用するラベルを、自動番号、質問名、項目番号、または質問文のいずれかに設定します。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	レポートのフッターに使用する日付（または日時）の形式を設定します。

#### 2.4.25 レポート 530 - 生徒別の回答の変更レポート

Remark Office OMR は、大きなマークを無視する機能を使用する場合に、変更された回答をトラッキングできます。これにより、ソフトウェアはバツ印で消された回答を無視し、完全に塗りつぶされた回答を検出します。たとえば、試験にペンを使用した生徒は、2つをマークして間違えた方をバツで消しているかもしれません。生徒別の回答の変更レポートは、回答をバツ印で消した生徒を全員表示します。さらに、次のような項目も含まれます。

- グリッド内に手書きで変更された個別セルの変更
- データグリッドの上のデータヘッダーバーを使用して行われた変更
- 例外レビュー中の変更
- 検索/置換機能を用いて行われた変更
- 単一セル内で切り取り/貼り付けを用いて行われた変更

表示する内容を、正答に変更された質問数、誤答に変更された質問数、またはすべての質問のいずれかに選択できます。また、正答に変更された割合を示すバーグラフも表示されます。生徒別の回答の変更レポートでは次のオプションが使用できます。

オプション	説明
生徒	テストを受けた生徒を表示します。
変更された回答	各生徒に対して、変更した回答の数を表示します。
正答に変更	正答に変更された回答数を表示します。
誤答に変更	誤答に変更された回答数を表示します。

オプション	説明
正答に変更された割合	正答に変更された回答数の、誤答に対するパーセンテージを表示します。

生徒別の回答の変更レポートのプロパティを、次の表に要約して示します（レポートスタイルペインからアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら **[適用]** ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	生徒を並べ替え	レポート内の生徒リストを、回答者 ID、パーセントスコア、変更された回答、正答に変更、誤答に変更のいずれかで並べ替えるかどうかを設定します。
	並べ替え順	質問リストの並べ替えを、[生徒を並べ替え] での選択に基づき、昇順と降順のどちらで並べ替えるか設定します。
	変更された回答	その生徒が変更した回答の合計数を表示するかどうかを設定します。
	正答に変更	その生徒が正答に変更した回答の合計数を表示するかどうかを設定します。
	誤答に変更	その生徒が誤答に変更した回答の合計数を表示するかどうかを設定します。
	正答に変更された割合	その質問に対して、正答に変更された回答のパーセンテージを表示するかどうかを設定します。
	平均	レポートの各列に対する平均値を表示するかどうかを設定します。
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	テーブルヘッダー のフォントサイズ	レポートのテーブルヘッダーで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US レターサイズ</b> 、 <b>US リーガルサイズ</b> のいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	小数点以下の 桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 <b>2</b> 桁）。こ

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
		のプロパティは、レポート上にリストされた平均値に適用されます。
	バーグラフの プロパティ	バーグラフの外見を設定します。
	行の網かけ	情報の各行の周囲に枠線を表示するかどうかを設定します。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	レポートのフッターに使用する日付（または日時）の形式を設定します。

# 調査などテスト以外のフォームの分析

## 第 3 章

### 3.1 調査分析の概要

調査、およびその他の類似するフォームを分析する方法として、次の 2 通りの方法があります。

- 簡易調査：簡易調査は、フォームテンプレートで設定した作表パラメータを使用します。
- 高度な調査：高度な調査を使用すると、類似する質問のグループ化やカスタムレポートヘッダーの適用などの機能を用いて、作表処理をカスタマイズできます。

それぞれについて、この後の項で説明します。ここでは、テスト以外のすべてのフォームタイプに対して「調査」という用語を使用しますので注意してください。

### 3.2 簡易調査の使用

簡易調査を使用すると、事前に用意されている設定を用いて調査結果の作表をすぐに実行できます。簡易調査を使用する際、**Remark Quick Stats** はフォームテンプレートで設定したパラメータを用いて作表を管理します。質問を作表するかどうか、レポートをわかりやすくするために使用する質問文、また質問のデータをレポート分析回答者 ID として表示するかどうか（たとえば、表に入れた調査回答をそれぞれ識別する名前など）、などのような事項を指定できます。

簡易調査を使用するには

1. **Remark Office OMR Template Editor** で、調査票のフォームテンプレートを作成します。調査表に記載する質問、分析回答者 ID フィールドなどの調査パラメータをかならず設定しておいてください。
2. **Remark Office OMR Data Center** で「読み取り」オプションを使用するか、または既存のデータファイルを開いて記入済みフォームを処理します。
3. フォームを処理した後、「ツール」メニューを選択して、「分析」、「簡易調査」の順でクリックします。簡易調査は、ツールバーから、またはタスクペインの「分析」タブから使用できます。

データが作表され、「Remark Quick Stats」ウィンドウが表示されます。このウィンドウの左にはタスクペインがあり、ここにレポートを表示できます。デフォルトでは要約項目分析レポートが表示されますが、**Remark Quick Stats** の基本設定でデフォルトのレポートを設定したり、また別のレポートを右クリックしてそれをデフォルトに設定したりすることもできます。

### 3.3 高度な調査の概要

Remark Quick Stats の高度な調査を使用すると、調査結果の作表処理をカスタマイズできます。高度な調査を使用すると、次のような項目が指定できます。

- 調査に含めるデータセット
- 含める質問と除外する質問
- グループ内でまとめて分析し、全体の平均値を得るための質問サブセット
- グループ化した質問に対する質問の重みづけ
- 質問のパフォーマンスを測るためのベンチマーク
- カスタムレポートヘッダーの情報

また、作表パラメータをすべて含む分析定義を保存して、再度利用できるようにすることもできます。高度な調査へのアクセス方法を、以下で説明します。高度な調査の各操作手順についての詳細は、以下の項を参照してください。

高度な調査を使用するには

1. **Remark Office OMR Template Editor** で、調査票のフォームテンプレートを作成します。
2. **Remark Office OMR Data Center** で、**読み取りオプション**を使用するか、または既存のデータファイルを開いてフォームを処理します。
3. フォームを処理した後、**[ツール]** メニューを選択して、**[分析]**、**[高度な調査]** の順でクリックします。高度な調査は、ツールバーから、またはタスクペインの **[分析]** タブから使用できます。
4. 変更したいオプションを左側で選択します。各オプションについては、この後の項に記載しています。
5. 終了したら **[分析]** ボタンをクリックします。

高度な調査の定義ファイルを保存して後から使用するには、**2**通りのオプションがあります。

- **[分析]** ボタンをクリックすると、その場で調査結果が作表されます。設定を調査定義ファイルとして保存するためのプロンプトが表示されます（オプション）。
- **[保存]** ボタンをクリックします。調査の定義を保存するためのプロンプトが表示されますが、高度な採点は開いたままなので、この後も変更ができます。

高度な調査の各オプションについての詳細は、以下のリンクから参照できます。

#### 3.3.1 高度な調査 - 開く

高度な調査オプションをクリックすると、**[開く]** ウィンドウがまず表示され、ここで既存の調査定義ファイルを開くか、またはカスタムレポートヘッダーを作成することができます。画面に表示されている内容のみが必要な場合は、選択を行った後、高度な調査で他の項目を確認せずに **[分析]** ボタンをクリックできます。**[開く]** ウィンドウには、調査を分析するための **2** 種類のオプションがあります。

- **既存の調査定義ファイルを開く**：以前に高度な調査を使用したことがあり、設定をファイル（.SDF ファイル）に保存していた場合は、ここでそのファイルを開くこと

ができます。調査定義ファイルは、使用するフォームテンプレートと一致していなければなりません。

- **カスタムレポートヘッダーの作成**：キーボード入力、テンプレートフィールドからのデータ挿入、グラフィック（ロゴマークなど）の追加により、生成されるレポートすべてのヘッダーエリアを変更できます。

#### 既存の回答キーファイルを開くには

1. 使用する回答キーファイル（.SDF）をすでに作成している場合は、**[調査定義ファイル]**の下で省略記号（...）をクリックします。
2. **高度な調査**で他の調整を行います。調査定義ファイルに必要なものがすべて揃っている場合は**[分析]** ボタンをクリックして調査結果を分析します。

#### カスタムレポートヘッダーを作成するには

1. **[カスタムレポートヘッダーを使用]** チェックボックスをマークします。
2. 各レポートには、カスタマイズを行うためのスロットが、ヘッダーに 9 本予約されています。シンプルさを保つため、上部に 3 カ所の位置を表示しています。3 カ所を超える位置をカスタマイズするには、**[その他のオプション...]** ボタンをクリックします。
3. レポートヘッダーの左上端、右上端、上部中央のスペースに何かを追加するかを選択するには、この 3 カ所のドロップダウンリストを使用します。リストから項目を選択します。各リストには、**日付**、**日時**、**ページ番号**、**回答者数**があります。さらに、フォームテンプレート内のフィールドがすべてリスト表示され、データセットからデータ（セッション名、科目名、学期など）を入力できるようになります。
4. テストバージョンをセットアップしたら、**高度な調査**で選択を続けるか、または**[分析]** ボタンをクリックして分析を実行します。



### 3.3.2 高度な調査 - 質問のプロパティ

次に**[質問のプロパティ]** ウィンドウで、フォームの質問プロパティを変更できるようになります。初期状態では、高度な調査は、フォームテンプレートで定義された任意の値を使用します。ここではその設定を変更できますが、フォームテンプレートには影響を与えません。薄いグレーの質問は、作表対象ではありません（属性に関する質問などが該当します）。分析回答者 ID として設定されたフィールドは、隣に ID バッジがあります。次のオプションが使用できます。

オプション	説明
質問テキスト	レポートに使用する質問文を入力または変更します。貼り付け用のキーボードショートカット（Ctrl + V）か、または右クリックの

オプション	説明
	[貼り付け] オプションを使用して <b>Windows</b> クリップボードから内容を貼り付けることができます。
この質問は回答者を識別します。	このチェックボックスをマークすると、この質問から得た情報を選択レポートの回答者 ID として使用します。たとえば、何らかの ID 番号を収集する場合、この情報がレポートに表示され、レポートと回答者をリンクします。質問を回答者 ID として使用する場合、その質問を分析に含めないようにしてください。
分析に質問を含める	このチェックボックスをマークすると、その質問が分析に含まれるようになります。
回答データタイプ	質問のデータタイプを、テキストまたは数値のどちらかに設定します。
“該当しない”回答	質問に「NA (該当なし)」の回答選択肢があり、NA 回答を <b>Remark Quick Stats</b> の統計 (平均値など) に含めたい場合は、該当なしのドロップダウンリストから適切なラベルを選択します。このリストには、フォームテンプレートを作成する際にラベルグリッドで定義したラベルが自動的に入力されます。NA として選択できる項目は 1 つだけです。 <b>Remark Quick Stats</b> の基本設定で、統計的な計算に NA を含めるか除外するかを選択できます。
ベンチマーク値を定義	このチェックボックスをマークして、ベンチマークのパーセントスコアを入力すると、目標のベンチマーク値が定義できます。選択レポートでは、実際の回答がこのベンチマーク値と比較されます。ベンチマークの値は、フォームテンプレートを設定する際に、各回答選択肢に割り当てた値を用いて算出されます。
数値	必要に応じて、回答選択肢それぞれに関連付けられた値を調節します。これらの値は、 <b>Remark Quick Stats</b> で統計情報を計算するために使用します (平均値の計算など)。
値のグラフ化	必要に応じて、回答選択肢を定義されていない項目 (複数選択肢やリスト OMR フィールドでない問題など) に対する数値の最大値と最小値を入力します。この機能を使用すると、 <b>Remark Quick Stats</b> の質問平均レポートや比較項目レポートで質問をグラフ化する際に、使用する範囲を定義できます。たとえば、グリッド OMR フィールドを使用している場合に最小値と最大値を入力すると、回答を図表で示すことができます。

#### 質問のプロパティを設定するには

1. 左側のタスクペインで質問を選択し、次に、必要に応じて項目を適切に変更します。複数の質問を選択できます。キーボードの [Ctrl] キーを押しながら質問をクリックしてください。また、質問をクリックしてから [Shift] キーを押しながら別の質問をクリックすると、その範囲内の質問が選択されます。選択した質問のタイプによって、あるオ



プシオンが使用できなくなる場合があるので注意してください（たとえば、バーコードフィールドと OMR フィールドを両方選択すると、同じオプションを使用できなくなることがあります）。

2. 質問のプロパティをセットアップしたら、**高度な調査**で選択を続けるか、または**[分析]** ボタンをクリックして分析を実行します。



### 3.3.3 高度な調査 - 分析グループ

「分析グループ」ウィンドウを使用すると、質問のサブセットを作成し、回答やグループ全体の平均値を表示できます。たとえば、顧客満足度を調査しているとします。調査では、スタッフ、製品、全体的な満足度に関して質問をしましょう。同じような質問を分析グループにまとめて、それぞれの質問セクション全体のスコアを調べることができます（スタッフに関するグループ、製品に関するグループ、全体的な満足度に関するグループなど）。高度な調査で分析グループを作成すると、分析グループレポートが **Remark Quick Stats** 内に表示されます。

#### 分析グループをセットアップするには

1. 「分析グループ」ウィンドウでは、フォーム全体の質問に加えて、まとめて分析する質問のグループを作成します。分析グループを作成するには、**[新規作成]** ボタンをクリックしてから**[グループ名]** ボックスにグループ名を入力します。または、グループ名のリストをスプレッドシートまたはデータベースファイルからインポートすることもできます。**[インポート]** ボタンをクリックして、必要なグループ名をインポートします。グループ名が**[分析グループ]** ボックスにリスト表示されます。
2. フォームから作表される質問は、**[使用可能な質問]** ボックスにリスト表示されます。左側で分析グループを選択し、次に**[使用可能な質問]** ボックスで質問を選択して、次に**[<<]**（選択した分析グループに選択した質問を追加）ボタンをクリックします。選択された質問は、選択されている分析グループの下にある**[分析グループ]** ボックスに移動します。**[>>]**（選択した分析グループから選択した質問を削除）矢印を使用すると、特定の分析グループに割り当てた不要な質問を削除できます。
  - **ヒント:** 質問をダブルクリックすると、分析グループに簡単に追加できます。また、複数の質問を選択できます。キーボードの**[Ctrl]** キーを押しながら質問をクリックしてください。また、質問をクリックしてから**[Shift]** キーを押しながら別の質問をクリックすると、その範囲内にある質問がすべて選択されます。最後に、質問を既存の分析グループの上にドラッグします。
3. 必要に応じて、**[ベンチマークを使用]** チェックボックスをマークして、分析グループにベンチマークスコアを割り当てます。このグループで目標にするベンチマークの値を、対応する値のボックスに入力します。たとえば、回答選択肢に **1~5** の重みを付け、**4** を許容値とする場合、ベンチマークの値を **4** にします。



4. 分析グループをセットアップしたら、**高度な調査**で選択を続けるか、または**分析** ボタンをクリックして分析を実行します。

### 3.3.4 高度な調査 - 質問の重要性

分析グループが定義されている場合、**質問の重要性** ウィンドウを使用すると、オプションとして、グループ内の質問にそれぞれ異なる重要度（重み）を割り当てられるようになります。この機能は、グループ内部のある質問が他の質問より重要である場合に便利です。結果を表示する際に、**Remark Quick Stats** は重要度を計算に入れます。

質問の重要性を割り当てるには

1. 質問の重要性を割り当てるには、**分析グループ** ドロップダウンリストから分析グループを選択します。そのグループ内の質問が**質問** 列に表示されます。デフォルトの重要度 **1.00** が**重要度** カラムに表示されます。質問に応じて重要度を適切に調節してください。質問に重みを付けない場合は、この手順を省略します（質問はすべて重要度 **1.00** になります）。
2. 質問の重要性をセットアップしたら、**高度な調査**で選択を続けるか、または**分析** ボタンをクリックして分析を実行します。



### 3.3.5 データ変換の作成

データを分析しやすいように変換する必要があることがあります。たとえば、出席簿を処理する場合や複数の人を評価する場合、最終的には複数のデータを 1 つの長いレコードにまとめることがあります。このような場合、データを論理データレコードに分割します（たとえば、出席簿で生徒 1 人ずつなど）。**Remark Quick Stats** を使用して、この種類のデータを分析する場合は、データ変換オプションを使用できます。このオプションを使用すると、カスタムエクスポート（**ファイル | 名前を付けて保存 | カスタム**）で使用する同じカスタムパラメータを設定して、それを **Remark Quick Stats** に渡してデータを分析できるようになります。通常、新しくフォーマットしたファイルは新しいテンプレートにマッチングする必要がありますが、変換オプションがそれを代わりに実行します。複数の状況でデータを分析したい場合は、変換オプションを毎回実行する必要があるので注意してください。データ変換オプションを使用する際には、保存したカスタムテキスト設定ファイル（.tec）を使用できます（最初から作成する必要はありません）。データ変換オプションはデータファイルを出力するわけではないので注意してください。保存したデータファイルが必要であれば、まずカスタム形式を使用する必要があります。

カスタム変換を作成するには

1. フォームをスキャンするか、またはデータファイルを開きます。
2. **高度な調査** でドロップダウン矢印をクリックし、**カスタムデータの変換** を選択します。
3. （オプション）以前に変換ファイルを作成している場合、またはカスタムテキストオプションを使用してデータを保存していた場合は、省略記号 (...) を使用して保存した .tec

ファイルを開くこともできます。この後の操作手順では、新しいデータ変換の作成を取り上げます。

4. 必要に応じて、**複数回答の限定子**（複数回答の評価に使用する文字。回答はこの文字の中に囲まれます）と**複数回答のデリミタ**（複数回答を区切る文字）を選択します。デフォルトを使用することもできます。
5. **[次へ]** ボタンをクリックします。
6. この手順は、データを複数のレコードに分割する必要がある場合に使用します。このオプションは、出席票、セッション評価、その他 1 枚のフォームで 2 人以上を評価する場合に便利です。データを分割する必要がある場合は、単に **[終了]** ボタンを押してください（手順 11）。
7. データセットにレコードを何個入れるかを選択します。たとえば、出席票を処理しており、1 フォームに学生 20 名を記録する場合は「20」と入力します。**[更新]** ボタンをクリックします。必要なレコード数がウィンドウの右側に作成されます。
8. ファイルをフォーマットする方法は 3 通りあります。
  - **すべてのレコードに追加**：このオプションを使用すると、データセット内のすべてのレコードにフィールドが追加されます。出席票の例では、ここはクラス名または教師名（どの学生に対しても変わらないデータ）になります。
  - **選択されたレコードに追加**：このオプションを使用すると、ウィンドウの右側で選択したレコードにのみフィールドが追加されます。このオプションを使用すると、各レコードに何が入力されるかを細かく調節できます。
  - **レコード間で分割**：このオプションを使用すると、フィールドを選択してから、すべてのレコードにわたって均等に分割できます。出席票を例にとると、これは出席者をトラッキングするためのフィールド（曜日など）になります。たとえば、フォームの左側に学生名を縦に並べ、各学生に対して月曜から金曜までの項目があるとします。その学生が出席していれば、対応するバブルをマークします。欠席している場合、そのバブルは空白になります（これは **Boolean** フィールドです）。全レコードを、まず学生単位で分割します。次に、全レコードを曜日で分割します。右のスクリーンショットを参照してください。データを分割していない状態では、このような状態になります。



A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T
Student1	Student2	Student3	Student4	Student5	M1	M2	M3	M4	M5	T1	T2	T3	T4	T5	W1	W2	W3	W4	W5
12345	57748	43637	56832	34577	0	0	1	1	1	0	1	0	0	1	1	1	1	1	1

学生と出席状況が長い 1 行にリストされている点に注意してください。

しかし、データを分割するとこのようになります。

A	B	C	D	E	F
12345	0	0	1	1	1
57748	0	0	1	0	1
43637	1	1	1	0	1
56832	1	0	1	1	1
34577	1	0	1	1	1

ここでは、学生 1 人が 1 レコードを専有し、出席状況もまとめられています。

9. 上記の方法を使用すると、必要に応じてデータを分析できます。

10. **［プレビュー］** ボタンを使用すると、エクスポートした時にデータがどのように見えるかをプレビューできます。
11. 終了したら **［分析］** ボタンをクリックします。
12. **［構成を保存］** ウィンドウが表示された時に、**［はい］** ボタンをクリックすると設定はファイルに保存され、後でデータを保存するか、またはデータ転送を作成する時に使用できるようになります。この設定ファイルを保存しない場合は **［いいえ］** ボタンをクリックします。設定ファイルを保存する場合は、次の手順に進みます。それ以外の場合は、データ変換を作成して終了します。
  - **注：** データは保存されません。後から使用できるように設定を保存するだけです。
    - （オプション）設定ファイルを保存する場合は、設定ファイルを保存する場所を **［テキストエクスポート設定に名前を付けて保存］** の **［Save in］** ボックスで選択します。
    - **［ファイル名］** ボックスにファイル名を入力します。
    - **［タイプを指定して保存］** ボックスの設定は **［Text Export Configuration Files (\*.tec)］** のままにします。
    - **［保存］** ボタンをクリックして **TEC** ファイルを保存します。
13. **高度な調査** が起動されます。データの分析に必要な選択を行い（前項を参照）、**Remark Quick Stats** を実行します。

### 3.4 調査分析レポートの概要

簡易調査または高度な調査を使用してデータを採点すると、数種類のレポートが利用できるようになります。レポートでは、異なる内容を表示したり、同じデータを異なる方法で示したりすることができます。

各レポートには、レポートの外見を指定するプロパティのセットがあります。レポートのプロパティは、**Remark Quick Stats** メインウィンドウの右にあるレポートスタイルペインからアクセスできます。プッシュピンをクリックすると、レポートスタイルペインの表示と非表示が切り替わります。ペイン内部には、レポートの中で変更可能なさまざまな部分に対応するタブがあります。**［適用］** ボタンをクリックすると変更できます。また、どの時点でも **［デフォルト］** ボタンをクリックすると、レポートはソフトウェアがインストールされた時点のオリジナルの状態に戻ります。

以下の項では、各レポートについて簡単に説明し、その後設定可能なレポートのプロパティについて説明します。ここに示したオプションが、レポート実行時に表示されない場合は、レポートスタイルペインの設定を確認してください。これらのプロパティでは、レポートのセクションの表示と非表示を切り替えることができます。デフォルトで非表示の項目がいくつかあります。

調査結果の分析には、以下のレポートが使用できます。

#### 項目分析レポート：

レポート 202 — 詳細項目分析レポート

レポート 203 — 項目分析グラフレポート

レポート 204 — 要約項目分析レポート  
 レポート 205 — 基本項目分析レポート  
 レポート 207 — 統計による要約項目分析  
 レポート 208 — 統計による基本項目分析  
 レポート 220 — 統合項目分析レポート

#### 調査と項目統計レポート：

レポート 321 — 項目統計レポート（旧 206）  
 レポート 340 — クロス集計レポート（旧 208）  
 レポート 350 — 比較項目レポート（旧 209）  
 レポート 360 — 質問平均レポート（旧 210）  
 レポート 370 — 分析グループレポート（旧 211）

#### 回答レポート：

レポート 401 — 項目別の回答レポート  
 レポート 402 — 回答者別の回答レポート

### 3.4.1 レポート 202 - 詳細項目分析レポート

詳細項目分析レポートは、個々の質問の統計情報を詳細に検討します。質問に基づき、このレポートは各回答選択肢、統計的分析に使用する値、その頻度、対応するパーセント、累積パーセント、有効パーセント、累積有効パーセント、平均値、カスタマイズ可能な頻度グラフを表示します。各表の上には、質問文（フォームテンプレートまたは高度な調査に質問文が定義されていない場合は質問の名前）と、その質問の意味が表示されます。

次の統計情報が利用できます。

統計情報	意味
回答	フォームテンプレートで指定されたラベル（回答選択肢）を表示します。
値	各回答に対して、フォームテンプレートまたは高度な調査で定義された対応する値を表示します。値は、平均値のような統計情報の計算に使用されます。
頻度	この質問で、ある特定の回答選択肢を回答者が選択した回数（たとえば、回答選択肢がデータセット内に出現する回数など）を表示します。
%	対応する頻度のパーセンテージを表示します。
累積パーセント	最初の回答から現在の回答までの（現在の回答も含む）パーセントの合計を表示します。
有効な割合	欠測した項目を含まないパーセントを表示します。
累積有効パーセント	最初の回答から現在の回答までの（現在の回答も含む）有効なパーセントの合計を表示します。

統計情報	意味
合計	有効な回答全体の数と、それに対応するパーセンテージを表示します（欠測データは含みません）。
欠測/複数回答/無効	欠測した回答（空白、複数、認識エラーなど有効でない回答）を表示します。欠測した回答を表示するかしないかは、 <b>Remark Quick Stats</b> の基本設定で設定できます。ラベリングは、空白と複数の回答を別々のカテゴリに分けるかどうかという基本設定に基づいて変わります。
合計	有効な回答全体の数と、それに対応するパーセンテージを表示します。

詳細項目分析レポートのプロパティを、次の表に示します（レポートスタイルペインでアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら **[適用]** ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	回答の並べ替え	各質問に対して、回答（選択肢）を頻度で並べ替えるかどうかを設定します。回答を並べ替えると、選ばれた回数が最も多い選択肢と最も少ない選択肢がすぐにわかります。
	値	レポートの値列を表示するかどうかを設定します。値は、フォームテンプレートの作成中に割り当てられ、統計計算に使用されます。
	頻度	レポートの頻度列を表示するかどうかを設定します。
	%	レポートのパーセント（%）列を表示するかどうかを設定します。
	累積パーセント	レポートの累積パーセント（%）列を表示するかどうかを設定します。最初の回答から現在の回答までの（現在の回答も含む）パーセントの合計を表示します。
	有効な割合	レポートの有効パーセント（%）列を表示するかどうかを設定します。有効パーセントとは、欠測した項目を含まないパーセンテージです。
	累積有効パーセント	レポートの累積有効パーセント（%）列を表示するかどうかを設定します。累積有効パーセントとは、最初の回答から現在の回答までの（現在の回答も含む）有効パーセントの合計です。
	平均	質問を右上端（各質問テーブルの上）に表示するかどうかを設定します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US レターサイズ</b> 、 <b>US リーガルサイズ</b> のいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	ページ区切り	各質問の情報を表示した後に、ページを区切るかどうかを設定します。
	グラフの プロパティ	グラフの種類、タイトル、色、フォントなどグラフのプロパティを設定します。グラフを調節するには、省略記号 (...) をクリックします。
	グラフの位置	グラフの位置を、テーブル内部またはテーブルの下に設定します。
	グラフのサイズ	レポートに表示するグラフのサイズを、小、中、大のいずれかに設定します。
	グラフの表示	パーセント情報のグラフを表示するかどうかを設定します。
	イタリック体 <b>NA</b>	レポートされた <b>NA</b> （該当なし）の回答選択肢を斜体にするかどうかを設定します。 <b>NA</b> の回答選択肢は、フォームテンプレートで設定されます。
	<b>NA</b> 色	<b>NA</b> （該当なし）の回答選択肢の色を設定します。 <b>NA</b> の回答選択肢は、フォームテンプレートで設定されます。
	小数点以下の 桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 <b>2</b> 桁）。
	長い回答	長い回答（回答選択肢）を折り返すか短縮する（切り詰める）かを設定します。
	テーブルヘッダー	表を識別するためにその上に何を表示するかを、 <b>Auto Number</b> （連続番号）、 <b>Display Question Name</b> （質問名）、 <b>Display Question Text</b> （質問文）、 <b>Item Number</b> （テスト内の順番で表示される項目番号）の中から選択します。
	行の網かけ	チャート内の行に <b>1</b> 行おきに影をつけるかどうかを設定します。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。



レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。省略記号 (...) をクリックするとレイアウトをカスタマイズできます。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	レポートヘッダーの中のデータに適用したカスタムフィルタを表示するかどうかを設定します。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。

### 3.4.2 レポート 203 - 項目分析グラフレポート

項目分析グラフレポートは、回答選択肢の頻度情報を、質問単位で示します。このレポートには、詳細項目分析レポートに表示されるグラフと、各グラフに関連する限定的な情報が含まれます。このレポートは詳細項目分析レポートの簡易版であり、グラフ情報のみを参照またはエクスポートする場合に適しています。オプションとして、グラフの生成に使用する回答および頻度パーセンテージを表示できます。レポートのプロパティ（レポートスタイルペイン）を調節すると、各グラフに対応するデータの表示と非表示を切り替えることができます。レポートのプロパティでは、グラフを何個表示するかを指定したり、グラフをカスタマイズしたりすることもできます。

項目分析グラフレポートのプロパティを、次の表に要約して示します（レポートスタイルペインでアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら[適用]ボタンをクリックしてください。



レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	回答の並べ替え	各質問に対して、回答（選択肢）を頻度で並べ替えるかどうかを設定します。回答を並べ替えると、選ばれた回数が最も多い選択肢と最も少ない選択肢がすぐにわかります。
	回答項目	各グラフの右側に、回答項目情報を含むチャートを表示するかどうかを設定します。
	平均	レポートの各質問に対する平均値を表示するかどうかを設定します
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US レターサイズ</b> 、 <b>US リーガルサイズ</b> のいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	イタリック体 <b>NA</b>	レポートされた <b>NA</b> （該当なし）の回答選択肢を斜体にするかどうかを設定します。 <b>NA</b> の回答選択肢は、フォームテンプレートで設定されます。
	<b>NA</b> 色	<b>NA</b> （該当なし）の回答選択肢の色を設定します。 <b>NA</b> の回答選択肢は、フォームテンプレートで設定されます。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 <b>2</b> 桁）。
	グラフのプロパティ	グラフの種類、タイトル、色、フォントなどグラフのプロパティを設定します。グラフを調節するには、省略記号 (...) をクリックします。
	長い回答	長い回答（回答選択肢）を折り返すか短縮する（切り詰める）かを設定します。
	グラフのヘッダー	各グラフの上にヘッダーを表示するかどうかを設定します。ヘッダーには、 <b>Auto Number</b> （自動番号）、 <b>Question Name</b> （質問名）、 <b>Question Text</b> （質問文）、 <b>Item Number</b> （項目番号）があります。質問文が長くなると、文章全体の長さに合わせてレポートのページ数が拡張されるので注意してください。
	行の網かけ	チャート内の行に <b>1</b> 行おきに影をつけるかどうかを設定します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	表示列数	グラフを表示するカラムの数を設定します。回答項目も表示する場合は、 <b>2</b> 列を推奨します。回答項目を表示しない場合は、ページ内のカラム数を増やしても良いでしょう。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。省略記号 (...) をクリックするとレイアウトをカスタマイズできます。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	レポートヘッダーの中のデータに適用したカスタムフィルタを表示するかどうかを設定します。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。

### 3.4.3 レポート 204 - 要約項目分析レポート

要約項目分析グラフレポートは、回答選択肢の頻度情報を、質問単位で示します。これは、詳細項目分析レポートとほぼ同じ情報を、要約した状態で表示します。各表の先頭には、質問文（フォームテンプレートや高度な調査で質問文が定義されていない場合は質問名）が表示されます。統計情報を含む表の右側には、バーグラフが表示されます。

次のオプションが使用できます。

統計情報	意味
質問	フォームテンプレートまたは高度な調査で定義されている質問文（質問文が定義されていない場合は質問名）を表示します。
回答	フォームテンプレートで指定されたラベル（回答選択肢）を表示します。
頻度	この質問で、ある特定の回答選択肢を回答者が選択した回数（たとえば、回答選択肢がデータセット内に出現する回数など）を表示します。
%	対応するトータルのパーセンテージを表示します。
無回答/複数/無効	データセット内で欠測した値がある場合は、トータルおよび対応するパーセント値が、各質問に対して表示されます。欠測した値の表示は、 <b>Remark Quick Stats</b> の基本設定で設定できます。ラベリングは、空白と複数の回答を別々のカテゴリに分けるかどうかという基本設定に基づいて変わります。
平均	フォームテンプレートで定義した値に基づいて計算した、質問平均を表示します。

要約項目分析レポートのプロパティを、次の表に示します（レポートスタイルペインでアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら **[適用]** ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	頻度	レポートの頻度列を表示するかどうかを設定します。
	平均	レポートの各質問に対する平均値を表示するかどうかを設定します
	変更された回答 を含める	1 つをバツ印で消して他の項目を選択した回答数、またはデータグリッドを変更した回答数を示す、積み上げ式バーグラフを含めるかどうかを設定します。*このプロパティはテストの採点にのみ適用されます。
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US レターサイズ</b> 、 <b>US リーガルサイズ</b> のいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	イタリック体 <b>NA</b>	レポートされた <b>NA</b> （該当なし）の回答選択肢を斜体にするかどうかを設定します。 <b>NA</b> の回答選択肢は、フォ

		ームテンプレートで設定されます。
	NA 色	NA（該当なし）の回答選択肢の色を設定します。NA の回答選択肢は、フォームテンプレートで設定されます。
	NA バーの色	頻度の NA バーグラフの色を設定します。NA の回答選択肢は、フォームテンプレートで設定されます。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 2 桁）。
	バーグラフのプロパティ	頻度パーセンテージをトラッキングするバーグラフの外見を設定します。
	テーブルヘッダー	表を識別するためにその上に何を表示するかを、 <b>Auto Number</b> （連続番号）、 <b>Display Question Name</b> （質問名）、 <b>Display Question Text</b> （質問文）、 <b>Item Number</b> （テスト内の順番で表示される項目番号）の中から選択します。
	変更された応答パターン	1 つをバツ印で消して他の項目を選択した回答数を示す、積み上げ式バーグラフのパターンを設定します。*このプロパティはテストの採点にのみ適用されます。
	変更された回答の色	1 つをバツ印で消して他の項目を選択した回答数を示す、積み上げ式バーグラフの色を設定します。*このプロパティはテストの採点にのみ適用されます。
	長い回答	長い回答（回答選択肢）を折り返すか短縮する（切り詰める）かを設定します。
ヘッダー/フッター	カスタムレポートタイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポートヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダーレイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。省略記号 (...) をクリックするとレイアウトをカスタマイズできます。
	カスタムヘッダーの表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。

フィルタの表示	レポートヘッダーの中のデータに適用したカスタムフィルタを表示するかどうかを設定します。
凡例の表示	レポートの凡例を表示するかどうかを設定します。凡例はレポートの色が何を意味するかを示し、表示をオンにするとレポートの上端に表示されます。
左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。

### 3.4.4 レポート 205 - 基本項目分析レポート

基本項目分析レポートは、調査活動に関して、ごく単純な項目分析を行います。このレポートは、各質問、平均値、回答頻度を表示します。このレポートを使用すると、質問単位での回答頻度を簡単に概観できます。回答は質問ラベル、質問の値、回答インデックスによってリスト化できます。質問ラベル別に表示するには、フォーム上のすべての質問で同じラベル（例：優/良/可/不可など）を使用する必要があります。ラベルが異なる場合は数値インデックスが使用されます。ラベル名を表示するスペースは限られているので、値や索引を使用することもできます。

- **注：** 回答ラベルの長さが数文字を超える場合、レポートのデフォルトでは、回答頻度の上のラベル行に、回答ラベルのインデックスを表示します。

次のオプションが使用できます。

統計情報	意味
数値	各質問に対する数値を昇順に表示します。
質問	フォームテンプレートで定義された各質問名を表示します。
平均	フォームテンプレートで定義した値に基づいて計算した、質問平均を表示します。
回答の頻度	この質問で、ある特定の回答選択肢が選択された回数（たとえば、回答選択肢がデータセット内に出現する回数など）を表示します。頻度は、合計またはパーセントで表示できます。

基本項目分析レポートのプロパティを、次の表に示します（レポートスタイルペインでアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら **適用** ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	質問数	レポートの各質問に対する連続した質問番号を表示するかどうかを設定します。
	質問の名前	レポートの各質問に対する質問名（フォームテンプレートで定義された名前）を示すかどうかを設定します。
	平均	レポートの各質問に対する平均値を表示するかどうかを設定します。
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US レターサイズ</b> 、 <b>US リーガルサイズ</b> のいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	NA 選択枝の色	<b>NA</b> （該当なし）の回答選択枝の色を設定します。 <b>NA</b> の回答選択枝は、フォームテンプレートで設定されます。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 <b>2</b> 桁）。
	回答頻度の <b>タイプ</b>	回答頻度の表示タイプを、パーセント（デフォルト）または合計数のどちらかに設定します。
	回答のタイプ	回答の頻度行にリストする回答の表示形式をラベル、値、インデックスのいずれかに設定します。ラベルはフォームテンプレートの「ラベル」グリッドに入力されたラベルを参照し、値はフォームテンプレートの「値」グリッドに入力された値を参照し、インデックスは回答選択枝の数値インデックスを参照します（たとえば、回答が「優秀」から「悪い」までの <b>4</b> 個のポイントスケールである場合、インデックスでは「優秀」が最初で「悪い」が最後になります）。
	行の網かけ	チャート内の行に <b>1</b> 行おきに影をつけるかどうかを設定します。
	表示列数	チャートを表示する列数を設定します。デフォルト設定は <b>3</b> 列です。列数を少なくすると、レポートの表示幅が広がります。列数を多くすると、レポートは圧縮された表示になります。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。省略記号 (...) をクリックするとレイアウトをカスタマイズできます。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	レポートヘッダーの中のデータに適用したカスタムフィルタを表示するかどうかを設定します。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。

### 3.4.5 レポート 207 - 統計による要約項目分析

統計による要約項目分析には、質問別に回答の頻度情報が含まれ、オプションとして標準偏差と中央値の統計情報を含めることもできます。各表の先頭には、質問文（フォームテンプレートや高度な調査で質問文が定義されていない場合は質問名）が表示されます。統計情報を含む表の右側には、バーグラフが表示されます。

次のオプションが使用できます。

統計情報	意味
質問	フォームテンプレートまたは高度な調査で定義されている質問文（質問文が定義されていない場合は質問名）を表示します。
回答	フォームテンプレートで指定されたラベル（回答選択肢）を表示します。
頻度	この質問で、ある特定の回答選択肢を回答者が選択した回数（たとえば、回答選択肢がデータセット内に出現する回数など）を表示します。

%	対応するトータルのパーセンテージを表示します。
無回答/複数/無効	データセット内で欠測した値がある場合は、トータルおよび対応するパーセント値が、各質問に対して表示されます。欠測した値の表示は、 <b>Remark Quick Stats</b> の基本設定で設定できます。ラベリングは、空白と複数の回答を別々のカテゴリに分けるかどうかという基本設定に基づいて変わります。
標準偏差	標準偏差の計算値（あるデータセットが、平均値からどの程度外れた位置にあるか）を示します。データが離れているほど、偏差は大きくなります。この値は、分散の平方根を計算することで求められます。
中央値	分散の中央値を表示します。値のうち半分は中央より上に位置し、もう半分は中央より下に位置します。
平均	フォームテンプレートで定義した値に基づいて計算した、質問平均を表示します。

統計による要約項目分析のプロパティを、次の表に示します（レポートスタイルペインでアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら **[適用]** ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	頻度	レポートの頻度列を表示するかどうかを設定します。
	標準偏差	レポートの各質問に対する標準偏差を表示するかどうかを設定します（調査を作表する場合にのみ該当）。
	中央値	レポートの各質問に対する中央値を表示するかどうかを設定します（調査を作表する場合にのみ該当）。
	平均	レポートの各質問に対する平均値を表示するかどうかを設定します
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US</b> レターサイズ、 <b>US</b> リーガルサイズのいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	イタリック体 <b>NA</b>	レポートされた <b>NA</b> （該当なし）の回答選択肢を斜体にするかどうかを設定します。 <b>NA</b> の回答選択肢は、フォームテンプレートで設定されます。
	<b>NA</b> 色	<b>NA</b> （該当なし）の回答選択肢の色を設定します。 <b>NA</b> の



レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
		回答選択肢は、フォームテンプレートで設定されます。
	NA バーの色	頻度の NA バーグラフの色を設定します。NA の回答選択肢は、フォームテンプレートで設定されます。
	小数点以下の 桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 2 桁）。
	バーグラフの プロパティ	頻度パーセンテージをトラッキングするバーグラフの外見を設定します。
	テーブルヘッダー	表を識別するためにその上に何を表示するかを、 <b>Auto Number</b> （連続番号）、 <b>Display Question Name</b> （質問名）、 <b>Display Question Text</b> （質問文）、 <b>Item Number</b> （テスト内の順番で表示される項目番号）の中から選択します。
	長い回答	長い回答（回答選択肢）を折り返すか短縮する（切り詰める）かを設定します。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。省略記号 (...) をクリックするとレイアウトをカスタマイズできます。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	レポートヘッダーの中のデータに適用したカスタムフィルタを表示するかどうかを設定します。
	凡例の表示	レポートの凡例を表示するかどうかを設定します。凡例はレポートの色が何を意味するかを示し、表示をオンにするとレポートの上端に表示されます。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。

### 3.4.6 レポート 208 - 統計による基本項目分析

統計による基本項目分析は、調査に関するひじょうにシンプルな項目分析を示します。このレポートは、各質問、平均値、回答頻度を表示します。このレポートを使用すると、質問単位での回答頻度を簡単に概観できます。回答は、質問のラベルや質問の値によってリスト化できます。

次のオプションが使用できます。

統計情報	意味
数値	各質問に対する数値を昇順に表示します。
質問	フォームテンプレートで定義された各質問名を表示します。
回答の頻度	この質問で、ある特定の回答選択肢が選択された回数（たとえば、回答選択肢がデータセット内に出現する回数など）を表示します。頻度は、合計またはパーセント（またはその両方）で表示できます。
平均	フォームテンプレートで定義した値に基づいて計算した、質問平均を表示します。
中央値	各質問の中央値をレポートに表示します。値のうち半分は中央より上に位置し、もう半分は中央より下に位置します（調査を作表する場合にのみ該当）。
標準偏差	各質問の標準偏差（あるデータセットが、平均値からどの程度外れた位置にあるか）をレポートに表示します。データが離れているほど、偏差は大きくなります。この値は、分散の平方根を計算することで求められます。（調査を作表する場合にのみ該当）。

統計による基本項目分析のプロパティを、次の表に示します（レポートスタイルペインでアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら **[適用]** ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	質問数	レポートの各質問に対する連続した質問番号を表示するかどうかを設定します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	平均	レポートの各質問に対する平均値を表示するかどうかを設定します
	中央値	レポートの各質問に対する中央値を表示するかどうかを設定します
	標準偏差	レポートの各質問に対する標準偏差を表示するかどうかを設定します
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US</b> レターサイズ、 <b>US</b> リーガルサイズのいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	NA 選択枝の色	<b>NA</b> （該当なし）の回答選択枝の色を設定します。 <b>NA</b> の回答選択枝は、フォームテンプレートで設定されます。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 <b>2</b> 桁）。
	回答頻度の <b>タイプ</b>	回答頻度の表示タイプを、パーセント（デフォルト）または合計数のどちらかに設定します。
	回答の <b>タイプ</b>	回答の頻度行にリストする回答の表示形式をラベルまたは値に設定します。ラベルは、フォームテンプレートのラベルグリッドに入力されたラベルを参照します。値は、フォームテンプレートの値グリッドに入力された値を参照します。
	行の網かけ	チャート内の行に <b>1</b> 行おきに影をつけるかどうかを設定します。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタ

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	レイアウト	ムヘッダーのレイアウトを設定します。省略記号 (...) をクリックするとレイアウトをカスタマイズできます。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定 します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定 義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定がで きるようになります。
	フィルタの表示	レポートヘッダーの中のデータに適用したカスタムフ ィルタを表示するかどうかを設定します。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。

### 3.4.7 レポート 220 - 統合項目分析レポート

統合項目分析レポートは、要約項目分析レポートと項目別の回答レポートを連結して、項目の分析情報と自由回答形式の情報を 1 つのレポートで把握できるようにしたものです。このレポートは、テンプレートフィールド定義と同じ質問順序に従います。

統合項目分析レポートのプロパティを、次の表に示します（レポートスタイルペインでアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら **適用** ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	頻度	レポートの頻度列を表示するか非表示にするかを設定 します。
	平均	平均値の計算をレポートに表示するかどうかを設定し ます。
	変更された回答	選択され、その後積み上げ式のバーグラフに変更された 回答選択肢を表示するかどうかを設定します。*このプロ パティはテストの採点にのみ適用されます。
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US レターサイズ</b> 、 <b>US リーガル</b> サイズのいずれかに設定します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	ページ区切り	レポートの回答部分で、各項目の後にページ区切りを挿入するかどうかを設定します。
	イタリック体 <b>NA</b>	レポートされた <b>NA</b> （該当なし）の回答選択肢を斜体にするかどうかを設定します。 <b>NA</b> の回答選択肢は、フォームテンプレートで設定されます。
	<b>NA</b> 色	<b>NA</b> （該当なし）の回答選択肢の色を設定します。 <b>NA</b> の回答選択肢は、フォームテンプレートで設定されます。
	<b>NA</b> バーの色	<b>NA</b> （該当なし）の回答選択肢のバーグラフの色を設定します。 <b>NA</b> の回答選択肢は、フォームテンプレートで設定されます。
	回答者 ID	レポート内で分析回答者 ID として識別された質問を表示するかどうかを設定します。この機能を使用すると、回答と回答者がリンクされます。この機能を使用するが分析回答者 ID として指定した質問がない場合、各回答は連続した番号とともに表示されます。
	行の網かけ	チャート内の行に 1 行おきに影をつけるかどうかを設定します。
	イメージの品質	各項目で表示するイメージの品質を、低、中、高のいずれかに設定します。高品質で表示すると、レポートの実行にかかる時間が大幅に長くなることがあるので注意してください。高品質で表示すると、レポートの実行にかかる時間が大幅に長くなることがあるので注意してください。レポートを印刷すると、画面よりもクリアに見えることがあります。
	並べ替え項目	レポートの回答セクションを回答者 ID または回答で並べ替えるかどうかを設定します（デフォルトでは並べ替えません）。
	並べ替え順	回答の並べ替え（上記の基準に基づいて）を昇順と降順のどちらで行うかを設定します。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 2 桁）。
	バーグラフのプロパティ	頻度パーセンテージをトラッキングするバーグラフの外見を設定します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	質問のヘッダー	各質問を識別するためにその上に何を表示するかを、項目番号、質問テキストを表示、質問名の表示、自動番号の中から選択します。
	プロンプトの表示	質問選択ウィンドウを表示してレポートの回答セクションの項目を選択できるようにするか、単純にすべての質問に対してレポートを表示するかを設定します。
	回答者の 識別ラベル	レポート上で各回答者を識別する文を設定します（たとえば「回答者：ジョン・ドウ」など）。
	変更された 応答パターン	変更された回答のバーグラフのパターンを設定します。 *このプロパティはテストの採点にのみ適用されます。
	変更された 回答の色	変更された回答のバーグラフの色を設定します。*このプロパティはテストの採点にのみ適用されます。
	長い回答	長い回答（回答選択肢）を折り返すか短縮する（切り詰める）かを設定します。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
	凡例の表示	バーグラフの何色が何を表しているかを示す凡例を表示するかどうかを設定します（テストの採点にのみ適用）。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	レポートのフッターに使用する日付（または日時）の形式を設定します。

#### 統合項目分析レポートを実行するには

1. **Remark Quick Stats** タスクペインの「項目分析レポート」の下で、**220 - 統合項目分析レポート**へのリンクを選択します。
2. 「回答レポートの質問選択」ウィンドウで、レポートに含めたい質問を選択します。質問をダブルクリックするか、または「追加」ボタンを使用して、選択されたウィンドウに質問を移動します。緑色の矢印とウィンドウの中央にある **AZ** または **ZA** の記号を使用すると、項目をアルファベット順に並べ替えることができます。
  - **注:**複数の質問を選択できます。キーボードの[Ctrl]キーを押しながら質問をクリックしてください。また、先頭位置の質問をクリックした後に[Shift]キーを押しながら末尾の質問をクリックすると、その範囲内の質問が選択されます。
3. 「レポートを実行」ボタンをクリックしてレポートを実行します。**要約項目分析レポート**が最初に表示され、その後続けて、選択された質問への回答が、質問別にグループ化されて表示されます。



選択内容に基づいてレポートが画面に表示されます。「レポートスタイル」ウィンドウを使用すると、レポートを自由に変更できます。

### 3.4.8 レポート 321 - 項目統計レポート

項目統計レポートは、各質問に対する記述的な統計情報を表示します。統計情報はグループで表示されるので、必要に応じてグループの表示と非表示を切り替えることができます。項目統計レポートは、各質問と統計情報を表示します。統計情報には、有効数、欠測数、平均、分散、標準偏差、標準誤差、最小値、最大値、範囲、歪度、尖度、t-値、平均絶対偏差、第25および第75百分位数、中央値、四分位範囲、1%/5%/95%/99%の信頼区間があります。

- **注:**項目統計レポートの統計情報では、統計の性質上、空白および複数回答を考慮に入れることはできません。たとえば、平均値の計算には空白を使用できません。空白には有効な値がないためです。そのため、欠測した値を含める場合（「ツール | 基本設定から」）、欠測した値があれば、すべて項目統計レポートの「Excluded」列にリストされます。含めない場合（「ツール | 基本設定から」）は、項目統計レポートの「Excluded」列にリストされません。

これらの統計情報を、次の表に簡単に示します。

統計情報	説明
項目	質問名または質問文（フォームテンプレートまたは高度な調査で質問文が定義されている場合）を表示します。項目に自動的に連続した番号を付けるよう選択したり、フォームの質問の項目番号を表示したりすることもできます。
有効数	特定の質問に回答した有効な回答者数を表示します。
欠測	欠測している回答（空白、複数、エラーなど）、またはフォームテンプレートや高度な調査で <b>N/A</b> に設定された回答の数を表示します。
平均	母集団の中の平均値。
分散	平均と個々の数値の差を二乗した値の平均値。分散は、個々の数値にどれだけのバリエーションがあるかという数量を測ります。可能なすべての値とその確率または重みづけが考慮に入れます（単に、範囲の両極端だけではありません）。
標準偏差	あるデータセットが、平均値からどの程度外れた位置にあるかを示します。データが離れているほど、偏差は大きくなります。この値は、分散の平方根を計算することで求められます。
標準誤差	その統計の標本分布の標準偏差。標準誤差は、標本の変動がどの程度統計に示されるかを反映します。
最小値	その範囲内の最小値。
最大値	その範囲内の最大値。
範囲	最大値と最小値の差。
歪度	分散の形態から明らかにわかる、データセットの対称度または非対称度を測る尺度。分散グラフの左半分が右半分に鏡に映したようになっている場合、その分散は対称的です。分散が右側に歪んでいる場合（正の歪度）、平均値は中央値より大きくなり、中央値は最頻値より大きくなります。この場合、歪度係数はゼロより大きな値です。分散が左側に歪んでいる場合（負の歪度）、関係は反転します。この場合、歪度係数はゼロより小さな値です。歪みがない場合、または分散が釣鐘型の正規曲線を描いて左右対称になっている場合は、平均値＝中央値＝最頻値になります。
尖度	尖度は、分散の「尾」の部分のサイズに基づいています。尾が比較的長い分散を「急尖」といい、尾の短い分散を「緩尖」といいます。尖度が正規分布と同一である分散は「中尖」といいます。
T-値	平均値（または平均値の対）が分子になり、分子の標準偏差を見積もった値が分母になるような、ランダムなサンプル（またはサンプルの対）の尺度。分母になる見積もりは、サンプルの <b>s</b> の二乗に基づいて



統計情報	説明
	います。これらの計算で求められた (t) の値がゼロから十分に隔たっている場合、この検定は統計的に十分であると考えられます。
平均絶対偏差	データの値が平均値から平均してどの程度隔たっているかを計算する変動の尺度。
百分位数 (25 および 75)	百分位数とは、データのサンプルを、(できるだけ) 同じ数の対象を含む 100 個のグループに分ける値です。たとえば、データ値の 25% は、第 25 百分位数より下に位置します。
中央値	分散の中央値。値のうち半分は中央より上に位置し、もう半分は中央より下に位置します。
四分位範囲	第 75 百分位数と第 25 百分位数間の差異を表示します。
信頼区間	信頼区間は、未知の母集団母数を含むと思われる値の範囲を見積もります。これは、与えられたサンプルデータのセットから計算して見積もった範囲です。同じ母集団から独立したサンプルを連続して取得し、各サンプルに対して信頼区間が計算される場合、その区間のあるパーセンテージ (信頼レベル) は、未知の母集団母数を含みます。 <b>Remark Office OMR</b> は、1%、5%、95%、99%の信頼区間を計算します。

項目統計レポートのプロパティを、次の表に示します (レポートスタイルペインでアクセスできます)。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら [適用] ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	質問	レポートの [質問] セクションを表示するかどうかを設定します。このセクションは、質問名、サンプルサイズ、欠測している数値を含みます。
	要約統計	レポートの [要約統計] セクションを表示するかどうかを設定します。このセクションは、平均、分散、標準偏差、標準誤差を含みます。
	値	レポートの [値] セクションを表示するかどうかを設定します。このセクションは、最小値、最大値、範囲を含みます。
	記述的統計	レポートの [記述的統計] セクションを表示するかどうかを設定します。このセクションは、歪度、尖度、T 値、平均絶対偏差を含みます。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	百分位数	レポートの「百分位数」セクションを表示するかどうかを設定します。このセクションは第 25 および第 75 百分位数、四分位範囲、中間地を含みます。
	信頼区間	レポートの「信頼区間」セクションを表示するかどうかを設定します。このセクションは信頼区間 1、5、95、99%を含みます。
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US レターサイズ</b> 、 <b>US リーガルサイズ</b> のいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 2 桁）。
	行の網かけ	チャート内の行に 1 行おきに影をつけるかどうかを設定します。
	項目ラベル	レポート上にリストされた各質問を識別するために、質問列に何を表示するかを設定します。 <b>Auto Number</b> （連続番号）、 <b>Display Question Name</b> （質問名）、 <b>Display Question Text</b> （質問文）、 <b>Item Number</b> （テスト内の順番で表示される項目番号）の中から選択します。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。省略記号 (...) をクリックするとレイアウトをカスタマイズできます。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定 します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定 義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定がで きるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングす る基準を表示するかどうかを設定します。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。

### 3.4.9 レポート 340 - クロス集計レポート

クロス集計レポートは、2つの質問に関する情報を1つの表にまとめるため、2つの質問についての回答を同時に分析できます。クロス集計レポートは、2種類の変数の分布を同時に記述します。クロス集計の各セルは、特定の組み合わせで回答を選択した回答者の人数を示します。値は数値またはパーセントで表示されます。クロス集計レポートに表示される頻度は、トータルまたはパーセントです。複数の正解を認める質問は、クロス集計では使用できないので注意してください。

クロス集計レポートのプロパティを、次の表に要約して示します（レポートスタイルペインからアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら [適用] ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US レターサイズ</b> 、 <b>US リーガルサイズ</b> のいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	ページ区切り	各クロス集計の後にページ区切りを挿入するかどうかを設定します。
	小数点以下の 桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点 以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 <b>2</b> 桁）。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	空欄の除去	空白の回答を含む列/行を削除するかどうかを設定します。
	テーブルの タイトル	各クロス集計のタイトルを設定します。
	テーブルの ヘッダーを太字	表のヘッダーを太字のフォントにするかどうかを設定します。
	パーセンテージ	行の各クロス集計の頻度を数値で表示するかパーセンテージで表示するかを設定します。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。省略記号 (...) をクリックするとレイアウトをカスタマイズできます。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。

クロス集計レポートを実行するには

1. **Remark Quick Stats** のタスクペインで、「調査と項目統計レポート」の下にある **340 - クロス集計** へのリンクを選択します。

2. [クロス集計の質問選択] ウィンドウで、レポートに含めたい質問を選択します。分析する行の質問を[行]ボックスに、分析する列の質問を[列]ボックスに入力します。[追加] ボタンを使用して、選択されたウィンドウに質問を移動します。特定の質問を他のすべての質問と比較して分析したい場合は、その列で[All] オプションを使用します。緑色の矢印とウィンドウの中央にあるAZまたはZAの記号を使用すると、項目をアルファベット順に並べ替えることができます。

- 注: 複数の質問を選択できます。キーボードの[Ctrl] キーを押しながら質問をクリックしてください。また、先頭位置の質問をクリックした後に[Shift] キーを押しながら末尾の質問をクリックすると、その範囲内の質問が選択されます。



3. [OK] ボタンをクリックしてレポートを実行します。

選択内容に基づいてレポートが画面に表示されます。[レポートスタイル] ウィンドウを使用すると、レポートを自由に変更できます。

### 3.4.10 レポート 350 - 比較項目レポート

比較項目レポートは、調査に含まれるさまざまな属性単位でのパフォーマンスを比較します。これは、個々の質問についての情報を、データからの質問に基づいてレポートします（たとえば、コース評価の調査では、講師別、科目別などでレポートできます）。比較項目レポートを使用すると、データを分類するためのデータ片をデータセットから3種類まで選択できます。このレポートは、各サブグループに対する回答者数と、質問平均、平均値のバーグラフを表示します。

比較項目レポートでは次のオプションが使用できます。

オプション	説明
凡例	レポートの生成に使用する基準を表示します。
レポート基準	レポートの生成用に選択した質問を表示します。生徒レベルまで分析するレポートはオプションです。
回答者	選択された各カテゴリに該当する回答者数を表示します。
平均	各項目グループの平均回答を表示します。
ベンチマーク	高度な調査で質問に対して入力したベンチマークの値を表示します（該当する場合）。これは質問に対して予測される値であり、フォームテンプレートで各データラベルに対して入力した値に基づいています。
成績の隔たり	ベンチマークの値が高度な調査の質問プロパティで定義されている場合、この設定は、回答と確立されたベンチマークの差、および定義されたベンチマークと回答の関係を示すバーグラフを表示します。青い線はベンチマークを示します。バーグラフが緑色の場合、回答がベ

ベンチマークより高いことを示します。バーグラフが赤色の場合、回答がベンチマークより低いことを示します。バーグラフは、レポートスタイルのタスクペインにあるレポートのプロパティ内でカスタマイズできます。

比較項目レポートのプロパティを、次の表に示します（レポートスタイルペインでアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら **[適用]** ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	回答者	レポートの回答者列を表示するかどうかを設定します。
	平均	レポートの平均値の列を表示するかどうかを設定します。
	成績の隔たり	レポートの成績の隔たりの列を表示するかどうかを設定します。
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US レターサイズ</b> 、 <b>US リーガルサイズ</b> のいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	項目ラベル	レポートにリストした各項目（データセットの質問）の文字色を設定します。
	グループ 3 の色	レポートにリストした 3 番目の基準グループの文字色を設定します。
	グループ 2 の色	レポートにリストした 2 番目の基準グループの文字色を設定します。
	グループ 1 の色	レポートにリストした最初の基準グループの文字色を設定します。
	小数点以下の桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 2 桁）。
	バーグラフのプロパティ	生徒の正答率をトラッキングするバーグラフの外見を設定します。省略記号 (...) をクリックするとバーグラフをカスタマイズできます。
	グループラベルの表示	レポートで選択した各基準に対して、グループラベルを表示するかどうかを設定します。グループラベルは各基準の上に表示され、それがどのような基準であるかを示

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
		します。通常は、凡例かグルーブラベルのどちらかを表 示します。
	背景色	レポート内の表の背景色を設定します。
	行の枠線	情報の各行の周囲に枠線を表示するかどうかを設定し ます。
	テーブルヘッダー	表を識別するためにその上に何を表示するかを、質問名 または質問文のどちらかに設定します。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに 使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示する か、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタ ムヘッダーのレイアウトを設定します。省略記号 (...) をクリックするとレイアウトをカスタマイズできます。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定 します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定 義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定がで きるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングす る基準を表示するかどうかを設定します。
	凡例の表示	レポートの凡例を各ページの先頭に表示するかどうか を設定します。凡例は、レポートの生成に使用した基準 を示します。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。

比較項目レポートを実行するには

1. **Remark Quick Stats** のタスクペインで、**「調査と項目統計レポート」** の下にある **350 - 比較項目** へのリンクを選択します。
2. **「比較項目レポートの質問選択」** ウィンドウで、レポートに含めたい質問を選択します。質問をダブルクリックするか、または **「追加」** ボタンを使用して、選択されたウィンドウに質問を移動します。緑色の矢印とウィンドウの中央にある **AZ** または **ZA** の記号を使用すると、項目をアルファベット順に並べ替えることができます。
  - **注:** 複数の質問を選択できます。キーボードの **[Ctrl]** キーを押しながら質問をクリックしてください。また、先頭位置の質問をクリックした後に **[Shift]** キーを押しながら末尾の質問をクリックすると、その範囲内の質問が選択されます。
3. **「レポートを実行」** ボタンをクリックしてレポートを実行します。



選択内容に基づいてレポートが画面に表示されます。**「レポートスタイル」** ウィンドウを使用すると、レポートを自由に変更できます。

### 3.4.11 レポート 360 - 質問平均レポート

質問平均レポートは、作表したすべての質問平均を示し、個々の質問のパフォーマンスを簡単に把握できます。質問平均レポートを使用すると、作表されているすべての質問、その質問の最小値と最大値、回答から算出した平均値がわかります。さらに、平均値のバーグラフも表示できます。また、ベンチマーク（達成したい平均値）を含めることもできます。ベンチマークはバーグラフ上に表示されるので、設定したベンチマークを上回った質問と下回った質問が簡単にわかります。

質問平均レポートでは次のオプションが使用できます。

オプション	説明
質問	作表した個別の質問を識別する質問文を表示します。これはフォームテンプレートまたは高度な調査で定義した内容です。オプションとして、質問名、質問の順序、質問番号を表示できます（レポートスタイルペイン）。
低	フォームテンプレートで定義した回答の最小値を表示します。フォームテンプレートを設定する際に、各回答選択肢には値が割り当てられています。平均値などの統計情報の計算には、この値が使用されます。
高	フォームテンプレートで定義した回答の最大値を表示します。フォームテンプレートを設定する際に、各回答選択肢には値が割り当てられています。平均値などの統計情報の計算には、この値が使用されます。
平均	各質問に対し、フォームテンプレートで回答選択肢に割り当てた値に基づく平均値を表示します。



ベンチマーク	高度な調査で質問に対して入力したベンチマークの値を表示します（該当する場合）。これは質問に対して予測される値であり、フォームテンプレートで各回答選択肢に対して入力した値に基づいています。
バーグラフ	平均値の計算を示すバーグラフを表示します。高度な調査でベンチマーク値を定義すると、バーグラフにはベンチマークの位置に青いラインが表示されます。平均値がベンチマークより低い場合、棒の内側の影が赤になります。平均値がベンチマークより高い場合、棒の内側の影は緑です。バーグラフは、レポートスタイルのタスクペインにあるレポートのプロパティ内でカスタマイズできます。

質問平均レポートのプロパティを、次の表に要約して示します（レポートスタイルペインからアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら **[適用]** ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	最小値	フォームテンプレートで定義した質問の最小値を表示するかどうかを設定します。
	最大値	フォームテンプレートで定義した質問の最大値を表示するかどうかを設定します。
	平均	質問平均を表示するかどうかを設定します。
	ベンチマーク	質問のベンチマークを表示するかどうかを設定します。ベンチマークはその質問に対して予測される値で、高度な調査で定義します。使用するとバーグラフも更新され、回答が予測ベンチマークに達していない場合はバーグラフに赤い影が付けられ、回答が予測ベンチマークを超えている場合は緑の影が付けられます。
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	テーブルヘッダー のフォントサイズ	テーブルヘッダー部分（列のヘッダー）で使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US レターサイズ</b> 、 <b>US リーガルサイズ</b> のいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	ページ区切り	各分析グループの後にページ区切りを挿入するかどうかを設定します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	小数点以下の 桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 2 桁）。
	バーグラフの プロパティ	グラフの種類、タイトル、色、フォントなどグラフのプロパティを設定します。
	質問の表示	質問の表示に何を用いるかを、質問名、質問文、テスト内の表示順序となる項目番号の中から選択します。
	行の網かけ	チャート内の行に 1 行おきに影をつけるかどうかを設定します。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。省略記号 (...) をクリックするとレイアウトをカスタマイズできます。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	レポートヘッダーの中のデータに適用したカスタムフィルタを表示するかどうかを設定します。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。

### 3.4.12 レポート 370 - 分析グループレポート

高度な調査では、フォーム全体以外にも、まとめて分析する質問のグループを作成できます。分析グループレポートを使用すると、質問のサブセットを作成し、回答やグループ全体の平

均値を表示できます。またオプションとして、分析グループ内部で質問に対して異なる重みを割り当て、分析対象の質問の重要性を強調することもできます。このタイプの分析は、調査票で関連する質問すべてを含むセクションを設け、結果をまとめてグループ化して表示したい場合に使用できます。たとえば、自動車ディーラーの顧客満足度調査を処理しているとします。営業スタッフについての質問グループ、サービススタッフについての質問グループ、ディーラー全体についての質問グループを設定したい場合があるでしょう。これらの質問グループを分析グループに入れると、個別の質問パフォーマンスと、同じ分類に入る質問全体のパフォーマンスの両方を調べることができます。また、コース評価を処理している場合には、同じ講師や採点方法などに属する別々の質問サブセットをまとめて処理したいような場合もあるでしょう。

分析グループレポートは、最初に全体の結果を表示し、その次に高度な調査で定義したグループの分析を続けます。オプションとして、レポートのプロパティ（レポートスタイルペイン）で、全体の結果を表示しないという設定ができます。各テーブルの内部には、質問、平均値、平均のバーグラフが表示されます。分析グループに対しては、グループ全体の平均値と、各質問に割り当てた重みが表示されます。

分析グループレポートでは、次のオプションが使用できます。

オプション	説明
質問	作表した個別の質問を識別する質問文を表示します。これはフォームテンプレートまたは高度な調査で定義した内容です。オプションとして、質問名、質問の順序、質問番号を表示できます（設定を変更するにはレポートスタイルペインを使用します）。
ベンチマーク (グループ)	高度な調査で分析グループに対して入力したベンチマークの値を表示します（該当する場合）。これはグループに対して予測される平均値であり、フォームテンプレート内の各回答選択肢に対して入力した値と、グループに対して設定した値に基づいています。
ベンチマーク (ベンチマーク)	高度な調査で質問に対して入力したベンチマークの値を表示します（該当する場合）。これは質問に対して予測される値であり、フォームテンプレートで各回答選択肢に対して入力した値に基づいています。
重要度	分析グループ内で各質問に割り当てられる重み（重要度）を表示します。デフォルトでは、各質問の重みは 1 ですが、高度な調査でこの設定を質問ごとに変更できます。
平均（グループ）	各分析グループに対し、フォームテンプレートで回答選択肢に割り当てた値に基づく平均値を表示します。
平均（質問）	各質問に対し、フォームテンプレートで回答選択肢に割り当てた値に基づく平均値を表示します。
バーグラフ	平均値の計算を示すバーグラフを表示します。レポートの先頭では、分析グループに関するバーグラフです。表の内部では、個別の質問に関するバーグラフになります。高度な調査でベンチマーク値を定義すると、バーグラフにはベンチマークの位置に青いラインが表示されま

す。平均値がベンチマークより低い場合、棒の内側の影が赤になります。平均値がベンチマークより高い場合、棒の内側の影は緑です。バーグラフは、レポートのプロパティ内でカスタマイズできます（この設定を変更するにはレポートスタイルペインを使用します）。

分析グループレポートのプロパティを、次の表に要約して示します（レポートスタイルペインからアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら[適用]ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US レターサイズ</b> 、 <b>US リーガルサイズ</b> のいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	ページ区切り	各クロス集計の後にページ区切りを挿入するかどうかを設定します。
	小数点以下の 桁数	レポート内の統計数値を表示する際に使用する小数点以下の桁数を設定します（最大で小数点以下 <b>2</b> 桁）。
	バーグラフの プロパティ	生徒の成績パーセンテージをトラッキングするバーグラフの外見を設定します。
	全体の表示	結果全体の要約を表示するかどうかを設定します。レポートにはまずこの表が表示され、次に個別の分析レポートの分析が続きます。
	質問の表示	分析グループの内部に個別の質問を表示するかどうかを設定します。このプロパティを非表示に設定すると、グループ名、平均値、バーグラフのみが表示されます。
	質問の表示方法	質問の表示に何を用いるかを、質問の名前、質問テキスト、テスト内の表示順序となる項目番号の中から選択します。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。省略記号 (...) をクリックするとレイアウトをカスタマイズできます。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。

### 3.4.13 レポート 401 - 項目別の回答レポート

項目別の回答レポートは、フォーム上の質問に対して指定された回答をすべて表示します。デフォルトでは、フォーム上で作表されない質問はいずれも、項目別の回答レポートに含めることができます。レポートスタイルペインでレポートのプロパティを調節すると、作表されているかどうかに関わらず、すべての質問を選択対象にできます。このレポートは、画像リージョンのデータを表示し、記述式の質問に回答者がどのように回答したかを調べられるので便利です。データ入力イメージフィールドに対しては、データグリッドに入力したテキストが表示されます。イメージクリップイメージフィールドに対しては、フォームの処理中にキャプチャされた回答者の手書き文字のイメージが表示されます。項目別の回答レポートは、質問別にグループ化されます（つまり、まず質問を表示し、次にすべての回答を表示することができます）。レポートスタイルペインのレポートプロパティで、回答とともに分析回答者 ID を含むかどうかを選択できます。フォームテンプレートまたは高度な調査ファイルで、分析回答者 ID の質問が指定されていない場合、回答には連続した番号が付けられます。

項目別回答レポートのプロパティを、次の表に要約して示します（レポートスタイルペインからアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら[適用]ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	並べ替え項目	質問を回答者 ID と回答のどちらで並べ替えるかを設定します。
	並べ替え順	問題の並べ替え（上記の基準に基づいて）を昇順と降順のどちらで行うかを設定します。
	回答者 ID	レポートの分析回答者 ID で識別される問題を表示するかどうかを設定します（フォームテンプレートまたは高度な調査で定義されていた場合）。この機能を使用すると、回答と回答者がリンクされます。この機能を使用するが分析回答者 ID として指定した質問がない場合、各回答は連続した番号とともに表示されます。
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを <b>A4</b> 、 <b>US レターサイズ</b> 、 <b>US リーガルサイズ</b> のいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	ページ区切り	各項目の後にページ区切りを挿入するかどうかを設定します。
	すべての 質問の表示	評価/作表対象の質問と評価/作表対象外の質問の両方を、レポートに対して利用可能な質問のリストに含めるかどうかを設定します。通常このレポートは、コメントや調査など評価/作表対象外の質問に対して実行します。ただし、レポート内の評価/作表対象の質問も使用できます。このプロパティを「はい」に設定すると、フォームテンプレートの質問がすべて表示されます。
	行の網かけ	チャート内の行に 1 行おきに影をつけるかどうかを設定します。
	イメージの品質	各項目で表示するイメージの品質を、低、中、高のいずれかに設定します。高品質で表示すると、レポートの実行にかかる時間が大幅に長くなることがあるので注意してください。
ヘッダー/ フッター	質問の 識別ラベル	レポート上で各問題（質問）を識別する文を設定します（たとえば「質問：何かコメントはありますか？」など）。
	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
	タイトルテキストの色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。省略記号 (...) をクリックするとレイアウトをカスタマイズできます。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングする基準を表示するかどうかを設定します。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。

#### 項目別の回答レポートを実行するには

1. **Remark Quick Stats** のタスクペインで、**「回答のレポート」** の下にある **401 - 項目別の回答レポート** へのリンクを選択します。
2. **「回答レポートの質問選択」** ウィンドウで、レポートに含めたい質問を選択します。質問をダブルクリックするか、または **「追加」** ボタンを使用して、選択されたウィンドウに質問を移動します。緑色の矢印とウィンドウの中央にある **AZ** または **ZA** の記号を使用すると、項目をアルファベット順に並べ替えることができます。
  - **注：** 複数の質問を選択できます。キーボードの **[Ctrl]** キーを押しながら質問をクリックしてください。また、先頭位置の質問をクリックした後に **[Shift]** キーを押しながら末尾の質問をクリックすると、その範囲内の質問が選択されます。





3. [レポートを実行] ボタンをクリックしてレポートを実行します。選択した質問に対する回答が、質問別にグループ化されて表示されます。

選択内容に基づいてレポートが画面に表示されます。[レポートスタイル] ウィンドウを使用すると、レポートを自由に変更できます。

#### 3.4.14 レポート 401 - 回答者別の回答レポート

回答者別の回答レポートは、フォーム上の質問に対する回答者の回答を表示します。デフォルトでは、フォーム上で作表されない質問はいずれも、回答者別の回答レポートに含めることができます。レポートスタイルペインでレポートのプロパティを調節すると、作表されているかどうかに関わらず、すべての質問を選択対象にできます。このレポートは、画像リジョンのデータを表示し、記述式の質問に回答者がどのように回答したかを調べられるので便利です。データ入力イメージフィールドに対しては、データグリッドに入力したテキストが表示されます。イメージクリップイメージフィールドに対しては、フォームの処理中にキャプチャされた回答者の手書き文字のイメージが表示されます。回答者別の回答レポートは、回答者に応じてグループ化されます（たとえば、まず回答者をリストし、次に、選択した質問すべてに対してその回答者が回答した内容をリストすることができます）。レポートスタイルペインのレポートプロパティで、回答とともに分析回答者 ID を含むかどうかを選択できます。フォームテンプレートまたは高度な調査ファイルで、分析回答者 ID の質問が指定されていない場合、回答には連続した番号が付けられます。

回答者別の回答レポートのプロパティを、次の表に要約して示します（レポートスタイルペインでアクセスできます）。プロパティをダブルクリックして変更するか、または指定されたドロップダウンリストを使用します。変更したら[適用] ボタンをクリックしてください。

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
データ	並べ替え項目	項目を回答者 ID のアルファベット順に並べ替えるかどうかを設定します。
	並べ替え順	問題の並べ替え（上記の基準に基づいて）を昇順と降順のどちらで行うかを設定します。
	質問の名前/ テキスト	各回答の隣に質問文を表示するか、または何も定義されていない場合に質問名を表示するかを設定します。
	回答者 ID	レポートの分析回答者 ID で識別される問題を表示するかどうかを設定します（フォームテンプレートまたは高度な調査で定義されていた場合）。この機能を使用すると、回答と回答者がリンクされます。この機能を使用するが分析回答者 ID として指定した質問がない場合、各回答は連続した番号とともに表示されます。
書式設定	フォント	レポートで使用するフォントのタイプを設定します。
	フォントサイズ	レポートで使用するフォントのサイズを設定します。
	ページサイズ	ページのサイズを A4、US レターサイズ、US リーガル



レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
		サイズのいずれかに設定します。
	方向	全体を横長にするか縦長にするかを設定します。
	ページ区切り	各項目の後にページ区切りを挿入するかどうかを設定します。
	すべての 質問を表示	評価/作表対象の質問と評価/作表対象外の質問の両方を、レポートに対して利用可能な質問のリストに含めるかどうかを設定します。通常このレポートは、コメントや調査など評価/作表対象外の質問に対して実行します。ただし、レポート内の評価/作表対象の質問も使用できます。このプロパティを「はい」に設定すると、フォームテンプレートの質問がすべて表示されます。
	行の網かけ	チャート内の行に 1 行おきに影をつけるかどうかを設定します。
	イメージの品質	各項目で表示するイメージの品質を、低、中、高のいずれかに設定します。高品質で表示すると、レポートの実行にかかる時間が大幅に長くなることがあるので注意してください。
	回答者の 識別ラベル	レポート上で各回答者を識別する文を設定します（たとえば「回答者：Jane Smith」など）。
ヘッダー/ フッター	カスタムレポート タイトル	レポートのタイトルを設定します。
	タイトルテキストの 色	タイトルテキストの色を設定します。
	レポートの色	レポート全体の色を設定します。この色は、レポートに使用するヘッダータイトル、線、枠線に影響します。
	レポート ヘッダー	レポートのタイトルをレポートの全ページに表示するか、先頭ページにのみ表示するかを設定します。
	ヘッダー レイアウト	テキスト、統計数値、グラフィックを挿入できるカスタムヘッダーのレイアウトを設定します。省略記号 (...) をクリックするとレイアウトをカスタマイズできます。
	カスタムヘッダー の表示	定義したカスタムヘッダーを表示するかどうかを設定します。この設定を使用すると、カスタムヘッダーを定義し、かつ完全に削除せずに表示しないという設定ができるようになります。
	フィルタの表示	フィルタを適用した場合、レポートをフィルタリングす

レポートの セクション名	レポートの プロパティ	説明
		る基準を表示するかどうかを設定します。
	左	レポートの左下端に置くフッターテキストを設定します。
	中央	レポートの下端中央に置くフッターテキストを設定します。
	右	レポートの右下端に置くフッターテキストを設定します。
	日付の形式	フッターの日付に使用する形式を設定します。

#### 回答者別の回答レポートを実行するには

1. **Remark Quick Stats** のタスクペインで、**「回答のレポート」** の下にあるのリンクを選択します。
2. **「回答レポートの質問選択」** ウィンドウで、レポートに含めたい質問を選択します。質問をダブルクリックするか、または **「追加」** ボタンを使用して、選択されたウィンドウに質問を移動します。緑色の矢印とウィンドウの中央にある **AZ** または **ZA** の記号を使用すると、項目をアルファベット順に並べ替えることができます。
  - **注:** 複数の質問を選択できます。キーボードの **[Ctrl]** キーを押しながら質問をクリックしてください。また、先頭位置の質問をクリックした後に **[Shift]** キーを押しながら末尾の質問をクリックすると、その範囲内の質問が選択されます。
3. **「OK」** ボタンをクリックしてレポートを実行します。選択した質問に対する回答が、回答者別にグループ化されて表示されます。

選択内容に基づいてレポートが画面に表示されます。**「レポートスタイル」** ウィンドウを使用すると、レポートを自由に変更できます。



# Remark Quick Stats 一般の機能

## 第 4 章

### 4.1 Remark Quick Stats 内での並べ替え

Remark Quick Stats のデータ部分にテキストデータを表示する場合は、データを並べ替えてわかりやすく表示できます。データの並べ替えは、テキストデータとして表示している場合に限られます。レポートを実行する際、データグリッドでのデータの並べ替え方法は、レポートには反映されないで注意してください。並べ替えられたデータは表示目的で使用され、エクスポートは、データのエクスポート用に選択した順序で行われます。

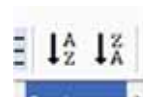
メニューを使用してデータを並べ替えるには

1. タスクペインの [データ] タブをクリックします。
2. [編集] メニューから[並べ替え]をクリックします。
3. [列の並べ替え] ボックスで、ドロップダウンリストを使用して、並べ替えのキーにする質問を選択します。
4. データを降順に並べ替える場合は [降順] チェックボックスをマークします。データを昇順に並べ替える場合は、このチェックボックスをマークしないでください。
5. 複数の検索基準を用いてデータを並べ替える場合は、並べ替えに使用する適切な質問を [そして] ボックスで選択します。
6. 質問の選択が終了したら [OK] ボタンをクリックします。



メニューを使用してデータを並べ替えるには

1. タスクペインの [データ] タブをクリックします。
2. データグリッドでデータの並べ替えに使用する列を選択します。
3. 選択した列に基づいてデータを昇順に並べ替える場合には、ツールバーボタンの [昇順で並べ替え] を選択します。選択した列に基づいてデータを降順に並べ替える場合には、ツールバーボタンの [降順で並べ替え] を選択します。選択内容に応じて、データセット全体が並べ替えられます。



### 4.2 スクリーンキャプチャ

レポートのどの部分でも、スクリーンキャプチャを作成して Windows のクリップボードに保存できます。スクリーンキャプチャは、クリップボードから別のアプリケーションに貼り付けることができます。この機能を使用すると、チャートやグラフを別のアプリケーション

で簡単に利用できます。たとえば、結果をまとめて **Microsoft PowerPoint** でプレゼンテーションする場合、**Remark Quick Stats** でグラフを作成し、それをキャプチャして **PowerPoint** のプレゼンテーションに挿入できます。スクリーンキャプチャは、**Remark Quick Stats** でレポートを表示している場合にのみ利用できます。

#### スクリーンキャプチャを作成するには

1. 目的のレポートを画面に表示した状態で、[ツール] メニューから [スクリーンキャプチャ] を選択するか、またはキーボードで [Ctrl+T] キーを押します。マウスの形状が十字型に変わります。
2. マウスの左ボタンを押しながら、キャプチャする部分を囲むようにマウスをドラッグします。その部分を囲むボックスが表示され、そのボックス内部の表示内容がすべてスクリーンキャプチャに入ります。レポートページのどの部分でも（ページ全体でも）キャプチャできます。スクリーンキャプチャを作成する前に、目的の部分をズームするか、またはそこまでスクロールしなければならない場合があります。
  - **ヒント**：ページ内でキャプチャできる部分を広げるには、ツールバーのズームオプションを使用して、レポートを縮小してください。
3. キャプチャしたい部分をマウスで囲んだら、マウスのボタンを離します。
4. スクリーンキャプチャが成功したというメッセージが表示されます。
5. スクリーンキャプチャは、**Windows** のクリップボードに入ります。使用するアプリケーションを起動し、挿入ポイントを選択して、そのアプリケーション内にイメージを貼り付けます ([Ctrl+V] キーを押すか、またはそのアプリケーションの貼り付け機能を使用します)。

### 4.3 Remark Quick Stats 内でのフィルタリング

**Remark Quick Stats** には 2 通りのフィルタリング方法があります。

- **レポートバッチ**：レポートバッチを作成すると、複数のレポートの実行、印刷、保存が同時にできます。最大 3 件のデータフィールドに基づいて、データを自動的にフィルタリングできます。
- **ウィンドウのフィルタリング**：手動でデータをフィルタリングすると、必要に応じて何種類でもフィルタリングパラメータを指定してデータを解析できます。

それぞれについて、この後の項で説明します。

#### 4.3.1 レポートバッチの使用

**Remark Quick Stats** にはレポートバッチ機能があり、フォームテンプレートのフィールドに基づいて自動的にデータをフィルタリングしたり、複数のレポートを一度に表示/印刷したりすることができます。

- **注**：レポートバッチ機能では、PDF、HTML、TIF、Text、RTF レポートのみエクスポート可能です。

データの自動フィルタリングを使用すると、テンプレート（データセット）のフィールドから 3 つまでをフィルタリングのベースとして選択できます。指定したフィールドのデータが

変更された場合は、いつでも新しいレポートを生成できます。たとえば、カレッジコースを査定するコース評価調査を処理する場合、各評価の講師名を取得できます。講師別に結果を確認したい場合、講師のフィールドでの自動フィルタリングも設定できます。この場合、各講師に対してそれぞれ新しいレポートが生成されます。複数のデータセットを分析しており、データセット名情報を入力して各データセットを識別する場合、グループを使用してレポートバッチ内でフィルタリングを実行できます。

#### レポートバッチ機能を使用するには

1. 簡易採点、高度な採点、簡易調査、高度な調査のいずれかを実行して **Remark Quick Stats** を開きます。

2. [Remark Quick Stats] ウィンドウで、[ツール]メニューを選択してから [レポートバッチ] をクリックします。あるいは、タスクペインでレポートバッチを選択するか、ツールバーボタンを選択します。

- 注：レポートバッチファイルをすでに作成していた場合は、タスクペインでからレポートバッチを選択できます。最近使用したレポートバッチも、タスクペイン内で使用できます。

3. (オプション) 自動フィルタリングを使用する場合は、[レポートをフィルタリング]ドロップダウンリストで、フィルタリングに使用するフィールドを、フォームテンプレート（データセット）から最大 3 個選択します。このフィールドで新しい値が発見されると、いつでも新しいレポートを生成できます。

4. [次へ] ボタンをクリックして操作を続けます。

5. 実行したいレポートを選択します。レポートをダブルクリックして選択するか、または[追加]ボタンを使用して、[選択したレポート] ボックスにレポートを移動します。

- 注：ユーザの入力が必要なレポートを選択した場合（たとえば、どのフィールドをレポートに使用するかをソフトウェアに対して指定しなければならないような回答者レポート）、レポートを生成する際に 1 度プロンプトが表示されます。設定を再度使用する予定がある場合、レポートバッチの設定ファイルにこの選択を保存できます。

6. [次へ] ボタンをクリックして操作を続けます。

7. レポートを印刷する場合は、[レポートの印刷] チェックボックスをマークします。また、印刷する部数、両面印刷を使用するか、個々のレポートを印刷する前に印刷用の設定ダイアログを表示するかどうか（たとえば、一部のレポートのみ両面印刷にして他はしないような場合）などの選択もできます。



8. [次へ] ボタンをクリックして操作を続けます。
9. バッチ実行時にレポートを表示したい場合は、[完了時にレポートを表示] チェックボックスをクリックします。
10. レポートを PDF、HTML、TIF、テキスト、RTF 形式のいずれかにエクスポートする場合は、[レポートのエクスポート] チェックボックスをマークします。
11. 使用する形式をリストから選択します。
12. 必要に応じて、[選択したすべてのレポートを 1 つのファイルにマージ] チェックボックスをマークします。レポートをマージする場合、個々のレポートを集めて 1 つのファイルが作成されます。ファイルがマージされていない場合、各レポートは、フィルタまたはフィールド名で指定した個別のフォルダの中に作成されます（フィルタリングしない場合）。たとえば、前述の例のようにコース評価を処理しており、レポートをマージしない場合は、各講師の名前でフォルダが作成され、そのフォルダに各講師のレポートが保存されます。
13. 必要に応じて、[すべてのレポートを 1 つのフォルダに保存] チェックボックスをマークします。データをフィルタリングする場合、このオプションを選択すると、ファイルはすべて同じフォルダに保存され、フィルタごとの個別フォルダには保存されません。フィルタがファイル名の一部になります。このオプションを使用しない場合、選択したフィルタに基づいて個別のフォルダが作成されます（コース評価の例では、各講師に対してフォルダが 1 つ作成され、そのフォルダの中にそれぞれのレポートが作成されます）。
14. [ベースのファイル名] の下で省略記号 (...) をクリックすると、レポートのベース名を指定し、そのレポートを保存する位置を選択できます。
15. [保存] ボタンをクリックします。
16. [完了] ボタンをクリックしてレポートを実行します。
17. [完了] ボタンをクリックして設定をまだ保存していない場合は、レポートバッチ設定ファイルを保存して、後で使用できるようにするかどうか確認されます。[はい] をクリックしてファイルを保存します。
18. ファイルの位置とファイル名を指定して、[保存] ボタンをクリックします。
  - 注：[完了] ボタンのドロップダウン矢印をクリックして [保存] を選択すると、どの時点でも作成中のレポートバッチの設定ファイルを保存できます。
19. レポートバッチで選択した動作が開始されます。動作が完了すると、画面にレポートが表示されます。
  - 注：複数のレポートが表示されることが多いため、生成されたレポートのレポートプロパティを変更することはできません。レポートプロパティは、バッチを実行する前に、レポートに対して個別に設定してください。

#### 4.3.2 レポートデータのフィルタリング

データセットにフィルタを適用すると、データをより厳密に精査できるようになります。フィルタを用いると、特定の質問への回答に基づいて、回答者を分析に組み込んだり、または分析から除外したりすることができるので、選択的な分析が可能になります。たとえば、調査票に性別を聞く質問がある場合、フィルタを使用して男性回答者に限定してレポートを実行できます。

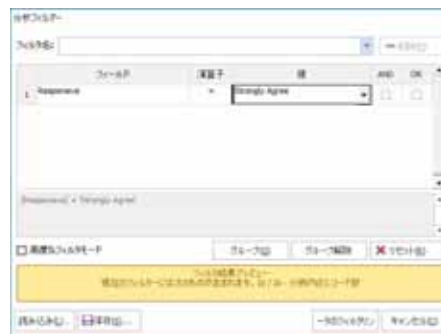
- **注：**本項では「フィルタ」ウィンドウを使用したフィルタリングについて説明します。このウィンドウでは、複雑なフィルタを作成してデータを厳密に調べることができます。自動フィルタ機能を使用して、フィールド内の値が変更された時に自動的にレポートを作成するようにしたい場合は、レポートバッチオプションを使用してください。

フィルタオプションについて、次の表に簡単に示します。

オプション	意味
フィールド	比較を行うフィールドを選択します。
演算子	比較に対して適用する演算（等しい、等しくない、より大きいなど）を選択します。
値	演算子を適用する回答の値を選択します。
And	既存のフィルタに別のフィルタを追加して、検索範囲を狭めます。[And] を選択してからフィルタにパラメータを追加する場合、両方が真の場合にのみデータがフィルタに含まれるようになります。
Or	既存のフィルタに別のフィルタを追加して、検索範囲を狭めます。[Or] を選択してからフィルタにパラメータを追加する場合、どちらか一方でも真であれば、データはフィルタに含まれるようになります。
リセット	現在のフィルタを空白値に戻します。
グループ	パラメータをグループにまとめ、フィルタのロジックを強化します。グループ化されたパラメータを最初に調べた後、その次に定義したパラメータに進みます。グループ化したいパラメータに対応する行を選択してください。
グループ解除	以前にグループ化したパラメータのグループ化を解除します。グループ化を解除したいパラメータに対応する行を選択してください。
高度なフィルタモード	フィルタ全体の内容を表示します。[詳細] チェックボックスをクリックすると「フィルタ」ボックスが有効になり、このボックスでフィルタを変更できるようになります。
保存	現在のフィルタを保存して、繰り返し使用できるようにします。
読み込み	以前に保存していたフィルタを開きます。
データのフィルタリング	現在のフィルタを用いてレポートを実行します。
キャンセル	現在のフィルタを取り消します。

フィルタを実行するには

1. テストの評価または調査の作表を行います。
2. [Remark Quick Stats] ウィンドウで、[編集] メニューを選択してから [フィルタ] をクリックします。データ表示領域で [フィルタ] ツールバーボタンをクリックしてもかまいません。
3. [フィールド]、[演算子]、[値] などのフィルタにパラメータを入力します。
4. 必要に応じて [保存] ボタンをクリックしてフィルタを保存し、再度使用できるようにすることもできます。
5. [実行] ボタンをクリックしてフィルタを実行します。
6. いったんフィルタを実行すると、以前にレポートを実行していた場合には、フィルタに基づいてレポートが自動的に表示されます。追加で実行したレポートも、そのフィルタに基づいています。フィルタの基準は、レポートの先頭に表示されます。



元のデータをリストアするには

フィルタを適用していない元のデータをリストアするには、**Remark Quick Stats** のデータ表示領域から操作を実行します。

1. **Remark Quick Stats** のタスクペインで [データ] タブをクリックします。
2. データグリッドの右上に [フィルタ] ドロップダウンリストがあります。
3. そのリストをドロップダウンして [Primary] を選択します。
4. 元のデータセットに合わせて、データがリストアされます。

## 4.4 カスタムレポートヘッダー

オプションとして、結果として生じるレポートのヘッダーを [カスタムレポートヘッダー] ウィンドウで定義します。ヘッダーを使用すると、レポートヘッダーのタイトルをカスタマイズしたり、グラフィックスを追加したりすることができます。カスタムレポートヘッダーを作成する方法は 2 通りあります。

- **Remark Quick Stats** で：レポートを実行し、レポートスタイルペインのヘッダー/フッター部分に移動してヘッダーレイアウトの省略記号 (...) をクリックすると、カスタムヘッダーを調節できます。カスタムヘッダーは、選択されているレポートにのみ適用されます。
- **高度な採点または高度な調査** で：高度な採点または高度な調査の内部でカスタムヘッダーを作成すると、ヘッダーはその操作によって生成されたファイルに保存されます。つまり、保存した定義ファイルを使用する際に、レポートヘッダーを再度作成する必要はありません。データの値を利用して、レポートの意味をわかりやすくすることもできます（たとえば、教師名をヘッダーに追加するなど）。高度な採点または高度な調査で定義するカスタムヘッダーは、個々のレポートプロパティで設定するカスタムヘッダーよりも優先されます。高度なオプション用のウィンドウでは、最大 3 種類のフィールドを簡単に定義できます。また、[その他のオプション...] ウィンドウ



ウィンドウをクリックすると、[カスタムレポートヘッダー] ウィンドウ全体にアクセスできます。

- **注：** レポートヘッダーを専用のファイルとして個別に保存したい場合は、ヘッダーを定義した後に [保存] ボタンをクリックします。このレポートヘッダーは、その後に他の分析定義を設定する際に使用できます。

#### カスタムヘッダーウィンドウでカスタムレポートヘッダーをセットアップするには

1. **Remark Quick Stats** でレポートを開きます。
2. **レポートスタイル** ペインで [ヘッダー/フッター] タブをクリックし、次に [ヘッダーレイアウト] で省略記号 (...) をクリックします。
3. [カスタムレポートヘッダーレイアウト] ウィンドウに、レポートの内容が表示されます。カスタマイズ可能なフィールドが 9 個あります。アクティブなフィールドは青色でハイライトされています。フィールドをクリックして選択し、カスタマイズします。
4. **レポートヘッダーでいくつの列を希望しますか**  
の下でレポートヘッダーの列数として、1、2、3 のいずれかを選択します。列数は、カスタマイズ可能な列の数 (3 から 9 まで) を示します。
5. 青いフィールドを 1 つクリックしてカスタマイズします。
6. 最初のフィールドにテキストとイメージのどちらを挿入するかを決めます。[テキスト] または [イメージ] のラジオボタンを選択します。
7. テキストを挿入する場合は、フィールドのラベルを [ラベル] ボックスに入力します。このラベルは自由形式のテキストです。
8. 必要に応じて [値] ドロップダウンリストに移動して、挿入する値を選択します。デフォルトの選択肢は、回答者数、日付、日時、ページ番号です。また、このレポートの生成に使用したフォームテンプレートからフィールドを選択することもできます。この機能は、回答者ごとに個別のページを生成するレポートのために設計されました (たとえば、生徒の成績レポート、回答者別の回答レポートなど)。選択したフィールドのデータが、定義したレポートヘッダーに表示されます。
9. [整列] セクションで、項目の整列方法を、左、中央、右のいずれかに設定します。
10. 挿入された項目は、レポート上で割り当てられたスペースの中で、その設定に応じて整列されます。
11. イメージを挿入する場合は、省略記号 (...) をクリックして、レポートに載せるイメージ (会社のロゴなど) を指定します。サポートされるイメージのタイプは、.bmp (ビットマップ)、.gif (GIF)、.jpg (JPEG)、.wmf (Windows メタファイル)、.ico (アイコン)、.cur (カーソル) です。
- **ヒント：** 画像を左/中央/右にそろえるには、目的の位置で適切なフィールドを選択してから画像を挿入します。
12. カスタムヘッダー情報をさらに追加する場合は、上記の手順を繰り返します。



- **ヒント**：カスタムヘッダー全体をリセットしてオリジナルの状態に戻す必要がある場合は、[リセット] ボタンをクリックします。画像を削除する場合は、フィールドをクリックして [クリア] ボタンをクリックします。テキストフィールドを削除する場合は、そのフィールドの中でクリックし、[ラベル] を削除し、[値] ドロップダウンリストの選択を先頭の空白エントリに変更します。
13. 作成したカスタムヘッダーを保存したい場合は、[エクスポート] ボタンをクリックして、ヘッダーのファイル名と保存場所を入力します。同じ画面でこれをもう一度開くと、カスタムヘッダーを再度適用できます。
  14. ヘッダーが完成したら、[OK] ボタンをクリックして変更を保存します。

# レポートの保存

## 第 5 章

### 5.1 レポート保存の概要

Remark Quick Stats にはレポートを保存する方法が 2 通りあります。

1. 内部 RQS ファイルとして保存し、Remark Quick Stats の中で使用する方法。
2. 他のアプリケーションで使える形式で保存（エクスポート）する方法。

RQS ファイルとして保存する場合、データはレポートとともに保存されるので、ファイルを再度開いてレポートを編集できます。この機能は、複数の Remark ライセンスを持ち、他のユーザと情報を共有する場合にも便利です。

他のアプリケーションで使える形式にレポートをエクスポートすると、レポートをさまざまな形式で保存し、統計情報を計算したり（未加工のデータを使用しても可）、さまざまな成績表に点数を保存したりすることができます。

### 5.2 Remark Quick Stats 形式でレポートを保存する

レポートを保存すると、Remark Quick Stats の内部でそのレポートを再度開けるようになります。このフォーマットを使用して他の Remark Office OMR ユーザとレポートを共有したり、保存したレポートを後から印刷、表示、編集したりすることができます。レポートを保存すると、そのレポートの生成に使用されたデータも、レポートとともに保存されます。このファイルは表示や印刷ができます。また、ファイル内にデータが含まれているので、さらにレポートを実行することもできます。

レポートを保存するには

1. レポートを実行した後、[ファイル] メニューを選択して [保存] または [名前をつけて保存] をクリックします。[保存] をクリックすると現行のレポートは上書きされ（開いていた場合）、[名前をつけて保存] をクリックすると、レポートを別のパラメータ（別の名前や別の場所に）で保存できます。
2. [レポートデータの保存] ウィンドウで、ファイルを保存する場所を選択します。
3. [ファイル名] ボックスにレポート名を入力します。ファイルには自動的に.rqs 拡張子が付けられます。
4. [保存] ボタンをクリックしてレポートを保存します。

レポートファイルが保存され、Remark Quick Stats または Remark Office OMR Data Center で再度開くことができます。

### 5.3 レポートを PDF 形式にエクスポートする

Remark Quick Stats では、レポートを PDF（ポータブルドキュメントフォーマット）ファイルにエクスポートして、結果を簡単に共有できます。PDF は E-メールに添付したり、Web

サイトに掲載したりすることが簡単にできます。

レポートを **PDF 形式** にエクスポートするには

1. **[Remark Quick Stats]** ウィンドウで、エクスポートしたいレポートを実行します。
  2. **[ファイル]** メニューを選択してから **[エクスポート]**、**[レポート]** の順にクリックします。タスクペインの **[レポートのエクスポート]** リンクまたはツールバーボタンをクリックしてもかまいません。
  3. **[レポートのエクスポート]** ウィンドウで **[エクスポート形式]** ドロップダウンリストから **[PDF]** を選択します。
  4. **[ページ]** エリアで、レポートのどのページをエクスポートするかを、**すべて**、**現在**、**範囲**（ページまたはページ範囲を指定）から選択します。
  5. エクスポートするレポートにグラフが含まれる場合は、グラフィメージに使用する**イメージの品質**を、**低**、**中間**、**高**、**最大**の中から選択します。イメージ品質が高くなると、ファイルのサイズが大きくなります。
  6. **[エクスポート]** ボタンをクリックして、ファイル名と場所を選択します。
  7. **[名前をつけて保存]** ウィンドウでファイルの位置を選択します。
  8. **[ファイル名]** ボックスにファイル名を入力します。
  9. ファイルの**保存形式**は変更できません（PDF に設定されています）。
  10. **[保存]** ボタンをクリックして **PDF** ファイルにエクスポートします。
- レポートファイルが保存され、**PDF** ビューアで開けるようになります。

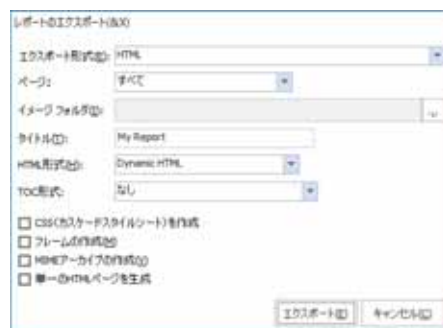


## 5.4 レポートを HTML 形式にエクスポートする

Remark Quick Stats では、レポートを HTML フォーマットにエクスポートして、結果をインターネットやイントラネットに投稿することが簡単にできます。レポートにグラフが含まれる場合、グラフはイメージとしてエクスポートされます。これらのイメージを、かならず HTML ファイルとともに投稿してください。

レポートを **HTML 形式** にエクスポートするには

1. **[Remark Quick Stats]** ウィンドウで、エクスポートしたいレポートを実行します。
2. **[ファイル]** メニューを選択してから **[エクスポート]**、**[レポート]** の順にクリックします。タスクペインの **[レポートのエクスポート]** リンクまたはツールバーボタンをクリックしてもかまいません。
3. **[レポートのエクスポート]** ウィンドウで **[エクスポート形式]** ドロップダウンリストから **[HTML]**



を選択します。

4. [ページ] エリアで、レポートのどのページをエクスポートするかを、**すべて、現在、範囲**（ページまたはページ範囲を指定）から選択します。
  5. [イメージフォルダ] の隣にある省略記号 (...) をクリックして、グラフなど関連するイメージを保存します。これらのイメージは、HTML ファイルとともに Web サイトに投稿する必要があります。
  6. 必要に応じて [タイトル] ボックスに HTML ファイルのタイトルを入力します。Web ブラウザで HTML ファイルを開くと、タイトルバーにこのタイトルが表示されます。
  7. [HTML 形式] ボックスから HTML 形式として、**HTML 3.2** (W3C HTML 3.2 推奨事項に準拠) または **Dynamic HTML** (CSS1 対応ブラウザ用のインラインスタイルを使用) のいずれかを選択します。
  8. [TOC 形式] ボックスから目次形式として、**なし**、**Simple HTML**、**Dynamic HTML**、**XML** のいずれかを選択します。目次の形式は、目次をエクスポートするかどうか、またはどのようにエクスポートするかを指定します。
  9. 残りのチェックボックスは、必要に応じてマークしてレポートのオプションを指定します。
    - [CSS(カスケーディングスタイルシート)を作成] : ファイルはカスケーディングスタイルシート (CSS) を含みます。
    - [フレームの作成] : ファイルはフレームを含みます。
    - [MIME アーカイブの作成] : ファイルを MHT アーカイブとしてエクスポートするかどうかを指定します。
    - [単一の HTML ページを生成] : 1 ページの HTML ファイルを作成します。
  10. [エクスポート] ボタンをクリックして、ファイル名と場所を選択します。
  11. [名前をつけて保存] ウィンドウでファイルの位置を選択します。
  12. [ファイル名] ボックスにファイル名を入力します。
  13. ファイルの**保存形式**は変更できません (HTML に設定されています)。
  14. [保存] ボタンをクリックして HTML ファイルにエクスポートします。
- レポートファイルが保存され、Web ブラウザで開けるようになります。

## 5.5 レポートを TIF 形式にエクスポートする

Remark Quick Stats では、レポートを TIF (タグ付きイメージ) 形式にエクスポートして、結果を簡単に送付できます。TIF ファイルは、他のドキュメントやプレゼンテーションに埋め込んだり、さまざまなイメージビューアで表示したりすることができるグラフィックファイルです。

レポートを TIF 形式にエクスポートするには

1. [Remark Quick Stats] ウィンドウで、エクスポートしたいレポートを実行します。
2. [ファイル] メニューを選択してから [エクスポート]、[レポート] の順にクリックします。タスクペインの [レポートのエクスポート] リンクまたはツールバーボタンをクリックしてもかまいません。

3. [レポートのエクスポート] ウィンドウで [エクスポート形式] ドロップダウンリストから TIF 形式を選択します。
4. [ページ] エリアで、レポートのどのページをエクスポートするかを、**すべて**、**現在**、**範囲**（ページまたはページ範囲を指定）から選択します。
5. [エクスポート] ボタンをクリックして、ファイル名と場所を選択します。
6. [名前をつけて保存] ウィンドウでファイルの位置を選択します。
7. [ファイル名] ボックスにファイル名を入力します。
8. ファイルの**保存形式**は変更できません（TIF に設定されています）。
9. [保存] ボタンをクリックして TIF ファイルにエクスポートします。

レポートファイルが保存され、イメージビューアで開くか、またはドキュメント内に挿入できるようになります。



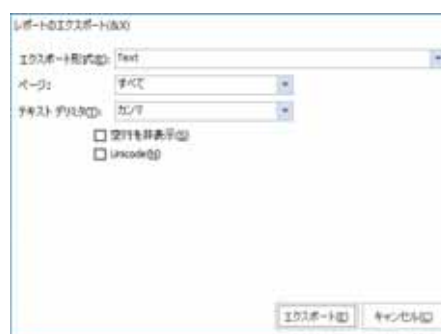
## 5.6 レポートをテキスト形式にエクスポートする

Remark Quick Stats では、レポートをテキスト（TXT）形式にエクスポートして、他のテキストベースのアプリケーションで使用できるようにすることができます。

- 注：単純に結果や未加工データを参照したいだけの場合は、目的に応じたテキストデータを [ファイル] メニューから出力することもできます。

レポートをテキスト形式にエクスポートするには

1. [Remark Quick Stats] ウィンドウで、エクスポートしたいレポートを実行します。
2. [ファイル] メニューを選択してから [エクスポート]、[レポート] の順にクリックします。タスクペインの [レポートのエクスポート] リンクまたはツールバーボタンをクリックしてもかまいません。
3. [レポートのエクスポート] ウィンドウで [エクスポート形式] ドロップダウンリストから [Text] を選択します。
4. [ページ] エリアで、レポートのどのページをエクスポートするかを、**すべて**、**現在**、**範囲**（ページまたはページ範囲を指定）から選択します。
5. [区切り文字] ドロップダウンリストで、ファイル内のフィールドを区切る文字を、カンマ、タブ、スペースのいずれかに指定します。
6. 必要に応じて [空行を非表示] チェックボックスをマークして、空白行をファイルから除去します。
7. 必要に応じて [Unicode] チェックボックスをマークして、テキストファイルを Unicode エンコーディングに設定します。この設定は、テキストが Unicode 形式と ASCII 形式の



どちらで出力されるかを指定します。**Unicode** は、文字を整数として表現する規格です。**ASCII** では文字に 7 ビットを使用しますが、それに対して **Unicode** は 16 ビットを使用するので、65,000 を超える文字を一意に表現できます。

8. **［エクスポート］** ボタンをクリックして、ファイル名と場所を選択します。
  9. **［名前をつけて保存］** ウィンドウでファイルの位置を選択します。
  10. **［ファイル名］** ボックスにファイル名を入力します。
  11. ファイルの**保存形式**は変更できません（TXT に設定されています）。
  12. **［保存］** ボタンをクリックしてテキストファイルにエクスポートします。
- レポートファイルが保存され、テキストエディタで開けるようになります。

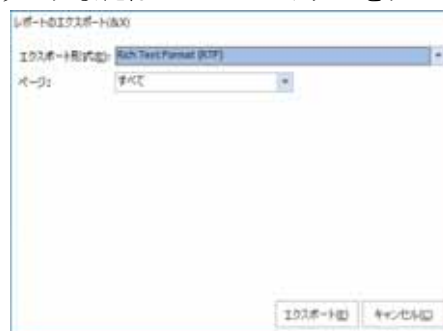
## 5.7 レポートを RTF 形式にエクスポートする

Remark Quick Stats では、レポートを RTF（リッチテキスト）形式にエクスポートして、Microsoft Word やその他のリッチテキストエディタでファイルを開けるようにすることができます。RTF 形式で保存する場合、グラフはサポートされないので注意してください。

レポートを RTF 形式にエクスポートするには

1. **［Remark Quick Stats］** ウィンドウで、エクスポートしたいレポートを実行します。
2. **［ファイル］** メニューを選択してから **［エクスポート］**、**［レポート］** の順にクリックします。タスクペインの **［レポートのエクスポート］** リンクまたはツールバーボタンをクリックしてもかまいません。
3. **［レポートのエクスポート］** ウィンドウで **［エクスポート形式］** ドロップダウンリストから **リッチテキスト形式（RTF）** を選択します。
4. **［ページ］** エリアで、レポートのどのページをエクスポートするかを、**すべて**、**現在**、**範囲**（ページまたはページ範囲を指定）から選択します。
5. **［エクスポート］** ボタンをクリックして、ファイル名と場所を選択します。
6. **［名前をつけて保存］** ウィンドウでファイルの位置を選択します。
7. **［ファイル名］** ボックスにファイル名を入力します。
8. ファイルの**保存形式**は変更できません（RTF に設定されています）。
9. **［保存］** ボタンをクリックして RTF ファイルにエクスポートします。

レポートファイルが保存され、Word やその他のリッチテキストエディタで開けるようになります。



## 5.8 テキストデータと結果のエクスポート

Remark Quick Stats では、テキストデータを Excel や Access のような形式のいずれかにエクスポートできます。テストの採点を行う際には、キャプチャしたテキストデータがレポート結果とともにファイルに保存されます。調査の分析を行う場合は、単にテキストデータの

コピーがエクスポートされます。テキストデータをエクスポートする方法は3通りあります。

- データのテキストバージョンのみをエクスポートする方法（調査および採点）。
- データのテキストバージョンと成績ランクをエクスポートする方法。定義した学習目標があれば、それもすべて含まれます（1つのレコードに複数の学習目標があります）（採点のみ）。
- テキストデータ、結果、学習目標（定義されている場合）をエクスポートする方法。ここでは、各生徒に対して、データセット内の学習目標にはそれぞれ独自のレコードが割り当てられます（採点のみ）。

テキストデータをエクスポートするには

1. 簡易採点、高度な採点、簡易調査、高度な調査のいずれかを実行して **Remark Quick Stats** を起動します。
2. **[Remark Quick Stats]** ウィンドウで、**[ファイル]** メニューを選択してから **[エクスポート]**、**[テキストデータ]** の順にクリックします。
3. **[データの保存]** ウィンドウでファイルの位置を選択し、**[ファイル名]** ボックスにファイル名を入力します。
4. **[タイプを指定して保存]** ボックスで、データを保存したいファイル形式を選択します。
  - 注：選択したファイルの形式に応じて、他のオプションを設定できる場合があります。使用可能なファイル形式それぞれについての詳細は、**Remark Office OMR** のユーザーズガイドを参照してください。

指定された形式でファイルが保存されます。

テキストデータと結果/テキストデータと結果および学習目標に基づく行をエクスポートするには

1. 簡易採点または高度な採点を実行して **Remark Quick Stats** を起動します。
2. **[Remark Quick Stats]** ウィンドウで、**[ファイル]** メニューを選択してから **[エクスポート]**、**[テキストデータと結果]** または **[テキストデータと行形式の学習目標]** の順にクリックします。
3. **[データの保存]** ウィンドウでファイルの位置を選択し、**[ファイル名]** ボックスにファイル名を入力します。
4. **[タイプを指定して保存]** ボックスで、データを保存したいファイル形式を選択します。
5. **[保存]** ボタンをクリックしてテキストファイルを保存します。
  - 注：**[詳細]** ボタンをクリックすると、保存する統計情報の種類を選択できます。エクスポートする統計情報のデフォルトを、**Remark Quick Stats** の基本設定で指定できます。

生成されるファイルには、テキストデータファイルと成績ランクの情報が表示されます。

## 5.9 数値データと結果のエクスポート

**Remark Quick Stats** では、テンプレートファイルの値を使用して（テキストラベルを使用している場合。それ以外の場合は単に数値データのみを使用）、数値データを複数の形式のう



ちいずれか（Excel、Access など）にエクスポートできます。テストを評価する場合、ファイルにはレポートの結果とともにキャプチャされた数値データが含まれます。調査を分析する場合は、数値データのコピーのみがエクスポートされます。数値データをエクスポートする方法は3通りあります。

- データの数値バージョンのみをエクスポートする方法（調査および採点）。
- データの数値バージョンと成績ランクをエクスポートする方法。定義した学習目標があれば、それもすべて含まれます（1つのレコードに複数の学習目標があります）（採点のみ）。
- 数値データ、結果、学習目標（定義されている場合）をエクスポートする方法。ここでは、各生徒に対して、データセット内の学習目標にはそれぞれ独自のレコードが割り当てられます（採点のみ）。

数値データをエクスポートするには

1. 簡易採点、高度な採点、簡易調査、高度な調査のいずれかを実行して **Remark Quick Stats** を起動します。
2. **[Remark Quick Stats]** ウィンドウで、**[ファイル]** メニューを選択してから **[エクスポート]**、**[数値データ]** の順にクリックします。
3. **[データの保存]** ウィンドウでファイルの位置を選択し、**[ファイル名]** ボックスにファイル名を入力します。
4. **[タイプを指定して保存]** ボックスで、データを保存したいファイル形式を選択します。
  - 注：選択したファイルの形式に応じて、他のオプションを設定できる場合があります。使用可能なファイル形式それぞれについての詳細は、**Remark Office OMR** のユーザーズガイドを参照してください。

指定された形式でファイルが保存されます。

数値データと結果/数値データと結果及び学習目標に基づく行をエクスポートするには

1. 簡易採点または高度な採点を実行して **Remark Quick Stats** を起動します。
2. **[Remark Quick Stats]** ウィンドウで、**[ファイル]** メニューを選択してから **[エクスポート]**、**[数値データと結果]** または **[数値データと行形式の学習目標]** の順にクリックします。
3. **[データの保存]** ウィンドウでファイルの位置を選択し、**[ファイル名]** ボックスにファイル名を入力します。
4. **[タイプを指定して保存]** ボックスで、データを保存したいファイル形式を選択します。
5. **[保存]** ボタンをクリックしてテキストファイルを保存します。
  - 注：**[詳細]** ボタンをクリックすると、保存する統計情報の種類を選択できます。エクスポートする統計情報のデフォルトを、**Remark Quick Stats** の基本設定で指定できます。

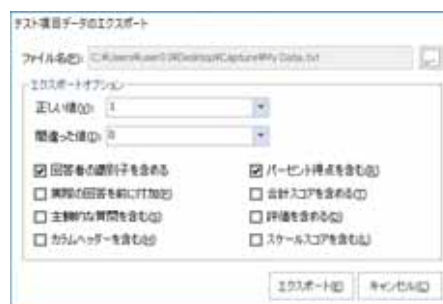
生成されるファイルには、数値データファイルと成績ランクの情報が表示されます。

## 5.10 評価結果をテスト項目データとしてエクスポートする

Remark Quick Stats では、タブまたはカンマで区切ったテキストファイルを作成し、そこで各生徒に対する各問題のステータスを示すことができます。正解は 1、不正解は 0 で示されます。このタイプのファイルは、正解と不正解を計算する成績評価プログラムにエクスポートできます。

テスト項目データをエクスポートするには

1. 簡易採点または高度な採点を実行してデータを評価します。
2. [Remark Quick Stats] ウィンドウで、[ファイル] メニューを選択してから [エクスポート]、[項目データのテスト] の順にクリックします。
3. [ファイル名] ボックスで、省略記号 (...) をクリックしてファイル名と場所を入力または選択します。
4. [ファイルの種類] ボックスで、[Comma Delimited (\*.csv)] または [タブ区切り (\*.txt)] を選択します。
5. [保存] ボタンをクリックしてテキストファイルを保存します。
6. [エクスポートオプション] エリアで、エクスポートしたファイルの中で正答と誤答を示す値を選択します（デフォルト値はそれぞれ 1 と 0 です）。
7. このチェックボックスをマークすると、ファイル内にオプションの情報が含まれるようになります。
  - 回答者の識別子を含める
  - 実際の回答を前に付加
  - 主観的な質問を含む
  - カラムヘッダを含める
  - パーセント得点を含める
  - 合計スコアを含める
  - 成績を含める
  - スケールスコアを含める
8. [エクスポート] ボタンをクリックしてファイルをエクスポートします。



生成されるファイルには、テスト項目データと選択したその他の情報が表示されます。

## 5.11 成績表エクスポートの概要

成績結果のデータ部分は、複数の成績表プログラムに保存できます。成績表プログラムを使用すると、生徒の情報を保存して学習の成果をトラッキングできます。

評価結果を成績表形式で保存するには

1. [Remark Quick Stats] ウィンドウで、[ファイル] メニューを選択してから [エクスポート]、[採点ブック] の順にクリックします。タスクペインの [グレードブックのエクスポート] リンクまたはツールバーボタンをクリックしてもかまいません。

2. データを保存する成績表の形式を選択します。
3. 各成績表タイプに対して、ウィンドウが表示されます。選択した成績表に対して適切なパラメータを入力します（下記の成績表に関する個別説明を参照してください）。
4. **「エクスポート」** ボタンをクリックします。
5. ファイルの位置を選択し **「ファイル名」** ボックスにファイル名を入力します。
6. **「保存」** ボタンをクリックしてファイルをエクスポートします。

使用可能な成績表形式は、次のとおりです。

- 標準(CSV)
- Blackboard (RBBX)
- Pinnacle
- InteGrade Pro (GBK)
- Canvas (CSV)
- Moodle (CSV)
- Sakai (CSV)
- MyGradebook (MGB)
- Pearson Inform (TXT)
- Grade Busters (TXT)
- Grade Quick (TXT)
- Perception (CSV)
- ParSCORE (SCO)
- カスタム(TXT、CSV)

### 5.11.1 標準の成績表形式を使用するには

Remark Quick Stats の標準成績表形式は、成績をインポートできる成績表プログラムであれば、実質どのプログラムにでもエクスポートできる汎用の成績表形式です。フォーマットは CSV（カンマで区切った値）です。生徒 ID（分析回答者 ID としてマークした任意のフィールド）、パーセントスコア、総得点がファイルに出力されます。

標準形式の成績表を使用するには

1. **「グレードブックのエクスポート」** ウィンドウで**標準**形式を選択します。
2. スコア情報をファイルに含める場合は、**小数点以下の桁数**を入力します。
3. 必要に応じて **「最初の行に解答キーを含める」** チェックボックスをマークします。
4. **「エクスポート」** ボタンをクリックして操作を続けます。
5. **「Standard Gradebook エクスポート」** ウィンドウ



ウで、ファイルを保存する場所を選択します。

6. **〔ファイル名〕** ボックスにファイル名を入力します。

7. **〔保存〕** ボタンをクリックして操作を続けます。

CSV ファイルが作成されます。テキストエディタや Microsoft Excel などのプログラムでこのファイルを編集すると、成績表アプリケーションのニーズに合った形式にすることができます。

### 5.11.2 成績を Blackboard にエクスポートする

Blackboard 形式では、Blackboard にインポートするための RBBX ファイルを作成します。Remark Quick Stats からは未加工の点数がエクスポートされます。スコアが Blackboard にインポートされると、生徒 ID または氏名に基づいて生徒と点数がマッチングされます。Blackboard 形式を使用する場合、Blackboard に Remark Grade Import ビルディングブロックが必要になるので注意してください。このビルディングブロックについての詳細は、Gravic Sales にお問い合わせください。

#### Remark Grade Import のインストール

1. 管理者アカウントで Blackboard にログインします。
2. **〔System Admin〕** タブをクリックします。
3. **〔Building Blocks〕** セクションの下で、**〔Building Blocks〕** リンクをクリックします。
4. **〔Installed Tools〕** をクリックします。
5. **〔Upload Building Blocks〕** をクリックします。
6. **RemarkGradeImport.war** ファイルの場所に移動し、**〔Submit〕** を選択します。
7. **Remark Grade Import** 名の隣にある **〔Availability〕** ドロップダウンリストを、**〔Unavailable〕** から **〔Available〕** に変更します。
8. **〔Approve〕** をクリックして、ビルディングブロックのアクティブ化を承認します。
9. デフォルトで全コースに使用できるようにしたい場合は、**〔Course/Org Default〕** ドロップダウンリストの選択内容を **〔Unavailable〕** から **〔Available〕** に変更します。この操作を行わない場合、ツールはコース単位で使用できるようにする必要があります。

#### Remark Grade Import の使用

1. Remark Office OMR を使用してアセスメントをスキャンした後、簡易採点または高度な採点で採点を行います。
2. **〔Remark Quick Stats〕** ウィンドウで、**〔ファイル〕** メニューを選択してから **〔エクスポート〕**、**〔採点ブック〕** の順にクリックします。
3. **〔Gradebook 形式〕** ドロップダウンリストで **〔Blackboard〕** を選択します。
4. データセットから **〔生徒の識別子〕** フィールドを選択します (通常は生徒 ID、生徒氏名、またはその両方になります)。
5. 必要に応じて、**1 ファイルあたりの最大レコード数**を調節します。データセットが大規模な場合、Remark Quick Stats は複数の Blackboard ファイルを作成して、ファイルの

インポートで問題が起きないようにします。75 件を超えるレコードのファイルを使用すると、インポート中に **Blackboard** が反応しなくなることがあります。75 より大きな値を使用する場合は注意してください。

6. **「エクスポート」** ボタンをクリックします。**Blackboard** にインポートする際にアクセスできる場所にファイルを保存します。
7. **Blackboard** にログインします。
8. 自分が講師を務め、評価結果をインポートしたいコースがある場所に移動します。
9. **「Course Tools」** の下で **「Remark Grade Import」** を選択します。
10. 評価を既存のアセスメントにインポートするか、新しくアセスメントを作成して評価をインポートするかを選択します。既存のアセスメントにインポートする場合は、インポートする先のアセスメントを選択します。新しくアセスメントを作成する場合は、アセスメント名を入力します。
11. **Remark Quick Stats** から成績表をエクスポートした時に保存した **.rbbx** ファイルの位置に移動します。**「Submit」** をクリックします。
12. 次のページには、ファイル内で重複する生徒 ID または氏名、もしくはコースに登録されている受講生と一致しない ID が表示されます。一致しない ID がある場合は、その隣のドロップダウンリストを使用して、生徒とマッチングさせるか、またはその評価を無視するか選択します。
13. 一致した評価を確認して **「Submit」** を選択します。

評価がクラスにインポートされます。

### 5.11.3 成績を Canvas にエクスポートする

Canvas 形式は、Canvas LMS にインポートするための CSV ファイルを作成します。Canvas は未加工の点数のみを受け付けます。生徒の氏名および ID は、データセットから抽出する必要があります（少なくとも 1 つの ID が必要です）。Canvas SIS を使用する場合、**「SIS User」** および **「Login」** フィールドはオプションです。**「Section」** もオプションです。ファイル名は常に **「Grades-科目名.csv」** にしてください（たとえば **「Grades-BiologyI.csv」** など）。

Canvas アプリケーションについての詳細は、Canvas のユーザガイドを参照してください。

### 5.11.4 成績を Pinnacle にエクスポートする

Pinnacle 形式では、CSV ファイルを作成し、Global Scholar のソフトウェア Pinnacle にインポートできるようにします。Pinnacle は未加工の点数のみを受け付けます。さらに、テンプレートファイルから生徒の ID フィールドを選択する必要があります。オプションと

して、生徒名のフィールドも選択できます。生成される CSV ファイルには、生徒氏名（指定されている場合）、生徒 ID、総得点が含まれ、Pinnacle にインポートできます。

Pinnacle ソフトウェアについての詳細は、Pinnacle のユーザガイドを参照してください。

### 5.11.5 成績を Moodle にエクスポートする

Moodle 形式では、CSV ファイルを作成し、学習管理システム Moodle にインポートできるようにします。Moodle は未加工の点数のみを受け付けます。分析回答者 ID フィールドとしてマークされたフィールドはすべて、未加工の点数とともにファイルに含まれます。

Moodle の学習管理システムについての詳細は、Moodle のユーザガイドを参照してください。



### 5.11.6 成績を Sakai Gradebook 2 にエクスポートする

Sakai Gradebook 2 形式は、オープンソースの Sakai Gradebook 2 システムにインポートするための CSV ファイルを作成します。生徒の点数は、生徒 ID と未加工の課題点数を含む CSV ファイルをインポートすることで、Gradebook 2 にインポートできます。ファイルには、次のようなヘッダーレコードが自動的に保存されます。

生徒 ID, 課題名 [獲得可能な最高点]

エクスポート時に課題名を入力する必要があります。

インポートする時点で、ファイル内の生徒 ID が成績表の生徒 ID と一致していなければなりません。Remark 内で分析回答者 ID としてマークしたフィールドは、Sakai の生徒 ID として使用されます。ID が一致しない場合、レコードはインポートされません。特別課題は、現在 Gradebook 2 ではサポートされません。生徒が獲得可能な最高点を超える点数を取っていた場合、そのレコードはインポートされません。

形式についての詳細は、Sakai Gradebook 2 のドキュメントを参照してください。



### 5.11.7 InteGrade Pro にエクスポートする

InteGrade Pro 形式では、GBK ファイルを作成し、Pearson の成績表システム InteGrade Pro にインポートできるようにします。この形式にエクスポートする場合は、次のオプションを設定する必要があります。

- **採点のインポート** : InteGrade Pro は未加工の点数のみをインポートします。
- **タスク名** : 生徒の点数をつける項目（テストなど）



- **タスク日**：項目を割り当てる日付

これらのオプションについての詳細は、InteGrade Pro のユーザガイドを参照してください。

### 5.11.8 成績を MyGradebook にエクスポートする

MyGradebook 形式では MGB ファイルを作成し、成績表システム MyGradebook にインポートできるようにします。この形式にエクスポートする場合は、次のオプションを設定する必要があります。

- **採点のインポート**：MyGradebook は未加工の点数のみをインポートします。
- **教師 ID**：教員の ID 番号
- **クラス名**：クラスの名称。
- **テスト名**：テストの名称。
- **テストの日付**：テストの日付。

これらのオプションについての詳細は、MyGradebook のユーザガイドを参照してください。

### 5.11.9 Pearson Inform に成績をエクスポートする

Inform 形式では、testdata.txt ファイルを作成し、Pearson の成績表システム Inform にインポートできるようにします。この形式で保存する場合は、次のオプションを設定する必要があります。

- **採点のインポート**：Pearson Inform はパーセントスコアのみをインポートします。
- **地域 ID**：地域の ID 番号。値を入力するか、番号を含むフィールドをドロップダウンリストから選択します。
- **学校 ID**：学校の ID 番号。値を入力するか、番号を含むフィールドをドロップダウンリストから選択します。
- **教師 ID**：教員の ID 番号値を入力するか、番号を含むフィールドをドロップダウンリストから選択します。番号を入力するか、番号を含むフィールドをドロップダウンリストから選択します。
- **テスト ID**：テストの ID 番号。値を入力するか、番号を含むフィールドをドロップダウンリストから選択します。
- **テストセッション**：テストセッションの ID。値を入力するか、番号を含むフィールドをドロップダウンリストから選択します。
- **テスト名**：テストの名称。番号を入力するか、番号を含むフィールドをドロップダウンリストから選択します。
- **テストの日付**：テストの日付。
- **学習目標を含める**：高度な採点で設定した学習目標の評価情報を含める場合は、こ



のチェックボックスをマークします。

Inform ソフトウェアについての詳細は、Inform のユーザガイドを参照してください。

#### 5.11.10 Grade Busters に成績をエクスポートする

Grade Busters 形式は、Jay Klein Productions の成績表プログラム Grade Busters: Making the Grade にインポートするためのテキスト (.txt) ファイルを作成します。Grade Busters 形式で保存する場合は、次のオプションを設定する必要があります。

- **採点のインポート**：この形式では、未加工の点数がデフォルトで使用されます。
- **割り当てポイント**：値は Remark Quick Stats で内部的に処理され、保存した成績表ファイルに自動的に入力されます。



これらのオプションについての詳細は、Grade Busters のユーザガイドを参照してください。

#### 5.11.11 Grade Quick に成績をエクスポートする

Grade Quick 形式は、Jackson Software の成績表プログラム Grade Quick にインポートするためのテキスト (.txt) ファイルを作成します。この形式にエクスポートする場合は、次のオプションを設定する必要があります。

- **次から成績をインポート**：この設定は、どの成績統計をインポートするか（パーセント、レターグレード、未加工）を設定します
- **Gradebook のエクスポートパラメータ**：スコアの開始行、ID の開始列、ID の最大長、スコアの開始列、最大スコアの長さ：これらの設定は、テキストファイルの点数と ID フィールドの情報を指定します。デフォルト情報を変更する必要はありません。結果を保存する際に、この情報でポジションファイルが自動的に作成されます。



これらのオプションについての詳細は、Grade Quick のユーザガイドを参照してください。

#### 5.11.12 成績を Perception にエクスポートする

Perception 形式では、CSV ファイルを作成し、Pearson の成績表ソフトウェア Perception にインポートできるようにします。Perception は未加工の点数を受け付けます。その他に設定するオプションはありません。

Perception ソフトウェアについての詳細は、Perception のユーザガイドを参照してください。



### 5.11.13 成績を ParSCORE にエクスポートする

ParSCORE 形式では、SCO ファイルを作成し、Pearson のソフトウェア ParSCORE にインポートできるようにします。ParSCORE は未加工の点数を受け付けます。その他に設定するオプションはありません。

ParSCORE ソフトウェアについての詳細は、ParSCORE のユーザガイドを参照してください。

### 5.11.14 カスタム成績表形式を使用するには

カスタム成績表形式を使用すると、カスタマイズしたテキストファイルを作成できます。この形式は、独自の要件を備えたプログラムにデータをエクスポートする場合に便利です。フィールドは、かならず分析回答者 ID としてマークしてください。それをファイルに含めて生徒を識別できる（生徒の ID や氏名など）ようになります。

カスタム形式を使用するには

1. [ファイル] メニューを選択して [エクスポート | 採点ブック] をクリックします。[グレードブックのエクスポート] ウィンドウが開き、ファイル名、ファイルタイプ、ファイルを保存するフォルダと、高度な保存オプションが選択できるようになります。
2. [グレードブックのエクスポート] ウィンドウで、**カスタム形式**を選択します。
3. スコア情報をファイルに含める場合は、**小数点以下の桁数**を入力します。
4. 必要に応じて [最初の行に解答キーを含める] チェックボックスをマークします。
5. [エクスポート] ボタンをクリックして操作を続けます。
6. 以前にカスタム形式を使用しており、このデータセットに適用する設定ファイルを保存していた場合は、省略符号 (...) のボタンをクリックして設定ファイルを指定できます。それ以外の場合は、次の手順に進んでください。
7. データセットのカスタマイズに使用するオプションを選択します。各オプションについて、以下で説明します。

オプション	説明
エクスポート開始行	エクスポートしたファイルの最初のレコードとして使用する行の番号を入力します。ここから先のすべての行がファイルに入ります。フィールド名を最初のレコードにする場合は「0」を入力します。
ファイルタイプ	区切り付き：フィールドは、カンマやタブなどで区切られます。 固定幅：フィールドは固定の文字幅に揃えられます。
レコードデリミタ	レコードを区切るためのデリミタを、CR/LF、CR、LF、その他のいずれかに設定します。
列のデリミタ	ファイルの列を区切る文字を、カンマ、タブ、セミコロン、スペース、その他から選択します。

オプション	説明
テキスト限定子	定性的テキストに使用する文字を選択します。テキスト回答はその文字の間には含まれます。可能な選択肢：なし、二重引用符 (“)、一重引用符 (‘)
複数回答の限定子	複数の回答を評価する文字を選択します。回答はその文字の間には含まれます。可能な選択肢：カッコ (( )), 波カッコ ({ }), 大カッコ ([ ]), 山カッコ (< >), その他の任意の 1 文字
複数回答のデリミタ	複数の回答を区切る文字を選択します。可能な選択肢：カンマ (,), ハイフン (-)、コロン (:)、セミコロン (;)、スペース、その他の任意の 1 文字。
<b>固定幅ファイルのみ：</b>	
複数回答可能な質問のオートフォーマット	[複数回答可能な質問のオートフォーマット] チェックボックスをマークすると、複数回答を許可する質問に対して、フォーマットが自動的に設定されます（たとえば(1,2,3)は 123 になります）。Remark は最も長い回答選択肢を認識し、それよりも短い選択肢にはパディングを追加して同じ長さに揃えるという点に注意してください。たとえば、解答が 5、10、3 であれば「5 103」のようになります。選択肢「10」が 2 文字で最も長いので、5 の後にスペースが 1 文字追加されています。この設定は、固定幅ファイルにのみ適用されます。
フィールドサイズ	フィールドに使用できる最大文字数。
開始位置	フィールドが何文字目から開始されるかという位置。たとえば、フィールドサイズが 25 文字であれば、最初のフィールドは 1 文字目から開始され、2 番目のフィールドは 26 文字目（25 文字後）から開始されます。このフィールドは参照のみ可能で、変更はできません。
パディング	フィールドのパディング（補填）文字。通常は空白文字です。
パディングオン	フィールド内のテキストの左右どちらにパディングするかを選択します。

8. [次へ] ボタンをクリックして次の手順に進みます。

手順の 9 および 10 は、カスタム成績表形式を使用している場合は、一般的ではありません（これらは未加工データを保存する場合に主に使用し、その場合は同じカスタム形式のウィンドウが使用されます）。

9. この手順は、データを複数のレコードに分割する必要がある場合に使用します。このオプションは、出席票、セッション評価、その他 1 枚のフォームで 2 人以上を評価する場合に便利です。データを分割する必要がある場合は、単に [終了] ボタンを押してください（手順 14）。

10. データセットにレコードを何個入れるかを選択します。たとえば、出席票を処理しており、1 フォーム（データ行）に学生 20 名を記録する場合は「20」と入力します。[更新]

ボタンをクリックします。必要なレコード数がウィンドウの右側に作成されます。通常、成績表 1 枚に対して 1 件のレコードを使用します。

11. ファイルをフォーマットする方法は 3 通りあります。

- **すべてのレコードに追加**：このオプションを使用すると、データセット内のすべてのレコードに質問が追加されます。出席票の例では、ここはクラス名または教師名（どの学生に対しても変わらないデータ）になります。これは、成績表で最も一般的なオプションです。成績表に必要な評価パラメータを選択してください。
- **選択されたレコードに追加（一般には使用されません）**：このオプションを使用すると、ウィンドウの右側で選択したレコードにのみ質問が追加されます。このオプションを使用すると、各レコードに何が入力されるかを細かく調節できます。
- **レコード間で分割（一般には使用されません）**：このオプションを使用すると、質問を選択してから、すべてのレコードにわたって均等に分割できます。出席票を例にとると、これは出席者をトラッキングするための質問（曜日など）になります。たとえば、フォームの左側に学生名を縦に並び、各学生に対して月曜から金曜までの項目があるとします。その学生が出席していれば、対応するバブルをマークします。欠席している場合、そのバブルは空白になります（これは **Boolean** フィールドです）。全レコードを、まず学生単位で分割します。次に、全レコードを曜日で分割します。右のスクリーンショットを参照してください。データを分割していない状態では、このような状態になります。

Student1	Student2	Student3	Student4	Student5	M1	M2	M3	M4	M5	T1	T2	T3	T4	T5	W1	W2	W3	W4	W5
12345	57748	43637	56832	94577	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0	1	1	1	1	1

学生と出席状況が長い 1 行にリストされている点に注意してください。

しかし、データを分割するとこのようになります。

A	B	C	D	E	F
12345	0	0	1	1	1
57748	0	0	1	0	1
43637	1	1	1	0	1
56832	1	0	1	1	1
94577	1	0	1	1	1

ここでは、学生 1 人が 1 レコードを専有し、出席状況もまとめられています。

12. 上記の方法を使用すると、必要に応じてデータを分析できます。

13. **［プレビュー］** ボタンを使用すると、エクスポートした時にデータがどのように見えるかをプレビューできます。

14. 終了したら **［終了］** ボタンをクリックします。

15. **［構成を保存］** ウィンドウが表示された時に、**［はい］** ボタンをクリックすると設定はファイルに保存され、後でデータを保存する時に使用できるようになります。この設定ファイルを保存しない場合は **［いいえ］** ボタンをクリックします。後で使用するために設定ファイルを保存しない場合、**［いいえ］** ボタンをクリックするとデータファイルが保存されます。設定ファイルを保存する場合は、次の手順に進みます。それ以外の場合は、データを保存して終了します。

- （オプション）設定ファイルを保存する場合は、設定ファイルを保存する場所を **［テキストエクスポート設定に名前を付けて保存］** の **［Save in］** ボックスで

選択します。

- [ファイル名] ボックスにファイル名を入力します。
- [タイプを指定して保存] ボックスの設定は [Text Export Configuration Files (\*.tec)] のままにします。
- [保存] ボタンをクリックして TEC ファイルを保存し、データファイルを作成します。

指定に従ってファイルが保存され、TEC ファイルで後から再利用できるようになります。  
生成されるテキストファイルは、他のアプリケーションを選んで使用できます。

# レポートの E-メール送信

---

## 第 6 章

### 6.1 E-メールの概要

レポートは、Microsoft Outlook や、SMTP メールサーバーを使用する組み込みの E-メールクライアントを使用して E-メールで送信できます。レポートは一度に 1 件ずつ送信できます。レポートの送信には次のいずれかの形式を使用できます。

- レポート（添付ファイルとして）
    - PDF
    - テキスト
    - Excel
    - HTML
    - TIF
    - RTF
  - データと結果
    - テキストデータ（および採点している場合は採点結果）を添付ファイルとして
    - テキストデータ（および採点している場合は採点結果）を zip ファイルとして
    - 数値データ（および採点している場合は採点結果）を添付ファイルとして
    - 数値データ（および採点している場合は採点結果）を zip ファイルとして
  - Remark Quick Stats (.rqs)（添付ファイルとして）
- **注：**レポートを E メールで送信する際に、レポートのローカルコピーは保存されません。レポートファイルを保存する必要がある場合は、E-メール機能とともに、その手順をかならず行ってください。

ある特定の形式にプロパティが対応している場合、E-メール用のファイルを生成する際にはソフトウェアのデフォルト設定が適用されます。E-メール機能を使用する前に、送付したいファイルの種類を決めてください。

Outlook と組み込みの E-メールクライアントのどちらを使用するかは、Remark Office OMR の基本設定で選択します（Remark Office OMR Data Center から [ツール | 基本設定]）。いったん設定を行うと、ツールバーボタンの [E-メールレポート] をクリックするか、または [ファイル] メニューから [E メール] を選択するだけで、E-メール処理を開始できます。

### 6.2 Outlook を使用したレポートの E-メール送信

Remark Office OMR を実行しているコンピュータのデフォルト E-メールプログラムが Outlook の場合は、それを使用してレポートファイルを E-メールで送信できます。Remark

内で Outlook をデフォルトのメールプログラムに選択するには、Remark Office OMR Data Center の基本設定で Outlook を選択してください。

### Microsoft Outlook を使用してレポートファイルを E-メールで送信するには

1. **Remark Quick Stats** でレポートを実行します。または、Report Batch ウィザードを作成して複数のレポートを実行します。
2. [ファイル] メニューから [E メール] を選択し、次にエクスポートするレポートのタイプを、レポート、テキスト/数値データ、Remark Quick Stats ファイルの中から選択します。レポート (PDF、XLS、テキスト、HTML、TIF、RTF) をエクスポートする場合は、ツールバーの [E メール] ボタンをクリックするだけで実行できます (このオプションはレポートの形式のみ表示します)。[テキスト/数値データ] を選択すると、ファイルをネイティブ形式で送信するか、ZIP ファイルとして送信するかを決定できます。
  - 注：発信元または送信先の会社 (団体) で、E-メールで送付できるファイルの種類に制限を設けている場合があります。このファイルが規制されている場合、Zip 形式にしなければ、E-メールが送り先に届かないおそれがあります。選択したファイル形式が規制対象かどうかははっきりしない場合は、ZIP オプションを使用してください。送り先には、ファイルを展開して表示するための Zip プログラムが必要です。
3. この次の操作は、手順 2 での選択内容に応じて異なります。

- レポートファイルの場合は [ファイル名] ボックスにレポート名を入力します。次に [タイプを指定して保存] ボックスで、使用するファイル形式を選択します。PDF、Text、XLS、HTML、TIF、RTF ファイルのいずれかを選択できます。



- テキスト/数値データ (および、採点中の場合は採点結果) の場合は [ファイル名] ボックスに名前を入力します。次に [タイプを指定して保存] ボックスで、データに使用する形式を選択します。テキスト/数値データを選択すると、ネイティブ形式を ZIP の添付ファイルとして送信できます。
- Remark Quick Stats ファイルの場合は、[ファイル名] ボックスに名前を入力します。Remark Quick Stats の添付ファイルの形式は変更できません。

4. [OK] ボタンをクリックします。
5. Outlook は、自動的に新しい E-メールメッセージを作成し、ファイルを添付します。ここで宛先と本文を入力して、ファイルを送信できます。Zip 形式を選択した場合は、.zip という拡張子が表示されるので注意してください。E-メール機能を使用している場合、このファイルは E-メールの添付ファイルとしてのみ保存され、コンピュータ上に保管用のファイルが作成されるわけではありません。

## 6.3 SMTP を使用したレポートの E-メール送信

Remark Office OMR には、SMTP (メール) サーバを使用して E-メールを送信する機能があります。まずサーバを設定し、その後レポートを E-メールで送信する際にカスタムメールウィンドウが表示され、送信する E-メールメッセージをカスタマイズできるようになります。Remark 内で SMTP サーバをデフォルトのメールプログラムに選択するには、Remark

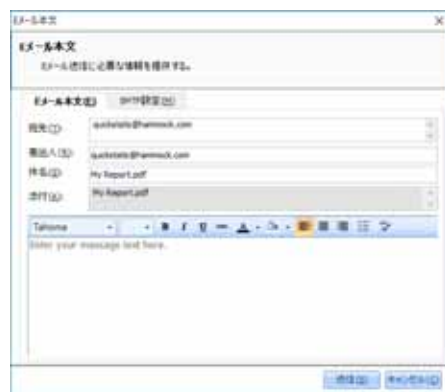
Office OMR Data Center の基本設定で SMTP サーバを選択してください。

### SMTP サーバを使用してデータファイルを E-メールで送信するには

1. Remark Quick Stats でレポートを実行します。または、Report Batch オプションを用いて複数のレポートを実行します。
2. [ファイル] メニューから [E メール] を選択し、次にエクスポートするレポートのタイプを、レポート、テキスト/数値データ、Remark Quick Stats ファイルの中から選択します。レポート (PDF、テキスト、XLS、HTML、TIF、RTF) をエクスポートする場合は、ツールバーの [E メール] ボタンをクリックするだけで実行できます (このオプションはレポートの形式のみ表示します)。  
[テキスト/数値データ] を選択すると、ファイルをネイティブ形式で送信するか、ZIP ファイルとして送信するかを決定できます。
  - 注：発信元または送信先の会社 (団体) で、E-メールで送付できるファイルの種類に制限を設けている場合があります。このファイルが規制されている場合、Zip 形式にしなければ、E-メールが送り先に届かないおそれがあります。選択したファイル形式が規制対象かどうかははっきりしない場合は、ZIP オプションを使用してください。送り先には、ファイルを展開して表示するための Zip プログラムが必要です。
3. この次の操作は、手順 2 での選択内容に応じて異なります。

- レポートファイルの場合は [ファイル名] ボックスにレポート名を入力します。次に [タイプを指定して保存] ボックスで、使用するファイル形式を選択します。PDF、テキスト、Excel、HTML、TIF、RTF ファイルのいずれかを選択できます。
- テキスト/数値データ (および、採点中の場合は採点結果) の場合は [ファイル名] ボックスに名前を入力します。次に [タイプを指定して保存] ボックスで、データに使用する形式を選択します。テキスト/数値データを選択すると、ネイティブ形式を ZIP の添付ファイルとして送信できます。
- Remark Quick Stats ファイルの場合は、[ファイル名] ボックスに名前を入力します。Remark Quick Stats の添付ファイルの形式は変更できません。

4. [OK] ボタンをクリックします。
5. E-メールメッセージのウィンドウが表示されます。
6. [宛先] ボックスに受信者の E-メールアドレスを入力します。複数の宛先に送る場合は、セミコロン (;) で区切ります。
7. [差出人] ボックスに返信先として使用する E-メールアドレスを入力します。
8. デフォルトの件名 (ファイル名) をそのまま使用するか、または [件名] ボックスに新しく件名を入力します。
9. リッチテキストボックスに、受信者に宛てたメッセージの本文を入力します。ツールバーを使用して、メッセージの書式を自由に設定できます。



10. Remark Office OMR で SMTP 設定をすでに行っている場合は、**[SMTP 設定]** タブをクリックする必要はありません。SMTP 設定をまだ入力していない場合や、設定を変更する必要がある場合は、**[SMTP 設定]** タブをクリックして SMTP サーバ情報を入力してください。内容は、ネットワーク/E-メール管理者に問い合わせてください。
11. メッセージを送信できる状態になったら **[送信]** をクリックします。
12. E-メールメッセージが自動的に送信されます。E-メール機能を使用している場合、このファイルは E-メールの添付ファイルとしてのみ保存され、コンピュータ上に保管用のファイルが作成されるわけではありません。配信に問題が生じた場合、そのメールは、E-メールメッセージの[差出人]ボックスで指定したアドレスに送られます(これは、SMTP サーバがメッセージ送信の失敗をどう処理するかという設定に応じて異なる場合があります)。



# Remark Quick Stats の基本設定

---

## 第 7 章

### 7.1 基本設定の概要

Remark Quick Stats の一般的な基本設定では、ソフトウェアの使い方をカスタマイズできます。使い方に合わせて基本設定を設定すると、レポートを早く簡単に実行できるようになります。実行するデフォルトのレポート、空白回答や **N/A**（該当なし）回答の処理方法、評価スケール、スケールスコアやその他の事項を設定できます。各オプションについては、ヘルプピックや左のリンクで詳細に説明しています。

**Remark Quick Stats の基本設定にアクセスするには**

1. **Remark Quick Stats** で、[ツール] メニューを選択してから [基本設定] をクリックします。
2. [基本設定] ウィンドウの左側にあるタスクペインから、基本設定の各カテゴリにアクセスして調整します。
3. [OK] ボタンをクリックして変更を保存します。

**Remark Office OMR Data Center から基本設定にアクセスするには**

1. **Remark Office OMR** で、[ツール] メニューを選択してから [分析]、[分析の基本設定] の順にクリックします。
2. [基本設定] ウィンドウの左側にあるタスクペインから、基本設定の各カテゴリにアクセスして調整します。
3. [OK] ボタンをクリックして変更を保存します。

### 7.2 Remark Quick Stats 基本設定 - 一般

一般の基本設定では、次のようなオプションを設定できます。

- デフォルトのレポートフォルダ（成果物を実行するために必要なネイティブレポートファイルを保存する場所）（通常は、このフォルダの位置を変更しない方が良いでしょう）
- 調査または評価操作を実行する時にデフォルトで実行されるレポート
- 欠測している値と **NA**（該当なし）を分析に含めるかどうか

#### レポートフォルダ

デフォルトレポートを格納する **レポートフォルダ**を設定します。ほとんどの場合、これはソフトウェアのインストール中に選択した場所に設定します。

## デフォルトのレポート

調査の分析またはテストの評価を実行する時に、毎回実行されるデフォルトのレポートを設定できます。このレポートをレポートバッチファイルにすることもできます。これは複数のレポートを同時に実行する場合に便利です。[デフォルトの調査レポート/バッチ]と[デフォルトの成績報告書/バッチ]の下で、デフォルトに指定するレポートを選択してください。

## 欠測した値と N/A 値の扱い

欠測した値とは、有効と見なされないデータです。言い換えると、欠測したデータとは、フォームテンプレート内での定義内容に一致しないすべてのデータということになります。欠測データには、たとえば空白 (BLANK) や複数 (MULT) の回答、フォームテンプレートで定義したラベルに一致しないテキスト入力（たとえば、ラベルが「Very Good」と定義されている場合に「very good」と入力した場合など）があります。欠損値をレポートに含める場合は、欠損値がいくつあったかを示す個別のラインが表示されます。

欠損値をレポートに含めない場合、これらの回答はレポートには、まったく反映されません。欠損値を含める場合は[アイテム統計に欠損値を含める]チェックボックスをマークします。次に、空白回答と複数回答を別々に表示するには、[空白の回答を各自のカテゴリに分割]と[複数の回答をそれぞれのカテゴリの分類]チェックボックスをマークします。これらのオプションを選択しない場合、空白回答と複数回答は、レポート上で（他の無効データとともに）1 行の「欠測」行の項目としてまとめられます。

また、NA 回答を含めるか除外するかも選択できます。フォーム上の質問に「NA (該当なし)」の回答選択肢があり、NA 回答を Remark Quick Stats の統計（平均値など）に含めたくない場合は、フォームテンプレートを作成する際に [NA ラベル] ドロップダウンリストから適切なラベルを選択します。次に、NA 回答を分析に含めるか除外するかの基本設定を行います。NA 解答は、選択レポートではグレーの斜体で表示されます（レポートプロパティでカスタマイズ可能）。[項目統計に NA 回答選択肢を含める] オプションを選択すると、NA 回答選択肢は統計分析の対象になります。[項目統計に NA 回答選択肢を含める] の基本設定をマークしない場合でも、NA 回答がいくつ選択されたかは表示されますが、それらの選択肢に対して統計分析は行われません。



## 7.3 Remark Quick Stats 基本設定 - 表示オプション

[表示オプション] ウィンドウでは、画面上でのレポートの外見をカスタマイズできます。次のオプションが使用できます。



オプション	説明
レポートページの背景色	各レポートの背景色を設定します。この色は表示専用です。
レポートのデフォルトズーム	各レポートのズームレベルを設定します。
複数回答 ID のデリミタ	レポートに対して複数の分析回答者 ID を指定した場合に使用するデリミタ（区切り記号）を設定します。分析回答者 ID は、そのフィールドのデータを使用してレポートを識別するために、フィールドベースで適用されます。分析回答者 ID は、フォームテンプレートまたは高度な採点/Survey でセットアップできます。ここで選択した項目は、分析回答者の ID と ID の間に表示されます（たとえば、カンマを使用し、分析回答者 ID として姓と名を指定した場合は「Doe, John」のように表示されます）。
レポートルーラを表示	各レポートの上にルーラを表示するかどうかを設定します。ルーラは表示専用です。
レポートの目次を表示	レポート内を移動しやすいように目次を表示するかどうかを設定します。
小数点以下の桁数	小数点の基本設定では、レポートのさまざまな部分での統計計算に使用する小数点以下の桁数を設定します。小数点以下の桁数は、最大で 4 桁に設定できます。小数点以下の数値は、配点、評価スケール、データエクスポート、ベンチマーク、重み（たとえば分析グループの重み付けなど）の各レポート属性に設定できます。どのレポートでも、小数点以下は 2 桁までしか表示されない点に注意してください。ただし、基本設定でそれよりも大きな桁数を指定すると、計算ではその桁数が使用され、計算がより精密に行われるようになります。

## 7.4 Remark Quick Stats 基本設定 - ベンチマーク

テスト評価のベンチマークの基本設定を使用すると、テストを採点する際にベンチマークのデフォルト値を設定できます。ベンチマークは、優秀である（または、ある題目をマスターした）と見なされるために必要な最低限のスコアを示します。ベンチマークを使用しない場合、またはそれを頻繁に変更する場合は、デフォルト設定をオフにした方が良いでしょう。デフォルトのベンチマーク設定を標準化したい場合は、テスト全体、テスト上の個別の問題、学習目標についてのデフォルトを設定できます。テストの評価を行う際に高度な採点でこれらの設定を変更すると、デフォルト設定よりもその採点操作の方が優先されます。ただし、デフォルトを設定すると、簡易採点を使用する場合でもベンチマークを活用できます。ベンチマークの値を設定する際は、数値を入力することも、評価しているテストのクラス平均値を（全体のスコアと学習目標に対して）使用することもできます。デフォルトのベンチマークを設定するには、適切なチェックボックスを有効にしてから、使用するパーセンテージをデフォルトとして入力するか、またはクラスの平均点をデフォルトのベンチマークとして使用するように設定します。

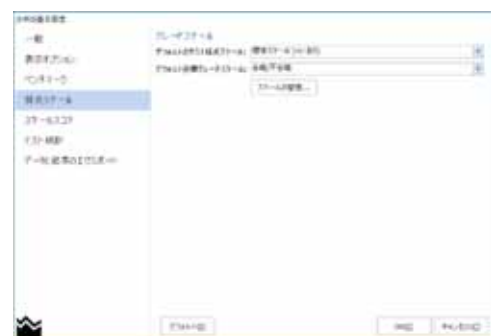


## 7.5 Remark Quick Stats 基本設定 - 採点ケール

「採点スケール」ウィンドウを使用すると、テストを評価する際に、テスト全体の評価スケールと学習目標のデフォルト評価スケールを選択できます。また、**Grade Scale Manager** にアクセスして、新しい評価スケールの作成や既存の評価スケールの編集を行うこともできます。基本設定で設定した評価スケールは、簡易採点の実行時に毎回使用され、変更しない限り高度な採点でも使用されます。また、評価スケールをインポート/エクスポートして、カスタム評価スケールを **Remark Quick Stats** の他のユーザと共有することもできます。

デフォルトの評価スケールを作成するには

1. Remark Quick Stats で、[ツール] メニューを選択してから [基本設定] をクリックします。
2. [デフォルトの] ドロップダウンリストを使用して必要なスケールを選択し、[OK] ボタンをクリックします。
3. 学習目標を使用する場合は、[デフォルト目標グレードスケール] ドロップダウンリストをクリックして必要なスケールを選択し、[OK] ボタンをクリックします。



- 注：高度な採点を使用して学習目標を定義する場合、各学習目標に対して異なる評価スケールを使用できます。

### 7.5.1 評価スケールの作成と編集

採点スケールマネージャーを使用すると、テストを評価する際に評価スケールの選択と管理ができます。これは、**Remark Quick Stats** の基本設定および高度な採点からアクセスできます。基本設定で設定した評価スケールは、簡易採点を使用する際に毎回適用されます。高度な採点を使用して、その回答キーに対するスケールを変更すると、評価スケールを一時的に無効にすることができます。高度な採点から評価スケールを更新しても、デフォルトの評価スケールが自動的に変更されることはありませんが、更新したスケールを回答キーファイルの一部として保存し、後から使用することはできます。

**Remark Quick Stats** の基本設定で採点スケールマネージャーを使用するには

1. **Remark Quick Stats** で、[ツール] メニューを選択してから [基本設定] をクリックします。
  2. 左のタスクペインで、**採点スケール**へのリンクを選択します。
  3. [スケールの管理] ボタンをクリックします。
  4. いずれかのオプションを選択します。
    - スケールを削除するには、リストからスケールを選択して [削除] ボタンをクリックします。
    - 新しくスケールを作成するには、[新規作成] ボタンをクリックし、スケール名と値を入力してから [保存] をクリックします。既存のスケールと類似したスケールを作成する場合は、既存のスケールをリストから選択し、[新規作成] ボタンで下向きの矢印をクリックして [コピー元] を選択します。次に、名前とスケール値を変更して [保存] ボタンをクリックします。
  5. 完了したら [閉じる] ボタンをクリックします。
- 注: 他の **Remark** ユーザと評価スケールを共有する場合は、[インポート] および [エクスポート] ボタンを使用して評価スケールをやり取りすることができます。



## 7.6 Remark Quick Stats 基本設定 - スケールスコア

スケールスコアは、生徒が試験で得た点数を、全体の中で数値により比較できるような共通の尺度を用いて換算した点数です。スケールスコアは、外部の採点システムからの特定の採点が必要とされる特殊な使用ケースを想定した高度な機能であると言えます。スケールスコアを使用すると、データベースを用いて、生徒が試験で得た点数を、素点またはパーセントスコアから、変換ファイル（データベース）で定義した他の点数に変換できます。換算点を使用する場合、全体の成績、客観評価点数、主観評価点数、または定義済みの学習目標点数を参照できます。2 種類の値を選択して二次元的な参照を実行できます。**Remark** から取得した値を変換（スケールスコア）テーブルで参照すると、適切なスケールスコアが返されます。スケールスコアを参照する際は、参照値（パーセントスコア、合計点またはパーセンテージ）が定義された数値範囲内に含まれるレコードをテーブル内で検索します。

スケールスコアを含むデータベースファイルは、Access、Excel、SQL Server、Oracle、

Paradox、dBase、ODBC 接続のいずれかになります。このデータベース内では、最小得点フィールドと最大得点フィールドを定義します。これらは特定の数値でも点数の範囲でもかまいません。データベース内の得点にはそれぞれ対応するスケールスコアのフィールドがあり、このフィールドが **Remark Quick Stats** に返されます。オプションとして、選択したレポートに対して、**Remark** が計算した評価の代わりに換算評価フィールドを含めることができます。最小値フィールドと最大値フィールドを、データベース内の同じフィールドに定義できます。この場合、参照する値は、返されるスケールスコアのフィールドの値と正確に一致していなければなりません。スケールスコアが見つからない場合、レポートにはダッシュ記号 (-) が表示されます。

また、精度オプションを使用すると、参照点数をユーザ定義による小数点桁数で丸めてからデータベース参照を実行できます。切り上げを行う場合、**Remark Quick Stats** は従来の切り上げ方法を用いて数値全体の切り上げまたは切り捨てを行います。たとえば、点数が **69.5** の場合は **70** に切り上げ、データベースでは **70** が検索されます。

スケールスコアを表示するレポートは、生徒統計レポート、生徒評価レポート、比較評価レポート、成績分布レポート、生徒の成果レポートおよび生徒回答レポートです。各レポートには、レポートスタイルペインに、スケールスコアを表示するかどうかを設定するようなプロパティがあります（プロパティはデフォルトでオンです）。レポートのスケールスコアヘッダは、参照データベースのカラムヘッダ名から直接取得されます。レポート上での表示が最適になるよう、この名前はできるだけ短い名前にすることをお勧めします。

テスト評価の際に [スケールスコア] ウィンドウを使用すると、テスト全体に対するデフォルトのスケールスコアと学習目標を選択できます。また、**Scaled Scale Manager** にアクセスして、スケールスコアの新規作成や、既存のスケールスコアの編集を行うこともできます。基本設定で設定したスケールスコアは、簡易採点の実行時に毎回使用され、変更しない限り高度な採点でも使用されます。

- **注：**学習目標に対するスケールスコアは、すべての目標に適用されます（学習目標別に異なるスケールスコアを使用することはできません）。

#### スケールスコアを設定するには

1. 以前にスケールスコアを作成したことがある場合には、基本設定のタスクペインにある **スケールスコアリンク** で、**[デフォルトのスケールスコア]** または **[デフォルトの目標スケールスコア]** ドロップダウンリストからそのスケールスコアを選択できます。
2. スケールスコアを新しく作成するか、または既存のスケールスコアを編集するには、**[スコアの管理]** ボタンをクリックします。
3. 新しいスケールスコアを作成する場合は、**[新規]** ボタンをクリックします。
4. **[スケール名]** ボックスにファイル名を入力します。
  - **注：**既存のスケールスコアを編集する場合は、スケールスコアをリストから選択した後、以下の説明を参照してください。
5. **[スケールスコアの基準]** で、参照する点数のタイプを合計点、パーセントスコア、パーセンテージの中から選択します。この点数は、外部ファイルの中で対応する点数を参照する際に使用する点数です。
6. オプションとして、点数を丸めたい場合は **[四捨五入したスコア]** チェックボックスをマークして、小数点以下の桁数を **[概算の精度]** ボックスに入力します。このオプションを使用すると、参照点数が最初に丸められ、次に、その丸めた値を用いて参照が行わ

れます。

7. **[1 番目のルックアップ基準]** ドロップダウンリストを使用して、参照する特定の点数を選択します。全体の点数、客観評価点数、主観評価点数、または定義したいいずれかの学習目標を選択できます。このプロパティは **Remark Quick Stats** に対して、換算点を検索する際に実際に参照する点数を示します。注：パーセンテージの参照を基本にする場合は、全体の点数と学習目標の点数のみ参照できます。
8. (オプション) 二次元参照を作成する場合は、**[2 番目のルックアップ基準]** ドロップダウンリストから二次参照基準を選択します。たとえば、主観評価と客観評価の両方の点数を参照して全体の換算点を生成したいという場合があります。
9. **[データベース]** ボタンをクリックして、外部データベースファイルへの接続を選択（または変更）します。
10. **[データベース選択]** エリアで、**[タイプ]** ドロップダウンリストを使用して、このフィールドに関連付けるデータベースの種類（Access、Excel など）を選択します。
11. **[参照...]** ボタンをクリックし、データベースファイルのある位置へ移動してファイルを選択します。
12. ファイルを選択して **[開く]** ボタンをクリックします（またはファイル名をダブルクリックします）。
13. **ODBC** 接続を使用している場合は、手順の 14-16 を実行します（この手順を完了するには、データベース管理者から特定の情報を得る必要があります）。それ以外の場合は、手順 17 に進みます。
14. オプション： **[DSN]** ドロップダウンリストからデータベースタイプを選択します。
15. オプション：適切なチェックボックスを選択して、データベースが **フォルダベース** か **DSN ベース** かを指定します。
16. オプション：データベースがパスワード保護されている場合は、**[ユーザ名]** および **[パスワード]** ボックスにログイン情報を入力してください。データベースがパスワード保護されていない場合は、この手順は必要ありません。注： **ODBC** を使用していない場合でも、データベースにパスワードが必要であれば **[パスワード]** ボックスを使用できます。
17. **[ルックアップとリターン]** セクションで、自動接続でない場合は **[データベースに接続]** ボタンをクリックして、データベースをフィールドにリンクします（**Remark Quick Stats** は、パスワードで保護されていないデータベースへ接続しようとするので注意してください）。
18. **[スケールスコアテーブル]** ドロップダウンリストを使用して、スケールスコアのフィールドを含むデータベース内のテーブルを選択します（**Remark Quick Stats** はデフォルトでファイルの先頭にあるテーブル/シートを選択する点に注意してください）。
19. 外部データベースから **[第一の最小スコア]**、**[第一の最大スコア]**、**[スケールスコア]**、およびオプションで **[スケールスコア評価]** フィールドを選択します。オプションの **[スケールスコアの評価]** フィールドは、評価（A、B、C など）を示す選択レポートで、





**Remark** が生成した評価を、データベースから取得した換算評価に置き換えます。これらのフィールドは参照と置換のための値を含みます。使用可能な項目は、参照項目の選択に応じて変わります。全体の点数、客観評価点数、主観評価点数、客観および主観評価点数、学習目標のいずれかを選択できます。

参照フィールドと置換フィールドを選択する際に使用できるガイドラインには、次のようなものがあります：

- 全体の点数、客観評価の点数、主観評価の点数のいずれかを一次元的に参照し、関係が 1 対 1 である(85 点がスケールスコアの 95 点に相当するなど)場合は、**「第一の最小スコア」**と**「第一の最大スコア」**に同じフィールドを選択します。
  - 全体の点数、客観評価の点数、主観評価の点数のいずれかを一次元的に参照し、点数の範囲を使用する（85～90 点がスケールスコアの 95 点に相当するなど）場合は、**「第一の最小スコア」**と**「第一の最大スコア」**に異なるフィールドを選択します。
  - 客観評価および主観評価を一次元的に参照し、関係が 1 対 1 である（客観評価の 85 点と主観評価の 10 点が換算点の 110 点に相当するなど）場合は、**「第一の最小スコア」**と**「第一の最大スコア」**に同じフィールドを選択します。次に、**「第二の最小スコア」**と**「第二の最大スコア」**に同じフィールド（ただし客観評価フィールドフィールドとは別のフィールド）を選択します。たとえば、**「第一の最小スコア」**フィールドと**「第一の最大スコア」**フィールドを客観評価点数、**「第二の最小スコア」**フィールドと**「第二の最大スコア」**フィールドを主観評価点数にします。
  - 客観評価および主観評価を二次元的に参照し、点数の範囲を使用する（客観評価の 85～90 点と主観評価の 5～10 点が換算点の 110 点に相当するなど）場合は、**「第一の最小スコア」**と**「第一の最大スコア」**に異なるフィールドを選択します。次に、**「第二の最小スコア」**フィールドと**「第二の最大スコア」**フィールドに異なるフィールドを選択します。たとえば、**「第一の最小スコア」**と**「第一の最大スコア」**で、**「スケールスコアのフィールド」**ドロップダウンリストを使用して、対応するスケールスコアを含むデータベースのフィールドを選択します。
20. (オプション) **「スケールスコアフィールド」**ドロップダウンリストを使用して、対応するスケールスコアを含むデータのフィールドを選択します。評価を示すレポートでは、この値はスケールスコアが使用されている場合に表示されます。気が変わった場合は、**「クリア」**ボタンを使用してこのオプションを削除できます。
21. **「保存」**ボタンをクリックしてデータベース設定を保存します。
22. 全体のスケールスコアのウィンドウに戻ると、データベース接続の詳細が表示されます。変更する必要がある場合**「データベース」**ボタンをクリックします。
23. **「閉じる」**ボタンをクリックして変更を保存します。
24. デフォルトのテストスケールスコアとデフォルトの目標スケールスコアとして、新しいスケールスコアが使用できるようになります。このいずれか、または両方のエントリとしてリストから選択してください。

今後、簡易採点を実行する際には毎回デフォルトのスケールスコアが使用されます。これは、高度な採点でも選択できます。今後スケールスコアを使用しない場合は、**「デフォルトのス**



ケールスコア] または [デフォルトの目標スケールスコア] ドロップダウンリストで [なし] を選択します。

スケールスコアのインポートとエクスポートもできます。たとえば、他の Remark ユーザが作成したスケールスコアを使用したい場合、このウィンドウからインポートできます。同じように、自分で作成したスケールスコアをエクスポートして他の Remark ユーザに提供することもできます。

## 7.7 Remark Quick Stats 基本設定 - テスト統計

テスト統計ウィンドウでは、分散統計情報を計算するために認められた 2 種類の方法のうちいずれかを選択できます。この設定では、計算の分母として N (実際のテスト数) と (N-1) のどちらを使用するかを選択できます。使用する値を選択して [OK] をクリックすると、アクティブなレポートが再度実行されます。

この分配要因は、要約テストレポートに適用されます。このレポートでは、生徒の上下何割かが各質問にどのように回答したかがわかります。たとえば、分配要因として 30 パーセントを選択した場合、統計情報はクラスの上位 30%と下位 30%に対して計算されます。

客観問題に部分評価を割り当てる場合、基本設定での部分正答の扱いが適用されます。多くのレポートと統計情報は、正しい質問と誤った質問を計算します。この設定を使用して、部分評価を正答または誤答として処理した質問をカウントするかどうかを決定します。



## 7.8 Remark Quick Stats 基本設定 - データと結果のエクスポート

データと結果のエクスポートの基本設定では、データをエクスポートするかどうか、またレポートデータをエクスポートする際に、どの統計情報をエクスポートするかを設定します。ここでは、Remark Quick Stats に対し、どの統計情報をファイルに含めるかを指定します。次のオプションが使用できます。

- 回答キー
- データ
- 回答者 ID
- 偏差 IQ
- ETS スコア
- 評価
- 正答数
- 誤答数
- 欠測数



- すべて誤答
- 空白数
- 複数回答数
- 客観評価のスコア
- パーセンテージ
- パーセントスコア
- 主観評価のスコア
- 合計点
- T スコア
- Z スコア
- スケールスコア
- 特別課題